

(1) - 3 株式会社天煌堂	女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい時代を実現する『TOTONOEERU®(トトノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業 Ver. 1』	令和4年度
事業テーマ：月経・PMS、産後ケア、その他 我々が解決してこうします TOTONOEERU 居心地よい環境 1 女性の健康課題 当初予定より追加検証 PMS・生理痛・更年期を 電気が出る3e-HARAMAKIを着るだけで イマイチな時間と対処方法の課題を解決！  居心地よい環境 2 女性の働く環境課題 社員の脳と話そう。  ノウセツで自分と相手を知り コミュニケーションをととのえる 3e-HARAMAKIの概要 TOTONOEERU 充電不要の圧力や振動、温度変化のエネルギーを負電位に変換する腹巻き    約-200Vの電位を確認		

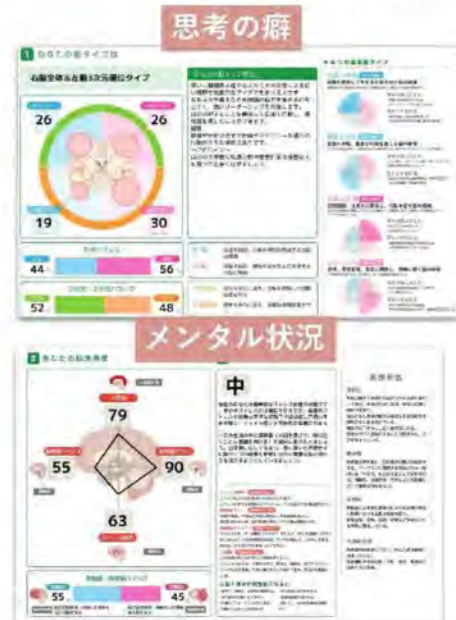
ノウセツの概要

思考のクセとメンタル状況を可視化



▶ 5分～10分の設問に直感で回答 》 》 》

▶ 脳医学の技術で脳を分析



協力企業にて実施頂いた内容

1企業あたり3ヶ月間と設定。Before/Afterをアンケートやノウセツにて測定。
※更年期症状の検証は1ヶ月間。

事前調整

- ・企業担当者への趣旨説明
- ・窓口担当者への設定
- ・協力者の調整
- ・STEP0の日程調整



STEP0

- ・協力者向け趣旨説明
- ・連絡用公式LINE登録

(オンラインでの説明)

STEP1までに
ノウセツ登録



STEP1 (開始)

- ・ノウセツセッション
- ・PMS・生理痛アンケート
- ・3e-HARAMAKI配布

(リアルでの集合研修)



STEP2 (3ヶ月後)

- ・ノウセツ登録
- ・PMS・生理痛アンケート
- ・データ集計



(1) - 3 株式会社天煌堂	女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい時代を実現する『TOTONOERU®(トトノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業Ver.1」	令和4年度
--------------------	---	-------

実証事業の成果

TOTONOERU

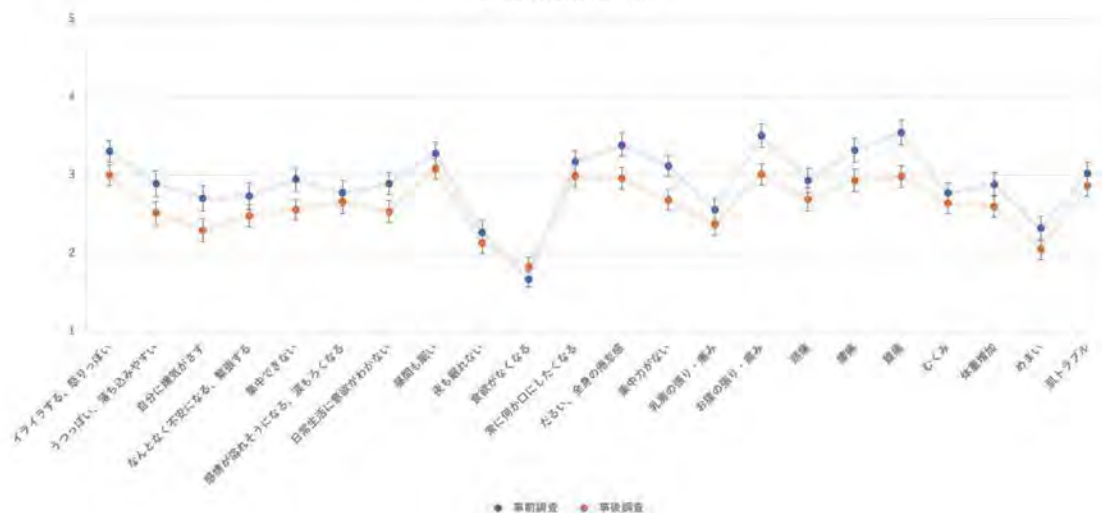
- 1 TOTONOERUの開発
3e-HARAMAKI、ノウセツの活用方法のブラッシュアップ
- 2 協力企業の開拓と実証
11社の多種多様な企業・団体にて122サンプルの導入効果を確認
- 3 今後の展開
論文化や研修サービスとの連携など広げていくことができる

PMS・生理痛症状について①

TOTONOERU

利用前後の症状の変化を計測。全体的に改善傾向の数値を確認。

症状別の変化 (n=75)



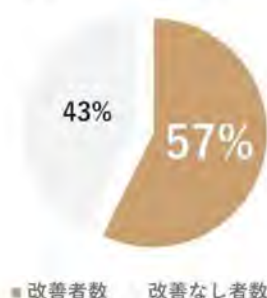
(1) - 3 株式会社天煌堂	女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい時代を実現する「TOTONOEPU®(トトノエル)」を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業Ver.1」	令和4年度
--------------------	---	-------

PMS・生理痛症状について②

TOTONOEPU

PMS・生理痛の症状が生活に支障を来す時間の変化は57%が減り
平均で月に79.3時間減少しています

対象N数	改善者数	改善なし者数	改善割合	改善者内		
				改善平均時間	改善中央値	最大減少値
75	43	32	57.3%	-79.3	-48	-312



福岡県飯塚市役所のデータ

TOTONOEPU

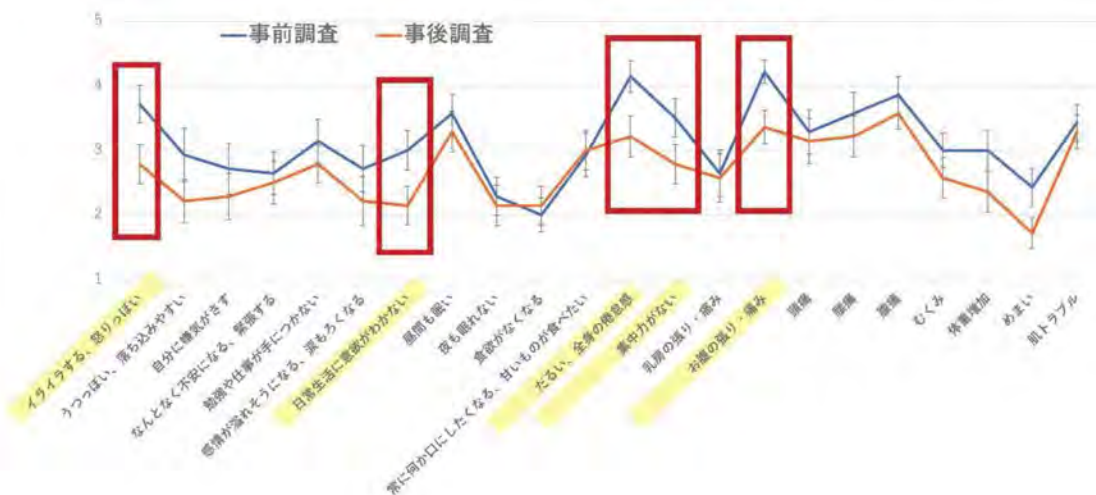
福岡県飯塚市役所での実証実験データ

	事前			事後	
	参加者数	アンケート	ノウセツ	アンケート	ノウセツ
PMS・生理痛	19	18	19	13	19
		(95%)	(100%)	※2/15時点 (72%)	(100%)
管理職			4		

PMS・生理痛症状について①

TOTONOEPU

利用前後の症状の変化を計測。全体的に改善傾向の数値を確認。

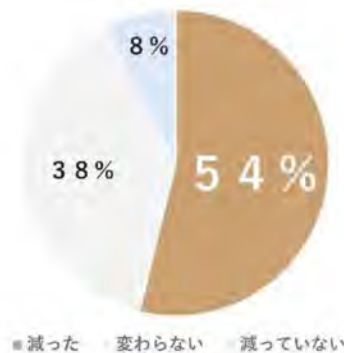


PMS・生理痛症状について②

TOTONOEPU

PMS・生理痛の症状が生活に支障を来す時間の変化は54%が減った

1ヶ月のうち、PMS・生理痛の症状が生活に支障を来す時間は減りましたか？



「減った」方の中で

**240時間→60時間
最大180時間 / 月が減少**

(1) - 3 株式会社天煌堂	女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい時代を実現する『TOTONOCERU®(トトノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業Ver.1』	令和4年度
--------------------	--	-------

定性フィードバック(例)

TOTONOCERU

該当者へインタビューし、ライフスタイルや症状の改善や機能性の状況を確認

【利用前】

■年代・生活リズム
起床時間 7:00 就寝時間 1:00~2:00
勤務時間 8:30~23:00
■生理痛症状
貧血からくる頭痛
整理期間中はじんわりずっと痛い
■PMS症状
イライラする
直前はとても怒りっぽい
些細な事で怒る
眠い
■対処方法
ロキソニンとかバファリン
■仕事への影響
フルタイムで仕事してるので同じコンディションで仕事で
きたら
1日目・2日目は必ずパフォーマンス低下
半日ぐらいは何も出来てないな
重い仕事は入れないようにしてきた

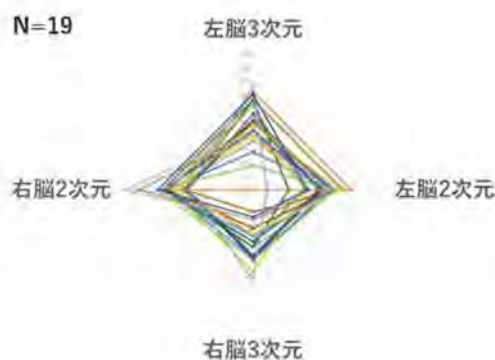
【利用後】

■3e-HARAMAKIの利用方法
お風呂以外は巻いていた、暑い時期でも不快なく毎日利用
■解決された悩み・感想
・体調もメンタルも上向き
・生理期間中は体調良かった
・安心感があり症状が悪化しない
・暑い日も寒い日もずっと付けてたい
・すごく気に入っていた
・頭痛もそこまで酷くならず、起きない日もあった
・2日目も酷かったあってもちょこっと、気配もなく
・PMSも安心感に包まれていた 気分も落ち込まない
■商品の良さ
・丈が胸元までであるのが最高
・ロングで上までであると安心感が凄い
・薄くても機能が果たせる製品で良い
・洋服に響かない
・洗濯してもへたらない

ノウセツ 思考のクセ(1組織サンプル)

TOTONOCERU

相手を中心に捉え、詳しい情報処理を行う2次元バランスであり
左脳全体&右脳2次元の優位タイプが多い傾向。
3ヶ月間では左脳3次元から左脳2次元に変化。



【組織の思考のクセ詳細】

感情をベースに過去の出来事を記憶するタイプです。物事の判断において、なぜやるのか、具体的に何をするのか、どうしたら結果に結びつくのか等合理的思考であり、プロセスと結果を両方重視する傾向があります。大きな環境の変化は望まずリスクヘッジを考慮する上で行動していくので、リスクの大きいチャレンジはせず、どちらかといえば現状維持や現実的にイメージしやすい方法を選択する傾向があります。また常に結果を求めて行動する中でも周囲の人がどんな反応をするのかどんな気持ちになるのか等、相手の立場に立った判断も考えます。目標設定においては、1つ設定し達成までを逆算した考え方で設定すると効果的です。複数目標を掲げると全てが中途半端になってしまう可能性が高いです。

事業テーマ：更年期

株式会社YStory ミッション・ビジョン

ヘルシーリテラシーの向上に向けて、最先端な技術やポジティブ・エイジングの解決策を提供。女性健康のプラットフォームを実現することで大人の女性も素晴らしい人生ストリートができるように価値提供したい。



Understanding & Self-caring

- ・ 女性のヘルシーリテラシーを高め、自分の体を理解・管理することに価値提供したい
- ・ 更年期の各症状を管理することを日常ルーティンに変えたい



Science & Technology

- ・ 最新のメディカルサイエンスを活かして、女性健康に価値提供したい
- ・ 最先端のテクノロジー技術を活かして、女性健康に価値提供したい



Positive Aging

- ・ ポジティブ・エイジングの実現に向けて、効果のある解決策を探索し、世の中に提供することを目指す

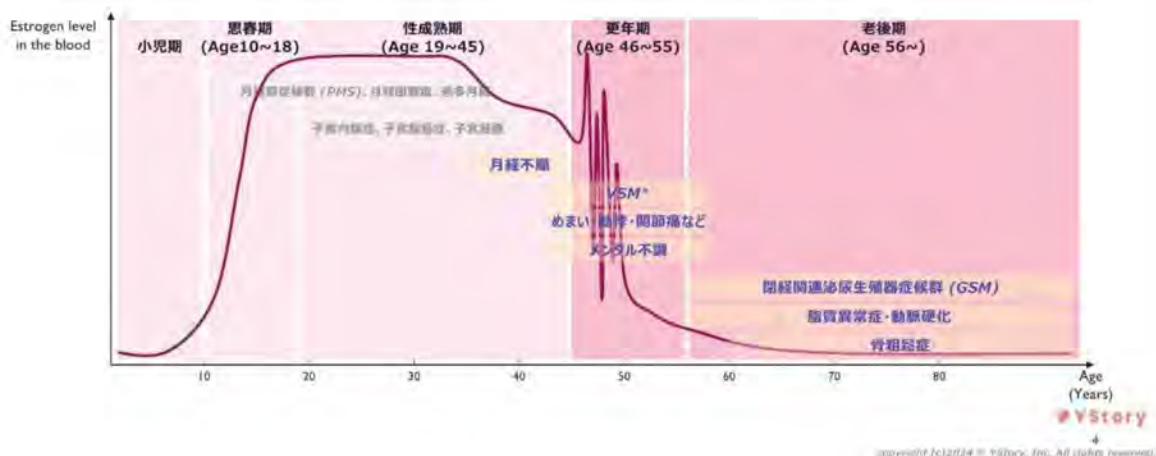
YStory

Copyright © 2024 YStory, Inc. All rights reserved.

女性健康における更年期の重要性について

40代より女性ホルモンであるエストロゲンが低下し始める。更年期では月経不順となり閉経を迎え、ホットフラッシュなどの更年期症状が出現。老年期の健康課題に対する予防の観点でも重要なライフステージとなる。

Hormone(Estrogen) changes with women life stage



YStory

Copyright © 2024 YStory, Inc. All rights reserved.

(1) - 4 株式会社 YStory	更年期デジタルヘルスケアアプリ	令和5年度
------------------------	-----------------	-------

事業概要・目的

本実証試験にて、AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のセルフケアアプリを用いて、データ収集・効果検証を実施し、エビデンスのある更年期デジタルソリューションを開発・提供することを目指す。

事業概要・目的

背景と概要	- 更年期ステージにある女性人口(35～65歳女性)は2400万人¹であり、そのうち、更年期に離職する女性は毎年46万人²にも及び、その経済損失は年間4200億円²にのぼります。 - 更年期症状に苦しむ女性は、その診断及び適切な治療法を見つけるためのプロセス、および継続した通院に大きな時間的・心理的負担を要しています。 - また、更年期の不定愁訴の症状は多岐にわたることから自身の症状管理や変化の把握、ならびに情報収集は容易なものではなく、35歳以上の女性の健康実現のためのサポートが全般的に不足しているのが現状です。
実証試験目的	- AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のデジタルヘルスケアアプリ『JoyHer』(特許出願中、旧称HerLife)を通じて更年期症状がある方のヘルスケアに特化したサービスを提供します。 - 当アプリには症状の記録および、個別化されたヘルスケアのアドバイスを受ける機能が含まれております。またヘルスケアのアドバイスの詳細の例としては、医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援等がございます。 - 当サービスを通じ、我々はより多くの女性たちの身体的・心理的症状の改善と、一層ポジティブで健康的な生活の実現を目指しています。

Source: YStoryより引用
¹ 国立社会保険・人口動態研究所日本の将来推計人口(全国)より推計
² YStory「更年期健康」事業紹介資料「更年期経済損失も顕著に増加」

© YStory 2024. All rights reserved.

実施体制

YStoryを代表団体として本取り組みを進行しており、医学的知見の提供などは京都大学医学部附属病院 産科婦人科女性健康医学研究室において実施。以下のような参加団体を構成する。

参加団体概要



© YStory 2024. All rights reserved.

実施項目とスケジュール

2023年7月から開発をはじめ、現時点ではすべての実施項目が予定通り完了した。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施項目1 ソリューション開発	YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室								
実施項目2 フィールド募集・ 適格者選定		特定非営利活動法人 健康づくり0次クラブ							
実施項目3 ソリューション提供				YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科女性健康医学研究室 (一般財団法人 滋賀保健研究センターは一部活動参加)					
実施項目4 検証結果の分析							YStory & 京都大学医学部 附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室		

本日
copyright (c) 2024 © YStory, Inc. All rights reserved.

実証試験の達成状況の報告(1/2)

7月から京都大学との共同研究より、試験用デジタルソリューションを開発完了。
8月から試験募集の準備を開始し、9月～10月にて適格基準者を募集済、現在試験中となる。

実施項目1 ソリューション開発



- ✓ 京都大学との共同研究で、**医師側ソリューション**、**ユーザー側ソリューション**のすべてを開発
- ✓ 試験開始後も、トラブルなく順調に使用されている

Source: 介入3か月のデータよりYStory分

実施項目2 フィールド募集・適格者選定



- ✓ 8月より試験参加者の募集を計画的に開始
- ✓ 9月～10月にて、特定非営利活動法人健康づくり0次クラブより**994名以上**の対象者に本ソリューションを案内し、**213名の試験参加者の登録**があり、**このうち92名の適格基準者**を選定した

YStory
10
copyright (c) 2024 © YStory, Inc. All rights reserved.

実証試験の達成状況の報告(2/2)

10/15~1/15まで合計3か月にてアプリによる介入を実施した。92名参加者の継続率は94.6%。
合計2.7万+トラックレコードのデータに基づき、詳細結果は今後国内外論文発表より一般公開。

実施項目3 ソリューション提供



- ✓ 医師は更年期の対策や健康指導をアプリ経由で行う。
- ✓ サーバースystemにてアルゴリズム処理を行い、医師へリアルタイムで各種情報を提供。
- ✓ 試験参加者はアプリ経由でセルフケアを実施。

実施項目4 検証結果の分析

2.7万+
track data



学術論文
発表予定

- ✓ 10/14~1/15までの3か月にて、92名参加者のうち1名が携帯設定より参加不可となった。また、5名脱落発生し、残り合計87名は継続利用。
- ✓ 合計2.7万+レコードのデータを取得でき、詳細分析を今後国内外の論文発表より一般公開。

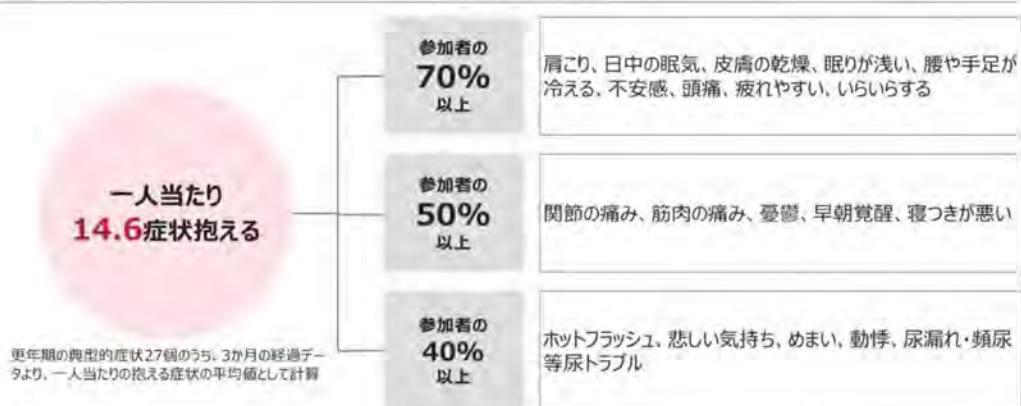
Source: 10/15~1/15までのデータよりYStory算出

#YStory
11
Copyright © 2024 Y Story. All Rights Reserved.

女性更年期の症状傾向について

試験参加者のうちの多くは、多数症状が発生する傾向があり、一人当たり抱える症状個数が14.6となる。カラダ、ココロ、睡眠、皮膚問題、デリケートゾーンなど種類があり、個人差も存在。

症状傾向について



Source: 掲載文章40~55歳、当院で診察されている患者、試験参加者を対象としたアンケートよりYStory算出

#YStory
12
Copyright © 2024 Y Story. All Rights Reserved.

実証試験の結果概要

試験参加者92のうち、3か月時点で87名が事後アンケートに回答し、継続率94.6%を維持。
介入3か月後、72人が更年期症状の改善報告があり、26人は治療介入不要レベルへ改善。

3か月前後比較の介入結果



*1 介入3か月後のSMTスコアより検定を棄却した結果となる。
*2 介入3か月後のSMTスコア<2%に更年期を過ごしています。これまでの生活態度を続けていよう。の人数より集計。
*3 試験参加者のうち、雇用形態が正社員と契約社員・嘱託社員のサンプルより総計プレゼンティズムより計算。

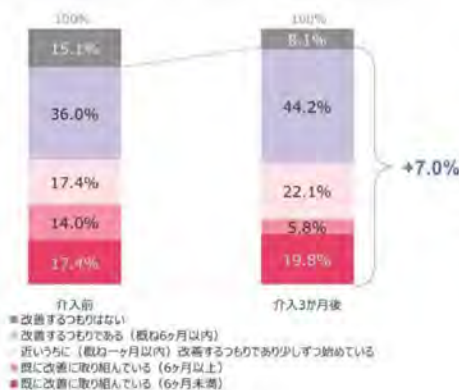
YStory
13
Copyright (c)2024 YStory, Inc. All rights reserved.

行動変容ステージについて

アプリ内のヘルシーリテラシー向上のコンテンツを通じて、行動変容ステージは+7%向上できた。
今後は、更年期に関する個々の悩みにパーソナライズされた価値提供を目指す。

行動変容ステージの3か月前後比較

Q：運動や食生活などの生活習慣等を改善してみようと思いますか



Source：介入3か月前後のアンケート結果よりYStory分析。

- アプリのプログラム内では、ヘルシーリテラシー向上のために、京都大学産婦人科の専門家チームより作成したコンテンツを提供している。更年期に各症状の原因解説、セルフケア実践方法などを包括的に利用者へ提供し、利用者はマイベースで閲覧でき、日々のセルフケアの実施強化をサポートする。
- 3か月のアプリ介入の結果として、使用後と比較して全体的に7%の行動変容の向上効果が確認できた。特に、「改善するつもりである（概ね6か月以内）」の回答者は36.0%→44.2%、+8.1%増えた。
- 本プログラムの意義として、従来の全員共通で開催する更年期知識のセミナーやヘルシーリテラシー勉強会の代替手段として作成され、更年期に関するより個々の悩みに集中した、人の介入せずに広範囲に展開できるソリューションを目指す。

YStory
14
Copyright (c)2024 YStory, Inc. All rights reserved.

京都大学産婦人科が本事業に寄せる期待および本試験の評価

江川先生より「今後もひきつづき、更年期女性の自律的セルフケア能力を高めるデジタルソリューションの開発に取り組む」と評価し、今後の共同研究活動より更年期・女性健康の新しい診療体験を創出。

江川美保先生よりのコメント・評価



江川美保 MD PhD

京都大学大学院医学研究科
婦人科学座 助教

日本産科婦人科学会
認定専門医・指導医

日本女性医学学会
認定女性ヘルスケア専門医・指導医

1994年京都大学卒業
2005年医学博士取得

- 2010年に京都大学病院産婦人科に「ヘルスケア外来」を開設。専門は月経前症候群(PMS)、更年期障害など
- ホルモン療法・漢方療法・栄養指導などを統合し、女性の心身両面にアプローチする診療を実現
- PMS（月経前症候群）のための症状記録アプリ開発の経験あり
- 日本女性医学学会の幹事として、更年期の社会啓発活動や学会ホームページ管理などを担当

- 多彩な更年期症状への適切な対処としては、本人の**更年期に関する正しい理解とセルフケア**が第一に重要となる。**適切な医療とのつながりをもつこともセルフケアの一環となる。**
- 現状の忙しい診療現場では、具体的なセルフケア方法の指導は行き届きにくいし、**体系的な指導体制はほとんど存在しない。困っている未受診の方へのアプローチも必要である。**
- 漠然とした「更年期だから仕方ない」という諦めは残念すぎる。より心地よく過ごせる方法があることをひとりひとりに伝え、励ましたい。
- 今回の試験結果では、**薬物治療なしで多くの方の症状が改善したということはとても喜ばしいこと。**
- 今後は**アプリによる介入が、どのような方・どのような症状により有効なのか、また薬物治療と組み合わせた介入効果などについて検討したい。**
- 健康の土台を整え医療を補完するデジタルソリューション開発に挑戦する。**

Source: 京都大学産婦人科江川美保先生によるコメントを転載。

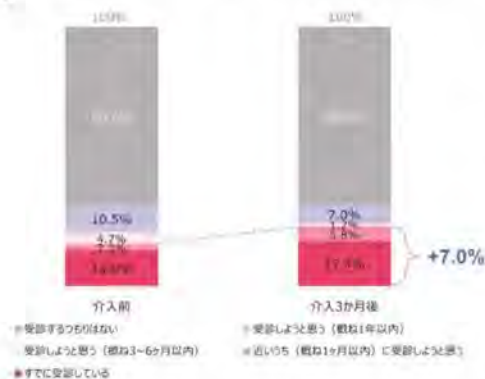
Copyright © 2024 © YStory, Inc. All rights reserved.

女性の更年期健康ケアにおける課題と対応策

アプリによる3か月の介入効果として、セルフケアの実践と伴い、受診促進として7%の効果が見えた。依然として7割は「受診するつもりはない」、アプリによる重症化の予防対策は重要と考える。

現状の更年期健康ケアに関する課題と対応策

Q: 更年期の心身の不調について医療機関を受診してみたいと思いますか？



- 医療機関への受診促進は7%増加
3か月のアプリ介入の結果として、参加者の17.4%は「すでに受診している」、5.8%は「近いうち (概ね1か月以内に受診しようと思う)」となり、医療機関への**受診促進は7%の向上効果が見えた。**
- 「受診するつもりはない」は依然として7割程度
今後の対応策として、セルフケアのデジタルソリューションより、
①更年期や女性健康に関するヘルシーデラシーを高める**プログラム**を提供。
②診断データなどを用いて、遠隔でもセルフケアを実践できる**よう行動促進を強化、重症化の予防対策を提供。**
- セルフモニタリングは不可欠な要素として必要
今後はアプリによるホルモンバランスのダイナミクスを捉えるソリューションの提供を継続検証。

Source: 介入3か月後アンケート結果よりYStory作成。

Copyright © 2024 © YStory, Inc. All rights reserved.

今後の事業展開

今回の実証結果・蓄積したデータを基に、女性更年期などのWomen Health Platformを開発し、更年期女性・医療現場側に有効性・利便性の高いデジタルソリューションの提供を目指す。

実証試験サマリ

更年期Digital Healthアプリの3か月の実証試験より、

- ・ **継続使用**：継続率は3か月間にて**94.6%**となり、一定継続者が存在。
- ・ **改善効果**：サービス開始3か月後、**72人改善あり** ($p<0.05$)、**26人が治療介入不要レベルへ改善**。
- ・ **プレゼンティーズム**：介入前62.5%→3か月後69.3%に上げて、**+6.8%改善**。

今後の事業展開



Source: 株式会社YStoryの調査結果。YStory改訂。

© YStory 2024. All rights reserved.

(2) 医療機関等

(2) - 1 医療法人葵鐘会	産婦人科による働く女性の健康やライフイベントに伴う悩みや不安に関するオンライン相談事業	令和3年度
--------------------	---	-------

事業テーマ：月経・PMS、妊娠・不妊、産後ケア、更年期、婦人科疾患、ヘルステラー、その他

CONFIDENTIAL

1. 事業計画

実施目的

産婦人科・医療法人葵鐘会による、質が担保された医療相談サービスをB to Eで展開し、中部エリアでの事業拡大、中部エリアから各地域へ横展開していく契機とする

1. 働く女性のライフイベントに起因する望まない離職の防止
2. 働く女性のウェルビーイングの実現
3. 企業の人材の多様性を高め、中長期的な企業価値向上

実施事項

セントレアで働く500名の女性従業員に対して、オンライン医療相談サービスを提供する

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prj@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

1. 事業計画

ベルネットオンライン

オンラインで働く女性限定

原なしのZoomでもOK!

働く女性の悩みを 看護師・助産師に 相談できます

相談したくても仕事やご家庭の予定でなかなかタイミングがつかめない。
そんな女性の為のオンラインサービスです。

※相談内容は厳重に守ります。また、必ず医師の診断が必要です。

2021/8/1 - 2022/1/31

予約時間 9:00-18:00 (土曜日も受付)

このようなご質問に対応しています

- ① 生理やおりものについて疑問をお解りの方
- ② 経痛相談やお悩みの方
- ③ 生理周期の不調でお悩みの方
- ④ 妊娠中の痛みでお悩みの方
- ⑤ 生理痛でお悩みの方
- ⑥ 更年期障害でお悩みの方
- ⑦ 病院で受けるべきかお悩みの方

ベルネットオンラインの特長

- ① 専門家が対応
産婦人科医・助産師に所属する医師・看護師が対応します
- ② 1回30分 何回でも無料
ご自身の悩みについて、何度でもご相談いただけます
- ③ 完全予約制
来月以降まで、相談したい日時も希望が実現しやすいです

ご利用までの流れ

- 01 QRコードにアクセスし、会社コード(C0591)を入力する
- 02 予約サイトでお好みの日時を選択する
- 03 当日オンラインにて、助産師と相談していただきます

セントレアへの告知リーフレット

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prj@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

3. 本事業の成果と課題

対応件数 38

月曜日から土曜日（9時～18時迄） 相談1時間前まで予約受付
1回30分の相談。終了後にアンケート協力

月	人数
8月	9
9月	5
10月	10
11月	4
12月	4
1月	6
計	38

年齢層	人数
20代	13 (34%)
30代	17 (45%)
40代	6 (16%)
50代	2 (5%)

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved

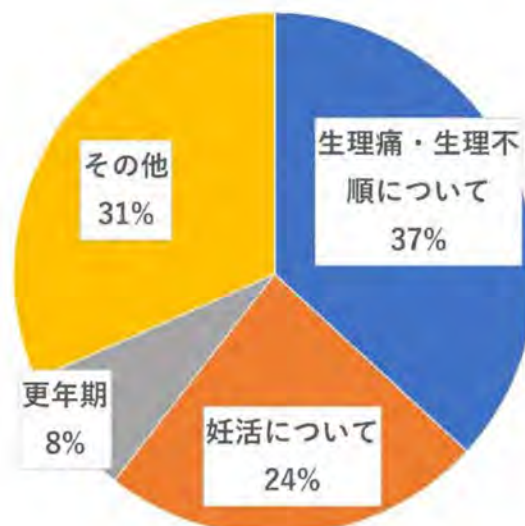
CONFIDENTIAL

3. 本事業の成果と課題

相談内容

カテゴリ

- ・生理痛・生理不順
- ・妊活
- ・妊娠中の生活
- ・更年期
- ・その他



PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved

CONFIDENTIAL

具体的な相談内容

項目	相談内容
生理痛 生理不順	□ 生理前のイライラ・落ち込み・頭痛、生理痛（腹痛）がひどい □ 生理前～生理中の体調不良やメンタルダメージについて適切な対処法 □ 他人と比較して出血量の多さが分からない □ おりものが比較的に多い □ 生理の間隔が開いてきた。更年期かどうか □ 不規則な勤務体系により、生理痛はひどくなることはあるのか

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

具体的な相談内容

項目	相談内容
妊活	□ 不妊治療時のメンタルの保ち方 □ 現在の通院病院からの転院について □ クリニックの選び方 □ 人工授精から体外受精への移行タイミング □ 肥満度と妊娠率の関係について □ ストレスがどう妊娠率に影響するのか □ 妊活をする上で生活習慣で気を付けること □ 基礎体温の乱れや不正出血について

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

具体的な相談内容

項目	相談内容
更年期	□ 更年期の症状全般 □ 疲れやすく、関節の痛みや気持ちの落ち込み
その他	□ めまい、だるさについて □ 服用している薬について □ 睡眠の質低下による体調不良 □ 子宮内膜症について

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

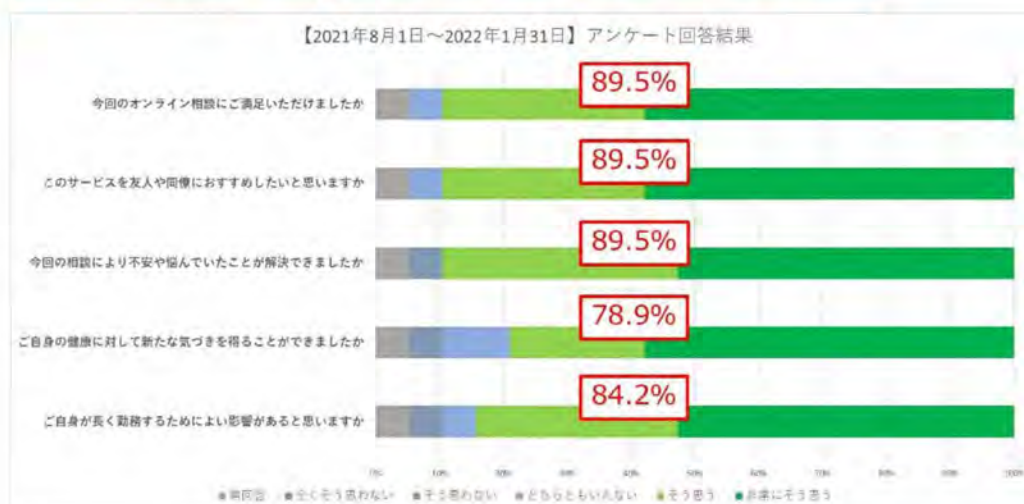
CONFIDENTIAL

3. 本事業の成果と課題

女性従業員の視点

高い満足度

実施後、意識変容もみられた



PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved.

CONFIDENTIAL

3. 本事業の成果と課題

導入企業の視点

望まない離職防止の解決策になりうる

セントレア総務部人材開発グループへ聞き取り調査を実施した。

オンライン医療相談の高いニーズ

利用しなかった従業員85名にアンケート調査を行った。73名（96%）が今後、時間・環境が許せば必要に応じて利用したいと回答した。

望まない離職の防止に資するサービスであるがあくまで選択肢のひとつ

望まない離職の理由は多様で複合的であるため、企業として様々な選択肢を用意する必要がある。常駐している保健師や産業医との棲み分けを明確にする必要もある。

従業員への周知が課題

全従業員に行ったアンケートの回収率が17%と低かった。

11

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved

CONFIDENTIAL

4. 今後の事業展開

新規性を付加

ウェアラブル胎児モニタ

家庭 妊産婦



遠隔監視
オンライン相談

- ① 自分で手軽にコンパクト超音波検査機器により、赤ちゃんを観察
- ② CTGにより、赤ちゃん心音や子宮収縮をモニター（自己分析装置付き）
- ③ 血圧計＋蛋白尿、浮腫により、PIH（妊娠高血圧症候群）の早期発見

左記の妊婦データの定期チェック、異常波形の相談などに応用

利点

医師による妊婦健診の合間に、簡単な妊婦健診を毎日自宅で行うことができる

- ① 異常妊娠の早期発見
- ② 直視下に日々児の観察ができ、自ら母児の愛着形成に有効

医療機関



14

PRESENTATION NOTE FOR MEETING | For more information regarding this file prd@kishokai.jp

Copyright © KISHOKAI MD.CO All Rights Reserved

事業テーマ：月経・PMS、更年期、婦人科疾患、その他

事業計画（事業目的と実施事項）

Femline Kagoshima

目的
1

フェムテックや女性の健康課題に関する現状調査と把握
ー管理職、女性従業員の意識調査の実施ー

目的
2

医療機関受診前に医師に気軽に相談できる場を提供し
課題解決や病気の予防・早期発見につなげる
ー医師による法人向けオンライン健康サービスの実施ー

目的
3

オンライン健康相談利用の場を設けることでサービスの潜在需要や
利便性を調査し、可視化される課題への対策・改善につなげる
ー今後の事業展開の検討ー



2

事業計画に基づき実施したこと①

Femline Kagoshima

協力団体6社の管理職・女性従業員への意識調査アンケート

◆目的

鹿児島県の有業者に占める女性の割合は46.7%で全国4位である一方、管理的職業従事者に占める女性の割合は12.4%と全国38位（※）。鹿児島で働く女性の健康課題の実態をつかむべく、協力団体6社の管理職・女性従業員にアンケートを実施。

※出店：令和2年度「鹿児島県の男女共同参画の現状」（鹿児島県）

https://www.pref.kagoshima.jp/ab15/kurashi-kankyo/jinken/danijokyodo/documents/60559_20210623152940-1.pdf

◆調査概要（女性従業員）

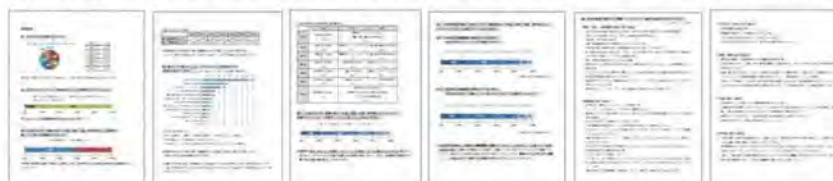
調査対象：フェムラインかごしま実証事業協力団体で働く10代～70代の女性 5,700人

回答数：1,175人（回答率20.6%）

調査手法：オンライン・アンケート用紙回答併用

調査期間：令和3年10月8日～11月19日、令和4年1月12日～1月24日

◆結果レポートについては県記者クラブならびにホームページ「お知らせ」にてリリース予定



3

(2)-2 社会医療法人 博愛相良病院	法人向けオンライン女性健康相談サービス「フェムラインかごしま」実証事業	令和3年度
------------------------	-------------------------------------	-------

事業計画に基づき実施したこと②

Femline Kagoshima

医師による法人向けオンライン健康相談サービス（WEBプラットフォーム）

対象団体：協力団体6団体（銀行、百貨店、人材派遣業、菓子業、ホテル・旅館業、自治体〈鹿児島市〉）

対象者：女性従業員5,700人 URL <https://femline.jp/public/>

- 1 医師が相談対応を行う
- 2 匿名無料で気軽に相談できる体制
- 3 女性従業員だけでなく、経営者・管理責任者・同僚男性にも課題喚起や情報提供を行う



乳腺外科

乳房の症状

女性泌尿器科

膀胱・骨盤臓器脱
などの悩み

産科・婦人科

女性特有の悩み
不妊・妊娠の悩み

美容外科 美容皮膚科

肌のトラブル
美容の悩み

本事業の成果と課題①

Femline Kagoshima

管理職・女性従業員への意識調査

◆成果

回答者数、管理職258人（40.3%）、女性従業員1,175人（20.6%）の回答を得た。

管理職サマリー

1. 女性特有のからだの悩みが原因で働くうえで困った経験があると答えた女性従業員は60%という結果に対し、相談を受け、対処に困った経験があると回答した管理職の割合は26%
2. 女性特有のからだの悩みが休職や退職、スキル向上、昇進等に影響を与えていると感じている管理職の割合はそれぞれ10%以下で、女性従業員の同割合2〜4割と比べ、悩みを抱える女性との認識が浮き彫りになった。
3. 管理職の80%がフェムテックサービスの導入を「検討したい」と回答

女性従業員サマリー

1. 働く女性の60%が女性特有のからだの悩みで働くうえで困ったことがある
2. 働くうえで困った経験がある女性の68%が生理にまつわる悩みを抱えている。月経、精神的ストレスに次いで多いのが、更年期にまつわる悩み。回答者の30%が悩みの原因にあげている。一般的に更年期を迎えるのは40〜50代と言われるが、女性がキャリアを重ねる中で体調の変化にとまどう姿が浮かびあがっている。
3. 女性の健康課題を解決する「制度」や「コミュニケーション」が企業に求められている

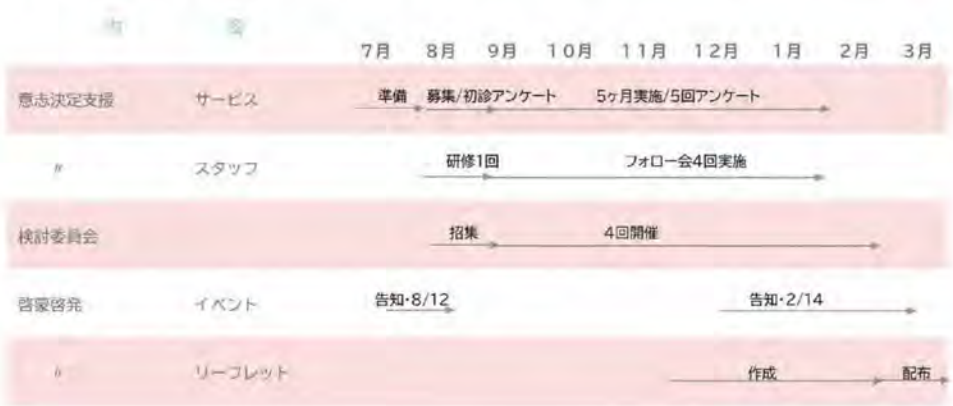
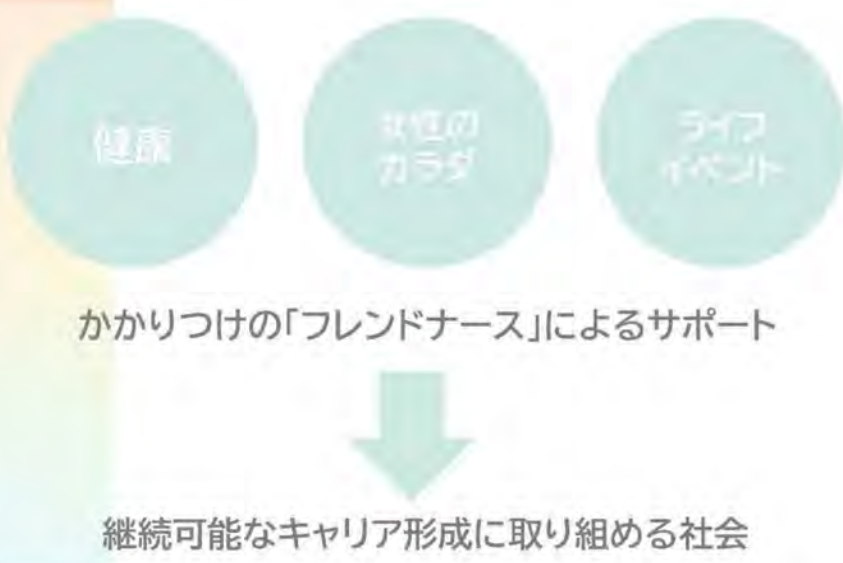
◆課題

上司が男性の場合、女性特有の健康課題で体調がすぐれないことを伝えにくいと感じている女性は全体の67%（1,155人中771人）、我慢してつらい思いをしていることを理解してもらいたいと感じている女性も全体の62%にのぼっていることから、職場における男性上司の理解と、一人で抱え込まずに相談できる環境が求められる。

また、女性特有の健康課題の対策として、女性が職場に求めるトップ3は、治療のための休暇や柔軟な勤務形態、業務分担・適切な人員配置と言った「制度の充実」と、上司や部署内での「コミュニケーション」であるが、こうした制度の充実やコミュニケーションの改善を企業が図るためには、性別や役職に関わらず、女性特有の健康課題に対する理解を深める必要がある。女性活躍推進においては、社員のヘルスリテラシー向上策の検討が急務である。

(2)-2 社会医療法人 博愛相良病院	法人向けオンライン女性健康相談サービス「フェムラインかごしま」実証事業	令和3年度
本事業の成果と課題②		Femline Kagoshima
医師による法人向けオンライン健康相談サービス		
◆成果 アクセスタ／訪問数：5,706 ページビュー数：10,321 (2021/10/1～2022/2/28) 健康相談利用者予測を対象者5,700人の15%に設定したが、実績は45人(0.8%)と大きく低迷 利用者アンケート／サイトの見やすさ(満足度62%)、相談のしやすさ(同91%)、回答までの時間(同76%) 医師の対応(同67%)、総合(同76%) ・年代別にみると20代の相談が最も多く、続いて30代、40代の2倍の順だった。 ・相談内容の内訳は、婦人科が44.4%と最も多く、次いで泌尿器科・美容皮膚科15.5%、産科(不妊・妊活)13.3%と続いた。婦人科の相談者の年代は20～50代と幅広く、月経随伴症状と更年期に関するものが多く、女性のライフステージの変化に伴う症状に関する相談が寄せられた。 ・泌尿器科の相談者は少数ながら20～60代と各世代に分布しており、特に産後、妊娠中の尿漏れや繰り返す症状に悩む声や寄せられた。 ・産科(妊活・不妊)の相談者は、20代と30代、何から始めればいいのか、どこに相談すればいいか分からないという声や具体的な症状、状況に言及し、アドバイスを求める相談が複数寄せられた。また、セカンドオピニオンを検討しているという相談も見受けられた。 ・1回の相談だけでなく、2回相談した方が27.2%以上いた ・地域の有名病院医師が相談対応したため、サービスの信頼確保、品質の担保ができた ◆課題 相談件数は少なかったが、「気軽に相談できる匿名無料のWEBサービス」として利用者の満足度も高く、また企業における解決策のひとつとしてフェムテックの導入を検討したい意見も多いことから、一定の需要があると考えられる。 課題は収益化、品質担保(相談対応する医師あるいは医療専門職の拡充)。そのほか、遠隔健康医療相談サービスの範囲策定(行政ガイドライン)も求められる。 また、今回インターネットブラウザによるサービスとしたが、利用者を増やすためには、スマートフォンアプリ開発や情報配信などの利便性の向上が必要。		
今後の事業展開		Femline Kagoshima
1 女性自身の健康リテラシーや健康管理・能力の向上に関する取り組み 2 企業に対する働く女性の健康課題についての啓蒙活動 3 運営体制の拡充(保健師、看護師など) 4 オンライン健康相談サービスの有料化の検討(収益化) 5 オンライン健康相談サービスからオンライン診療への移行検討 6 行政・今年度フェムテック補助事業採用社・その他協賛企業との連携		
		

(3) 団体等

(3) - 1 (一財) ウェルネスサポート Lab	女性の意思決定支援サービスの構築およびライフデザインにまつわる社会環境整備に向けた実証事業	令和3年度
事業テーマ：月経・PMS、妊娠・不妊、産後ケア、更年期、婦人科疾患		
2-1 事業目的と実施内容  7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 意志決定支援 サービス 準備 募集/初診アンケート 5ヶ月実施/5回アンケート スタッフ 研修1回 フォロー会4回実施 検討委員会 招集 4回開催 啓蒙啓発 イベント 告知・8/12 告知・2/14 リーフレット 作成 配布		
<目的> ◆デリケートな女性特有の心身バランスやライフイベントに起因する心身不調、不安の緩和・改善を行う ◆働く地方女性のリアルな「健康×働く」の課題の抽出、ニーズの把握とサービス構築に向けての検討 ◆同性間・異性間・世代間の意識ギャップを埋め、エイジレスで働きやすい職場・社会づくり		
2-2 テーマ  健康 女性のカラダ ライフイベント かかりつけの「フレンドナース」によるサポート 継続可能なキャリア形成に取り組める社会 これまでの活動より、女性の方が健康課題が大きく、首都圏女性と比較して地方女性の意思伝達に対する苦手意識も大きい。そのような背景より、地方都市では相談窓口が機能しない傾向にあると推測する。		

首都圏女性と比較して、地方女性が「意思決定・意思伝達」への苦手意識が強いことが、「さらなる身心不調」かつその身心不調に対する「相談行為に至らない」一因だと仮定し、かかりつけナース制度の機能を使つての効果を確認する。

- 24時間好きな時に何度でもかかりつけナースが担当
- 一個人・一家族に寄り添ったパーソナルなサービス
- 小さな不安・不調・サインを見逃さない
- 豊富な人脈と情報で信頼できる施設・専門家へ引継
- 未病期・療養期両面の専門家窓口対応でスムーズかつ安心

かかりつけナースの価値

利用者にとっての価値

最高の友人
プロフェッショナル
最強のサポーター

3-2 意思決定支援の実施体制



3-3 意思決定支援の詳細

<相談にのれること>

フレンドナース



アドバイザー



ご自身だけでなくご家族のこともご相談ください。

① 症状に関する不安不調

- ・PMSや月経不調や整理痛など、生理に関すること
- ・不妊治療や疾病などのホルモン治療に関すること
- ・産前産後に関すること
- ・更年期や不定愁訴に関すること

② ライフイベントに関する不安

- ・結婚/妊活/出産/社会復帰/子育て/看護・介護/セカンドライフについて

③ その他 気になること

- ・健康なカラダとココロづくりに関する様々なこと

2021年9月1日～2022年1月31日

Document create | 2022

4

フレンドナースサービス実施内容



～人数に関すること～

利用率:45.5%
(241人/530人中)

相談人数	9月	10月	11月	12月	1月
新規人数	128	22	55	16	20
既存人数	0	43	79	64	85
計	128	65	134	80	105
累計人数	128	150	205	221	241

～内容に関すること～

女性特有:44.1%
(365/827件中)

相談内容	9月	10月	11月	12月	1月	合計
PMS等の月経に関する身心不調・不安	40	5	13	4	6	68
不定愁訴に関する身心不調・不安	81	46	59	20	12	218
更年期に関する身心不調・不安	15	5	3	6	6	35
女性特有の疾患に関する身心不調・不安	4	0	2	2	3	11
不妊治療に関する身心不調・不安	2	0	4	2	1	9
産前産後に関する身心不調・不安	11	3	3	2	1	20
授乳に関する身心不調・不安	11	7	10	15	12	55
その他の身心不調・不安	28	4	6	19	38	95
受診(科)に関する迷い・不安	7	4	4	2	2	19
アピランスに関する悩み・不安	6	3	3	3	7	22
仕事に関する迷い・悩み	13	1	6	11	14	44
結婚・出産に関する悩み・不安	1	1	1	0	1	4
子育てに関する悩み・不安	4	3	2	5	3	17
看護・介護(家族)に関する悩み・不安	8	5	17	6	8	44
老後に関する悩み・不安	1	0	0	0	0	1
人間関係(パートナー)に関する悩み・不安	3	0	3	1	0	7
人間関係(職場)に関する悩み・不安	4	4	8	3	1	20
人間関係(その他)に関する悩み・不安	0	0	4	2	2	8
生活習慣(運動・食・睡眠)	3	0	1	1	0	5
その他(サクスメール、日程調整)	9	7	17	11	43	87
その他(コロナ)	27	3	1	1	6	38
相談件数合計	278	101	166	116	166	827
相談累計件数	278	379	545	661	827	

Document create | 2022

～対応に関すること～

傾聴:48.2%
FN単体:42.7%

対応内容	9月	10月	11月	12月	1月	合計
傾聴(フレンドナース)	74	49	114	70	92	399
アドバイス(フレンドナース)	167	41	45	35	65	353
アドバイス(アドバイザー1人含む)	21	6	5	8	7	47
アドバイス(アドバイザー2人以上含む)	5	1	0	0	1	7
紹介(アドバイザー)	1	0	0	0	1	2
紹介(その他専門機関)	10	4	2	3	0	19
月次合計	278	101	166	116	166	827

～対応内容の詳細～

受診の推進130件
中、女性特有の症状
に対するものは2/3

対応内容	9月	10月	11月	12月	1月	合計
食習慣改善	21	6	5	2	5	39
運動習慣改善	26	3	4	8	4	45
睡眠習慣改善	31	8	12	3	9	63
基礎体温測定	2	2	2	0	0	6
生理対策	2	1	1	0	0	4
冷えなおし対策	2	1	2	0	0	5
疾患症状治療について	7	7	8	3	0	25
薬剤について	16	3	2	0	0	21
メンテナンス提案	1	0	0	2	1	4
産後検診受診の提案	13	6	5	5	12	46
婦人科受診提案	18	9	5	5	7	44
女性特有症状に関する受診科の提案	24	7	1	5	3	40
傾聴	74	49	114	70	92	399
フォロー・経過伺い	75	45	111	65	65	361
その他(承認含)	18	9	9	13	6	55
月次合計	330	156	279	141	126	1032

●受診推進55件/130件中受診、内9名が疾病発見に至る

※甲状腺腫瘍、緑内障、非結核性抗酸菌症、微小血管狭心症、ヘルニア、靱帯損傷、坐骨神経痛、良性発作性頭位めまい、過敏性腸症候群

●傾聴、フレンドナース単体アドバイスでほとんどを占める

●生活習慣(受診のタイミング含)のアドバイスがほとんどを占める、習慣として定着するまでの長期的なかわりが重要

Document create | 2022

～AD別相談件数～

アドバイザー種別	9月	10月	11月	12月	1月	合計
助産師	8	3	0	3	1	15
管理栄養士	3	3	1	0	0	7
健康運動指導士	7	0	1	2	0	10
社会福祉士	0	0	0	0	2	2
乳腺専門看護師	0	1	0	0	3	4
不妊治療看護師	0	0	0	0	0	0
がん認定看護師	0	0	0	0	1	1
アピアランス	4	1	3	3	1	12
月次合計	22	8	5	8	8	51

～クーポン利用詳細～

アドバイザー種別	9月	10月	11月	12月	1月	合計
助産師	0	0	0	1	0	1
管理栄養士	0	0	0	0	0	0
健康運動指導士	0	0	13	3	10	26
社会福祉士	0	0	0	0	0	0
乳腺専門看護師	0	0	0	0	0	0
不妊治療看護師	0	0	0	1	0	1
がん認定看護師	0	0	0	0	0	0
アピアランス	0	0	0	1	0	1
月次合計	0	0	13	6	10	29

- 専門家別の「助産師」「健康運動指導士」「管理栄養士」の利用が多い
- ライフイベントでは「産前産後」タームの身心の変化に対応できる気軽な相談窓口の不足が推測される
- 長期的な生活習慣内では「動かす」「食べる」ための個別なアドバイスを要していることが推測される

6-1 企業ヒアリングの結果

① A社（スキンケア・ヘアケア商品の製造・販売）

- ・ 女性の多い会社には向いていると思う。
- ・ 導入メリットが伝わりづらい印象。働く人が大事、働く人が健全に働くうえで「ちょっとしたこと」を伝える場があることの重要性をお伝えする必要があるのでは。
- ・ 福利厚生としてであれば、1社員あたり1000円以下/月額ほどが予算なのではないか。オプションとしてセミナーの開催、啓蒙啓発の機会を作るなど。人事が研修をするのも大変なので、オプションでセミナー・ワークショップをするなど。
- ・ 守秘義務の範囲内で、傾向がわかる、大きな心身の不調がある時に会社への報告をするなどはほしいが、会社とは別のサービスとして軸にしたほうがいいのではないかと。

② B社（インテリア・ライフスタイル雑貨販売）

- ・ 自社は女性社員が多く、女性特有の心身不調の課題はあることは経営層も理解している。日常的に相談を受けてもらえるサービスはよい。
- ・ メールのアカウントのシステムみたいに、ひとり〇円で、何人あたりいくら、年間で〇〇円など。福利厚生費として一人当たり月1,000円100人だと月額10万円。年間で120万円と考えると安いのではないかと。
- ・ どういった傾向があるか、他社との差などがわかると、自分の会社がどうかなどわかるのではないかと。
- ・ 他社でもニーズがあるのではないかと。既存に女性専用サービスがあるが、女性と男性とが働きやすくなるためのサービスとしてPRすることがよいのではないかと。

6-2 企業ヒアリングの結果

まとめ

- ・ 女性社員が多く働く企業3社へのヒアリングを実施(ヒアリング対象者は男性2名・女性1名ずつ)
- ・ アンケート結果および、福利厚生としてフレンドナースサービスを導入するにあたっての所感をヒアリングした。
- ・ 3社とも、福利厚生としてサービスを導入することについては前向きなコメントを頂けた。
- ・ 会社として相談内容を把握することは必要がないが、企業としての状態をフィードバックしたり、状態に合わせて改善策提案についてのニーズを伺えた
(セミナーの実施、経営陣への戦略アドバイスなど)

Document create | 2022

6-3 モニターインタビューの結果

背景

- ・ モニター530名中、利用の合った方の中から20代、30代、40代、50代の各世代より、正社員とパートタイマーの方を合計13人選出し、ビデオチャットまたは電話でインタビュー(約30分)を行った。
- ・ インタビュー項目は、①モニター登録をしたご自身の背景、②チャット相談を始めて使った際の動機、③使ってみて良かったこと、④改善してほしいこと/プラスであると良いこと、⑤暮らしの変化、⑥値段について、⑦その他

まとめ

- ・ 病院に行くほどではない身心不調や不安(コロナ含)を認識している方、ナースが行うオンラインサービスに興味がある方が該当
- ・ 配信情報での「相談事例」が最初のきっかけとして効果的
- ・ 一度利用すると友人感覚で、気軽に利用でき、専門家としての安心感が感じれる
- ・ 不調を受容し、振り返る習慣で自己肯定感が向上した方がほとんど、行動改善につながると自信がもてる
- ・ 利用時、不利用時の同一金額への抵抗があるよう
- ・ ウェルサポの活動やフレンドナース制度に興味を示す方が多い

Document create | 2022

7-1 問題点

不調が 通常化

年代を重ねる毎
長期化・複雑化
慢性的

健康がフック ではない

公私ともに
Myプロジェクトの
設定がない

コミュニケーション 苦手意識

何を相談していいか
相談していい内容が
わからない

行動喚起(相談含む)+習慣化が困難な状況



「健康＝不安不調がないこと」という前提社会

Document create | 2022

7-2 課題点

不安不調を 明らかにする 受け入れる

はたらきかけ・継続的
寄り添い・For You
多様多様

Document create | 2022

啓蒙活動

自身と企業・社会間の認識ギャップを埋めるための多種多様なイベント

相談窓口

オンライン・オフライン両様で働きかけと傾聴(ディープリスニング)力を駆使した長期的かつかかりつけ感で安心な環境づくり

振り返り

定期的なmyプロジェクト設定と振り返りで習慣化トレーニング

他地域展開

各地域のステークホルダー・社会資源との協力体制

(3) - 2 国立大学法人金沢大学	「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築	令和5年度
-----------------------	----------------------------------	-------

事業テーマ：ヘルスリテラシー、その他

令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 採択プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築
 ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた
 ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



代表団体及び実証先：国立大学法人 金沢大学

実施体制

協力企業

- ・花王株式会社（雑談のチカラ） ・味の素株式会社（雑談のチカラ）
- ・Lupinus合同会社（雑談のチカラ） ・株式会社VACAN（トイレ内サインネージ設置運営）
- ・株式会社グロースベネフィット（ナプキン提供モニターの設置運営）
- ・日本カルミック株式会社（自動開閉式サニタリーボックスの利用提供）
- ・fermata株式会社（フェムテック展示会協力）

ほか、次年度にむけた意見交換など協力企業数21社

2024年2月8日時点

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 採択プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築
 ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた
 ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施項目

1 トイレ内 フェムテック情報ステーション

デリケートで話題にしがたい女性特有の健康課題について、トイレから情報発信していくことで、協力を共有し、課題解決に結びつけていく。フェムテック関連サービスや商品の提供も行い、リサーチの場にもしていく。

3 学生とつくる フェムテック動画配信

学生や教職員への情報提供を目的として、学生有志とフェムテックについて知る・学ぶ動画を制作し、トイレ内モニター等で配信し、男性を含めたより多くの人にフェムテックに関心を持ってもらうようにする。

2 企業と学生をつなぐ 「雑談のチカラ」

金沢大学の教職員・学生と地域・社会との共創の契機として、自由な語り（雑談）の場を創出する全学的交流事業「雑談のチカラ」。フェムテックをテーマに「雑談」を展開し、個人のアイデア創出、ネットワーク構築につなげる。

4 フェムテック・ライブラリー

フェムテックに関心を持った人たちが、より深く学べる機会を得られるよう、フェムテック関連書籍の展示や、パネルで紹介していく。書籍は金沢大学の蔵書として、今後も研究に活用していく。

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

1

トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

7つのテーマ[不妊、月経、性感染症、更年期、包括的性教育、緊急避妊薬、AYA世代のがん]
のインフォグラフィックを10のトイレ内に掲示。

※男性トイレと女性トイレはテーマ共通



金沢大学 ダイバーシティ推進機構

1

トイレ内フェムテック情報ステーション「思考するトイレ」

トイレ内のサイネージにオリジナル動画を配信。



トイレ内サイネージ



ナプキン支給型 トイレ内サイネージ

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

4

フェムテック・ライブラリー

オープニング企画として、フェムテックアイテム展示会とミニライブラリーを実施。



2023年10月16日・17日
フェムテックアイテム展示会

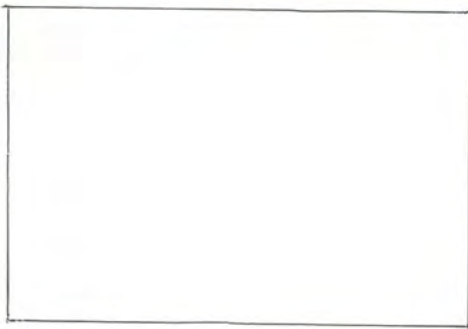


2023年10月16日・17日
フェムテック・ミニライブラリー

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

2

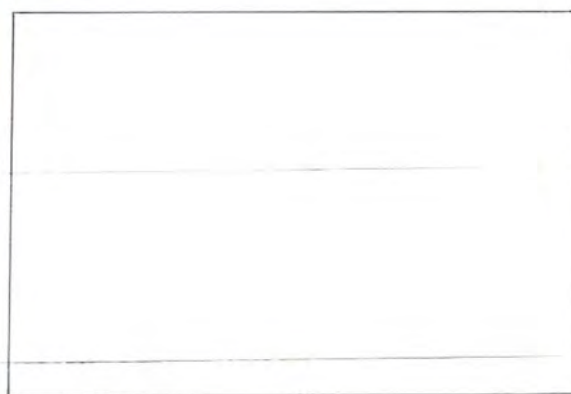
企業と学生をつなぐ「雑談のチカラ」



2023年10月17日（火）

iU 学生起業家・京田祐里奈さんとのトーク・カフェ
「フェムテックで起業する！」

ゲスト：京田祐里奈さん
（Lupinus合同会社代表・【iU】情報経営イノベーション専門職大学4年）
参加者：11名



花王&味の素のフェムテックの取組

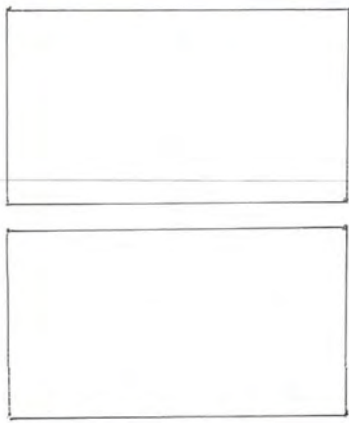
「なぜ、いま、フェムテック？～痩せたい⇒健康で自分らしいわたしへ～」

ゲスト：花王株式会社（アジアフェムテックフェムケア・プロジェクトメンバー）
味の素株式会社他
参加者：20名

金沢大学 ダイバーシティ推進機構



学生とつくる フェムテック動画配信+α



教職員・学生・ゲストと協働し
トイレ内のサイネージに配信する動画を製作。



「雑談のチカラ」のトークをきっかけに
新規動画を製作。

金沢大学 ダイバーシティ推進機構



フェムテック・セミナー



子どもの預かりを目的に同時開催として、
「子どもの運動あそび体験」を実施。
参加者：16名



2023年12月10日（月）「体をととのえる！骨盤底筋エクササイズ」
参加者：10名

普段体を動かす機会がないので良い機会を
与えていただきました。

子どもを預っていただけるので心配なく
エクササイズ参加できました。

大変嬉しい企画をありがとうございます。
自分のための時間をもてました。

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 採択プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築

ー大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けた

ヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト



実施目標

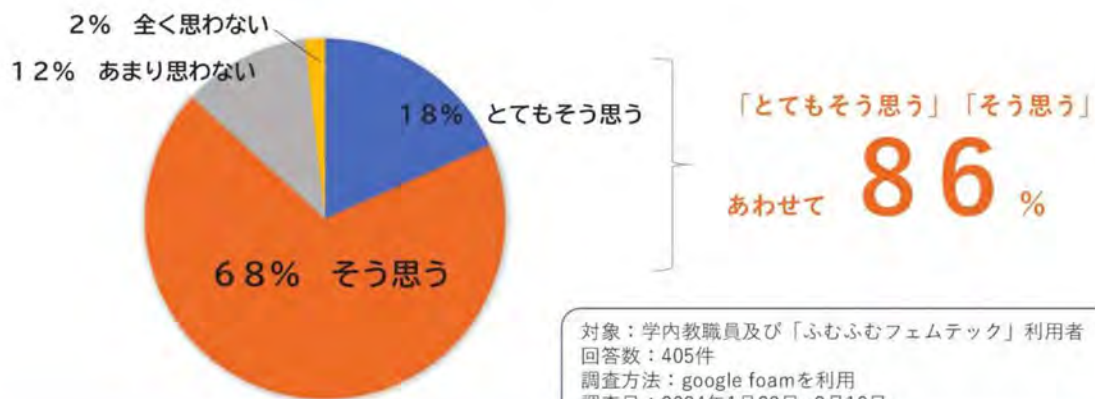
- 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増
- 2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加
- 3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出
- 4 企業とのコラボレーション企画への展開
- 5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ
- 6 金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

項目ごとの
成果

- 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増

Q. 「ふむふむフェムテック」を通して健康への理解が深まったか？



金沢大学 ダイバーシティ推進機構

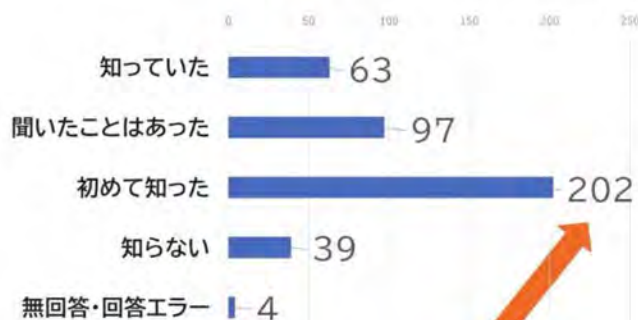
(3) - 2 国立大学法人金沢大学	「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築	令和5年度
項目ごとの成果 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増		
良かった意見（自由記述） 334件 思考するトイレを利用したことで、子宮頸がんについて健康意識を持つようになりました。数年ぶりに検診を受け、今後も2年おきに検診を受けようという意識を持つことができました。 生理のPMS。私が気にしていた症状をみんなが持っていることを知ることができた。 性感染症は、保健の授業で習ったけど、覚えていないことが多かったので、勉強になったし、もっと知識を深めたいと思った。		
金沢大学 ダイバーシティ推進機構		
項目ごとの成果 1 ヘルスリテラシーの向上と仕事モチベーション増		
今回、この企画（とくにトイレ企画）によって、男性の私でも、フェムテックに関する理解をすることができ、相互理解へ近づいた気がする。この機会に少し調べてみたが、フェムテックの対義語としてメンテックも存在するようである。例えば不妊などは、女性の問題と思われてきたが、男性の問題の可能性もある。これは少しずつ浸透はしてきたが、一般的といえるかは難しい。このように健康上の課題を理解しようとする手助けとなった企画であったと思う。パートナーや家族への理解を深めることに大いに役立つと感じた。 性的な話題や知識は公に取り上げられることがなく隠されがちで、友人とそういった話をするのも恥ずかしいので、問題や悩み、疑問があっても個人の中に留まって共有されない点に不安を感じていました。今回の取り組みではそういった話題を公共の場といえるトイレで自然に見れるように取り上げて、知識を共有してくれたので、安心感を感じましたし、とても有り難かったです。		
金沢大学 ダイバーシティ推進機構		

項目ごとの
成果

2 男性も含めた全教職員・学生のフェムテック関心度増加



「フェムテック」という言葉を知っていたか。



このプロジェクトで、
「フェムテック」を知った人が、全体の50%!

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

項目ごとの
成果

3 継続的なヘルス・リテラシー教育プログラムの創出

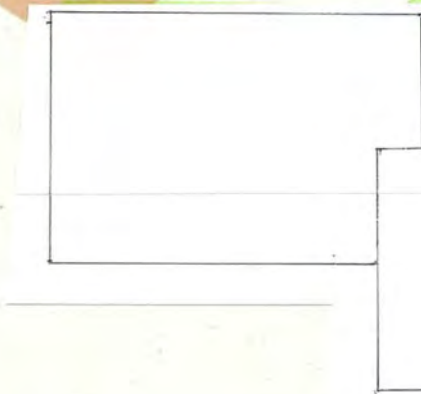
図書館や保健管理センターでのフェムテック関連書籍の公開
各部署への書籍貸し出し



金沢大学 ダイバーシティ推進機構

項目ごとの
成果

4 企業とのコラボレーション企画への展開



新規動画へ展開！



Lupinus合同会社、花王株式会社・味の素株式会社とのトーク（雑談のチカラ）

次年度にむけて9社と意見交換を実施

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

項目ごとの
成果

5 フェムテック研究プロジェクトのスタートアップ



学生主導プロジェクトの創設



スウェーデンのユースクリニック視察調査
※学内研究紀要で報告予定

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

(3) - 2 国立大学法人金沢大学	「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築	令和5年度
-----------------------	----------------------------------	-------

項目ごとの 成果

6

金沢大学におけるダイバーシティ推進の取組についてメディア発信

掲載メディア

【新聞】

- ・北國新聞（2023年10月17日）
- ・北陸中日新聞（2023年10月18日）→
- ・日本経済新聞（2023年12月30日）

【ウェブ】

- ・PR TIMES（2023年10月31日）
- ・FASHION BOX（2023年12月16日）
- ・MonoMax（2023年12月25日）



金沢大学 ダイバーシティ推進機構

今後の 予定・期待

仕事のモチベーションに具体的に
つなげていく。

次年度も継続予定。アンケート
の意見を参考に内容を検討中。

協力企業と意見交換を進め、
プロジェクト化していく予定。

若い世代のがんについての啓発がもっと多くなれば、検診を
受ける機会も増えると思うので学生と職員の健康状態の改善
に大変役立つプロジェクトだと思った。

こういった女性の悩みや健康面での辛さを男性側も正しく
理解するべきだと感じるので、イベントや講演などの任意
参加ではなく、一年次での必修科目に取り込むことができ
れば、大学全体での認識や待遇の変化につながると思う。

健康について行なうなら、症状や実態のほかにも症状を改善
する方法(生理痛を和らげるためには~したい)など、大
学生の生活に使える改善策も取り上げるといいと思った。

金沢大学 ダイバーシティ推進機構

事業テーマ：月経・PMS、更年期、婦人科疾患、ヘルスリテラシー、その他



医師が開発した性差医療アプリ WaiSE を活用した 健康経営促進サービスの構築と実証

女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす

経済産業省 令和5年度フェムテック等実証事業補助金
「最終報告会」 2024年2月28日

【総括事業代表者】

国立大学法人
政策研究大学院大学 保健管理センター 所長・教授
日本性差医学・医療学会 理事長
片井 みゆき

事業背景・1 本事業のコア技術 **WaiSE** (ワイズ) とは？

月経随伴症状(PMS)・更年期・不定愁訴等の原因を解析し、
女性特有の健康課題を解決する性差医療アプリ「WaiSE」

- 女性専門外来10年分の臨床データとエビデンスに基づき、女性に対する問診スキル、女性に特化した診断アルゴリズムを実装した、これまでにない画期的なジェンダー・イノベーション(フェムテック)。
- 日本医療研究開発機構(AMED) 女性の健康の包括的支援実用化研究事業に採択され、片井みゆき医師(日本性差医学・医療学会副理事長)を研究開発代表とし、女性内科・内分泌内科・産婦人科・心身医学の医師達、生物統計専門家、ICT専門家、看護師、非医療者女性らの研究班が5年をかけて研究開発。



病気の発症率や症状は男女で異なり、治療法や薬の効果・副作用にも性差があります。
性差医療アプリWaiSEは、女性の各ライフステージに伴う健康課題を解決に導きます。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)

2019年度公募課題 研究期間：2019年4月～2022年3月

「女性の健康の包括的支援実用化研究事業-Wise」 2-1

公募課題名 女性の心身の状況を総合的に考慮した診療に資するツールの開発

研究開発課題名

女性診療を支援する

「AI診断支援ナビゲーションシステムWaiSE」の開発

研究開発代表者・分担者：

政策研究大学院大学 保健管理センター

片井 みゆき (代表者)

京都府立医科大学大学院 女性生涯医科学

北脇 城 榎村 史織

慶応義塾大学医学部 システム医学講座

洪 繁 洪 実

東京大学大学院情報学環・学際情報学府

大庭 幸治

大阪大学大学院医学系医療画像技術科学分野

西尾 禎治

跡見学園女子大学 心理学部臨床心理学科

鈴木 真理

事務局：

政策研究大学院大学 片井研究室 木下 千栄子 加藤 透子



WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

事業背景・2 健康経営のために、性差医療アプリWaiSEが必要な訳

社会的問題

働く女性の「プレゼンティズム」

～女性は月経や更年期の不調をかかえながらも、我慢して働き続けている～

「働く女性の約半数が、月経や更年期による症状が強い時は、仕事のパフォーマンスが普段の半分以下と自覚

団塊ジュニア世代女性が更年期に入り、心身不調に伴う社会全体の労働力低下が懸念されている

従来の診療では更年期等の症状と他の疾患の症状の見分けが困難、女性は男性と比べて正確な診断に至るのがより難しい

これらの問題解決には

- ✓ 女性の健康課題解決には、性差(男女差)を考慮したアプローチ「性差医学・医療」が必要
- ✓ 健康経営に性差医療アプリWaiSEを活用し、働く女性が日々の生活で使えるようカスタマイズ

- 性差医療アプリWaiSEに、日々の仕事のパフォーマンスと疾病予防に重要な食事、睡眠、運動のセルフチェックとセルフケアを促すレコメンド機能を追加し、女性が健康に、各ライフステージを通して、いきいきと働くことを実現させる。
- 性差医療アプリWaiSEで、女性の多彩な症状を容易かつ的確に把握、女性の健康管理とヘルスリテラシー向上を実現すると共に、可能性のある病気、検査、受診科を示して医療機関や健診への受診支援を行う。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

本事業の目的

今回、WaiSEの健康経営版として、食事アドバイスをはじめ、日常の生活習慣に取り入れられるセルフケア（食生活、運動習慣等）をレコメンドする機能を追加し、新たにカスタマイズしたWaiSE健康経営版 WaiSEWorkを完成する。

これにより、働く女性のそれぞれの健康課題にきめ細やかに対応することで、ライフステージごとの健康課題（PMS、更年期症状・障害、生活習慣病等）を解決し、離職や休職を防ぎ、女性が生涯を通じてキャリア形成し生き生きと力を発揮し続けられる、多様な人材が活躍する社会を実現する。

また、本事業で企画する「性差医学にもとづく健康経営促進セミナー(仮称)」は、フェムテックユーザの女性本人のみならず、職場の上司や同僚、周囲の人々も対象に企画し、性差医療、男女のライフステージに沿った心身の状況や変化、対策や予防法を知ることで、互いの心身の健康への気づき、思いやり、行動変容など、企業経営や社会活動へのシナジー効果が期待できる。

WaiSEによる医学的なエビデンスに基づき、働く女性のヘルスリテラシーを向上させ、希望するライフプランの実現、女性のライフステージに沿ったウェルビーイングの実現に向け、女性の健康を支援する事業を展開する。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

最終報告会 報告内容

1：WaiSE健康経営トライアル版の作成

報告項目：1)実施項目 2)実施内容 3)結果 4)KPI 5)詳細結果

2：開発したサービスの実証と検証

報告項目：1)実施項目 2)実施内容 3)結果 4)KPI 5)詳細結果

3：性差医学・医療に基づくジェンダード・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

報告項目：1)実施項目 2)実施内容 3)結果 4)KPI 5)詳細結果

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

全体的なスケジュール

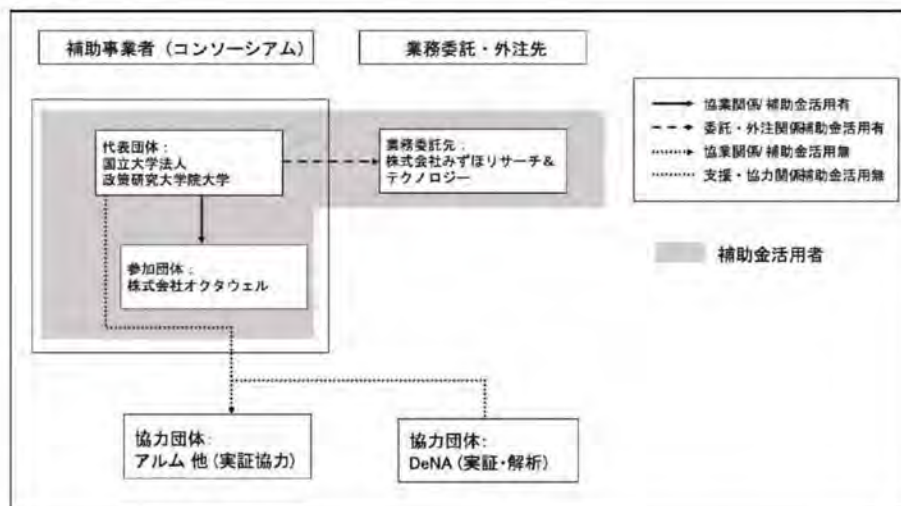
課題への対応策 ー実証を通じて把握した課題ー

▶ 計画通りに進捗できており、課題は特段なし。



WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

実施体制図



WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

(3)ー3 国立大学法人 政策研究大学院大学	女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす、意思が開発した性差医療アプリ「WaiSE」を活用した、健康経営促進サービスの構築と実証	令和5年度
---------------------------	--	-------

1：WaiSE健康経営トライアル版の作成

1) 実施項目	2) 実施内容	3) 結果	4) KPI
1・ヘルス(リスク)チェック ロジック開発	・健康経営版に無〜軽症状な方でも 日々の自身の体調を可視化 できるコンテンツを開発した。 ・日々の体調に合わせたレコメンド 作成には、WaiSEから症状や疾患 を抽出したものを取り入れた。	判定対象疾患数：目標50件以上 (65件：レコメンド機能に反映 した疾患)	130%達成
2・ケア情報に関するコンテンツ 作成	・利用する女性のライフステージに沿 ったケア情報を、参加団体のオクタ ウエルと共に作成をした。	作成コンテンツ数：目標50件以上 (67件：レコメンド65件、日々 のヘルスチェックコンテンツ2件)	134%達成
3・サービスとのマッチング 機能開発	・利用する女性のライフステージに 日々のセルフチェックの結果をマッ チングさせたレコメンドを提示す る機能を開発した	サービス件数：目標100件 (無限：ライフステージ6項目 x 日々のヘルスチェック5項目 x レコ メンド65件 = 1950件)	1950%達成
4・画面の開発 4・画面の開発	・利用する女性のライフステージに 日々のセルフチェックの結果をマッ チングさせたレコメンドを提示する 機能を開発した	表示パターン数上記の任意の組み 合わせ京 (10の16乗) レベル	N/A

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

1：WaiSE健康経営トライアル版の作成 5)・詳細結果

WaiSE健康経営版(WaiSE Work)アプリの完成



WaiSE(AMED研究開発・特許出願済)

- ☒ 気になる症状があるときに
- ☒ 心身のトータルチェックに



健康経営版「日々のヘルスチェック」(本事業で新規追加)

- ☒ 日々の心身のコンディションをチェック
- ☒ ライフステージに合わせたレコメンド、ヘルストピックの表示
- ☒ 働く女性ユーザーの行動変容を促す

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

2：開発したサービスの実証と検証

1) 実施項目	2) 実施内容	3) 結果	4) KPI
1・トライアル利用	・実証参加者エントリー開始：2023/11/27～協力団体の株式会社アルム、DeNAを中心に実証参加者を募集を行った。 ・WaiSEのホームページにも募集チラシを掲載し募集を行った。 実証期間：2023/12/27～2024/1/21	目標実証参加者300名 Wise健康経営トライアル版登録者数 435名	125%達成
2・評価検証	・WaiSE健康経営版使用の前後でアンケートを行い、回収した。 ※実証事業共通事業評価指標のアンケート集計し、提出した。 ・サービス提供によるリテラシーや行動の変容⇒詳細解析中。	・実証前後調査回答数100件以上 - 実証前後調査回答数 前137件 後164件 ※経産省アンケート(実証事業共通事業評価指標)前：408件 / 後:144件	実証前調査回答数 137%達成 実証後調査回答数 164%達成 詳細解析中。WaiSEWorkアプリ試用で行動変容が認められた。
3・改善ポイントの抽出	アンケートを回収し集計・分析を行った。	詳細に関して解析中	

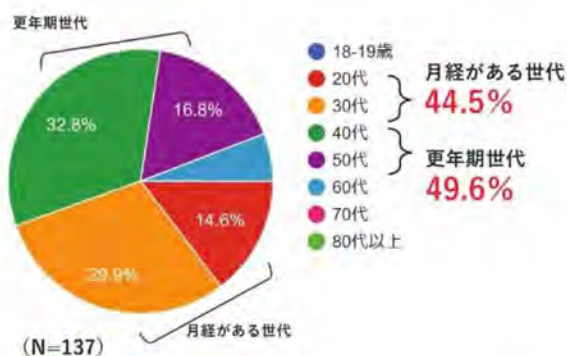
WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

2：開発したサービスの実証と検証

5)・詳細結果

実証参加者の年齢

更年期世代の**40-50代**が半数以上を占めた。



実証参加者の居住地域

東京都、大阪府、神奈川県の大都市に加え、長野県、群馬県、石川県など、幅広く全国各地の在住者にご参加頂き、地域バイアスの少ない実証が行えた。



WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

2：開発したサービスの実証と検証

◆サービス提供によるリテラシー向上

WaiSEによる
リテラシー向上



- ・女性に特化した選択肢が具体的に提示されることで、**自覚症状に気づける 63.4%**
- ・症状の組み合わせから、**可能性のある病気を知ることができる 52.4%**
- ・自分の持つ**症状を的確に把握**することができる **47.6%**



(複数回答可) (N=164)

WaiSEWorkの使用で、
ヘルスリテラシーの向上が
認められました。

健康経営版
「日々のヘルスチェック」



- ・自分の**食事、睡眠、心身のバランス**が分かる **53%**
- ・自分のライフステージ、体格、持病などに**個別化したアドバイス**が分かる **44.5%**
- ・健康や仕事の**パフォーマンス向上**の為に、**食事や睡眠などの重要性**が分かる **37.2%**

(複数回答可) (N=164)

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等リポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

2：開発したサービスの実証と検証

◆サービス提供による行動変容

WaiSE Work後、健康に対する
行動変容が認められました。

- ・睡眠や食事などの**日々のセルフケア**を、よりしっかりしようと思った **63.4%**
 - ・**健診**を、よりしっかり**受けよう**と思った **27.4%**
 - ・**健診の結果**を、よりしっかり**確認しよう**と思った **27.4%**
- 54.8%**

WaiSEWork使用後、意識がかわりましたか？(複数回答可)

(N=164)



WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等リポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

(3)ー3 国立大学法人 政策研究大学院大学	女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす、意思が開発した性差医療アプリ「WaiSE」を活用した、健康経営促進サービスの構築と実証	令和5年度
---------------------------	--	-------

3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

1) 実施項目	2) 実施内容	3) 結果	4) KPI
1・広報ツール作成・配布	広報用パンフレット、資料を作成をし、講演、健康博覧会時に配布をした。	目標配布数1000枚目標 講演・健康博覧会に配布 パンフレット及び資料 1000枚	100%達成
2・セミナー講演による普及啓発	・本研究代表 片井みゆき が講師を務め、2023/9/13、10/26、11/18に講演を行い、講演後にアンケートを実施した。 ・2/20～2/22に行われた健康博覧会で来訪者へ性差医療に基づくGIについて説明を行った。	目標200名 講演参加者 100名 +個別説明 104名 以上	102%以上達成
3・ブース来訪者へのアンケート調査	・2/20～2/22に行われた健康博覧会に出展した。来訪者へアンケートの記入を依頼。 ・アンケート記入時間の確保が難しい時はメモに、情報を記入し対応。	目標回収数50件 104件 以上	208%以上達成
4・サービスの事業性	調査回答解析を行う	⇒詳細に関して解析中。	⇒詳細解析中 健康経営にWaiSE Work アプリの提供を希望、性差 医療を健康経営に取り入れる ことが良いとの回答を多く 得た。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

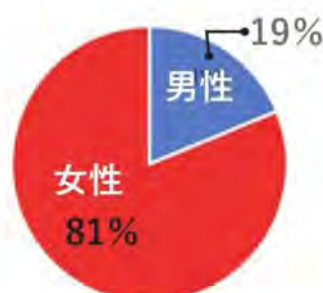
3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

5)・詳細結果

セミナー参加者：年齢 (N=64)



セミナー参加者：性別 (N=64)



セミナーには、20代から60代の、男性19%を含む方々に参加頂いた

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

令和5年度
女性・企業・社会にシナジー効果をもたらす
ジェンダーイノベーション EXPO
出展社募集 2024.20.21.22.

東京都のアンケート調査では企業の3割が「何を
してよいか分からない」と回答しており、企業が
十分に対応できていない状況が浮かぶ。

経産省が補助するフェムテックの事例	
パラマウント トベッド	睡眠データを活用した更年期女性のカウンセリング
TOPPAN エッジ	アプリを通じて生理に悩む女性の心身状態を可視化
アルプス アルパイン	アプリを活用して骨盤の筋肉量を可視化し、尿失禁を改善
金沢大学	トイレの壁面モニターで女性の健康課題に関するデータを提供
政策研究 大学院大学	女性の体調悪化や、可能性のある疾患を「見える化」するアプリ

今回の試算は対策をとらないと影響が大きいと企業に認識してもらい、対応を促す狙いがある。

EXPO出展初日(2/20/2024)の日経新聞朝刊で
経産省が助成するフェムテック事例としてWaiSEが掲載されました。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

◆サービスの事業性

ほぼ全員が、健康経営や職場健診に性差医療の視点を入れることを、大変良い、良いと回答を得ました。



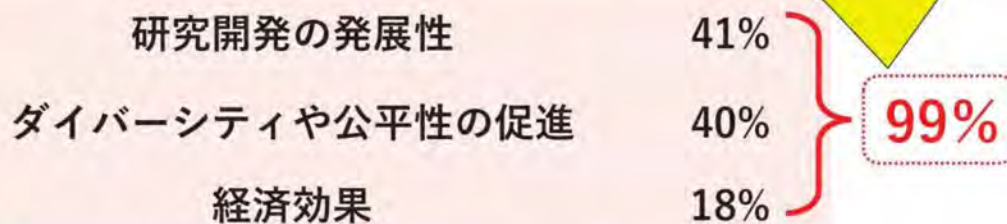
性差とライフステージを考慮した医療(性差医療)の視点を健康経営や職場健診に取り入れることについて、どう思いますか？(1つ選択)

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、
実証内容をイベントで啓発・普及および市場調査

◆サービスの事業性

ジェンダー・イノベーションを研究に取り入れるメリットは、
経済効果をはじめ、研究開発の発展性、
ダイバーシティや公平性の促進との回答から、
サービス事業の促進が望めます。



ジェンダー・イノベーション(GI)は、こうした性差の視点や交差因子を、研究や開発に取り入れるものです。GIを取り入れるメリットは何であると考えますか？ (N=64)
(複数回答可能)

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等リポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

3：性差医学・医療に基づくジェンダー・イノベーション(GI)の概念、実証内容をイベントで
啓発・普及および市場調査

◆サービスの事業性

WaiSEアプリのサービスの希望

(複数回答可) (N=164)



- ・健康経営として職場が契約し、従業員が自由に任意で利用 **64%**
- ・病院や診療所で備え付け **43.9%**
- ・個人で契約 **20.7%**

職場で契約を希望されている
方が多数。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等リポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

まとめ

- 今回の実証を通し、①WaiSEアプリによって女性が漠然と感じていた自覚症状を的確に把握することができた、②自身の可能性のある病気を知ることができ、③健康意識(ヘルスリテラシー)の向上に繋がった事が示された。
- 健康経営版WaiSE Work に追加した「日々のヘルスチェック」機能に対して、①食事や睡眠、体調が健康や仕事のパフォーマンス向上のために重要である認識、②各自の年代、体格、持病など個別にカスタマイズされたアドバイスを受けられる点良かった、③日々のレーダーチャートにより自身の状況やバランスがよく分かったとの回答を多数得た。
- WaiSE Workの利用による行動変容として、2/3が睡眠や食事等のセルフケアに向けた意識改革、2/3が健診に関するポジティブな意識改革を促されたと回答した。
- 今後、WaiSE Workの提供先の希望としては「職場が健康経営として契約し従業員が利用(64%)」が最多で、「病院や診療所で備え付け(43.9%)」「個人で契約(20.7%)」を上回り、健康経営でWaiSE Work採用への期待が寄せられた。
- 今回の実証結果から、WaiSE Workアプリが女性の的確なコンディション把握と行動変容に繋がることが示され、健康経営でWaiSEアプリをはじめフムテック活用の益々の促進が望まれる。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

WaiSE Workアプリの効果

■WaiSEアプリの効果

- ・症状の的確な把握
- ・自覚症状への気づき(選択肢提示により自覚症状に気づく)
- ・可能性のある病気への認知
- ・可能性のある病気の情報提供

■WaiSEを使うシチュエーション

- ・気になる症状がある時に、受診前の症状整理、受診の優先順位を知る

■日々のヘルスチェックの有用性

- ・ライフスタイルをはじめとする個別のアドバイス、自分にカスタマイズしたアドバイスを受けられる
- ・自分のコンディションバランスを認識。
- ・健康仕事のパフォーマンス向上に向けた食事、睡眠、体調の重要性への認知をもたらす。

WaiSE Work 最終報告会資料 令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金 2024/2/28

今後の予定・期待

- WaiSE Workをに実用化する。
- 今回の実証結果を論文としてまとめる。
- 性差医学・医療に基づいたジェンダード・イノベーションの啓発・普及を継続して行う。
- 社会啓発の一環として引き続きメディア協力も行う:
<https://www.waise-healthcare.com/> 参照

【WaiSEについて主な報道】NHKスペシャル(2023/4/29) NHKあさイチ(2023/5/1) NHKきょうの健康(2024/5月予定)で放映、日経新聞(2024/2/20)、毎日新聞(2023/10/17)、日経新聞・日経ヴェリタス(2023/10/1)、プレジデント ウーマン(2023/12/21)、ビヨンドヘルス(2022/10/21)、日経クロステック・日経デジタルヘルス…等々の公共放送、主要新聞、雑誌、オンライン媒体など多数のメディアで特集や掲載

健康経営のため
プロフェッショナル
の力を



女性診療各科専門医・産業医・
看護師・管理栄養士・医療ICT
のプロフェッショナルチームが
開発した健康経営版アプリ

“WaiSE Work”

Coming soon !

3 フェムテック等サポートサービスの導入効果

資料：経済産業省令和4年度「フェムテック等サポートサービス実証事業」成果報告資料

(1) アンケート調査結果

経済産業省令和4年度「フェムテック等サポートサービス実証事業」成果報告によると、フェムテック等サポートサービス利用前後のアンケート回答データを、以下の9つの測定項目それぞれに対して、単純集計、クロス集計およびヒストグラムを用いる形式で実施している。

目的	用いる指標	分類	測定項目	仮説	用いる分析軸
共通指標① 主観的プレゼンティズム	利用者の主観的Well-beingの変化を確認する	WHO Health and Work Performance Questionnaire®の設問B9-11	主観的プレゼンティズムの改善	絶対的プレゼンティズム 相対的プレゼンティズム	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、絶対的プレゼンティズム、相対的プレゼンティズムの値が上昇し、損失割合が減少する。
共通指標② キャリア形成	利用者の自身のキャリア形成に係る意識・行動の変化を確認する	本事業の独自指標	事業導入前	健康課題がキャリアに及ぼす影響を認知	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、従来健康課題を認識している層（意識層）は選択個数が減り、健康課題がキャリアに及ぼす影響が緩和された状態となる。従来健康課題を認識していなかった層（無意識層）は選択個数が増え、より多くの影響を認知している状態となる。
			事業導入後	解決策/緩和策の実施	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、より多くの解決策/緩和策、相談先を認知している状態となる。
			行動変容	他者・組織への相談の実施	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、より多くの解決策/緩和策について行動を起こしている。もしくはより多様な相手に相談を実施している状態となる。
			アウトカムの改善	解決策/緩和策実施のアウトカム 他者・組織に向けた相談実施のアウトカム	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、行動に移した解決策/緩和策や相談の実施から、より多くのアウトカムを得られている状態となる。

- 回答者属性**
- ・年齢
 - ・健康課題テーマ
 - ・職種
 - ・役職
 - ・子の有無
- 事業特性**
- ・展開スキーム
 - ・健康課題テーマ
 - ・サービスカテゴリ
 - ・介入目的

PwC※世界保健機関 健康と労働パフォーマンスに関する質問紙(短縮版)日本語版 nomh.unin.jp/WHO-HPOQ(Japanese).pdf

出典：経済産業省令和4年度「フェムテック等サポートサービス実証事業」成果報告資料（以下、本項内すべて。）

ア 回答者の属性

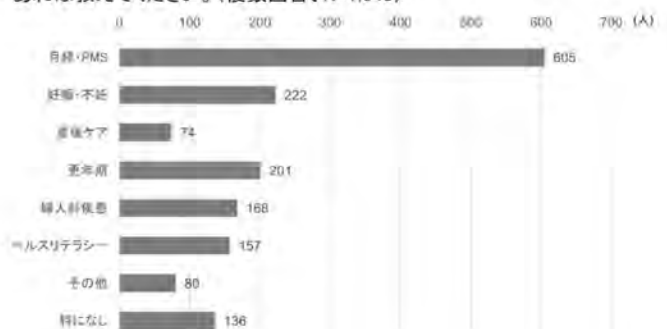
有効回答数は、19事業合計で1,037であった。事業別の有効回答数は以下のとおり。

回答者の抱える健康課題の領域は、月経・PMSが605人と最も多く、妊娠・不妊や更年期がそれに続いている。

事業別有効回答人数(N=1,037)※以下、事業の代表団体名を記載



あなたが抱えている健康課題の領域について、あてはまるものがあれば教えてください。(複数回答、N=1,643)



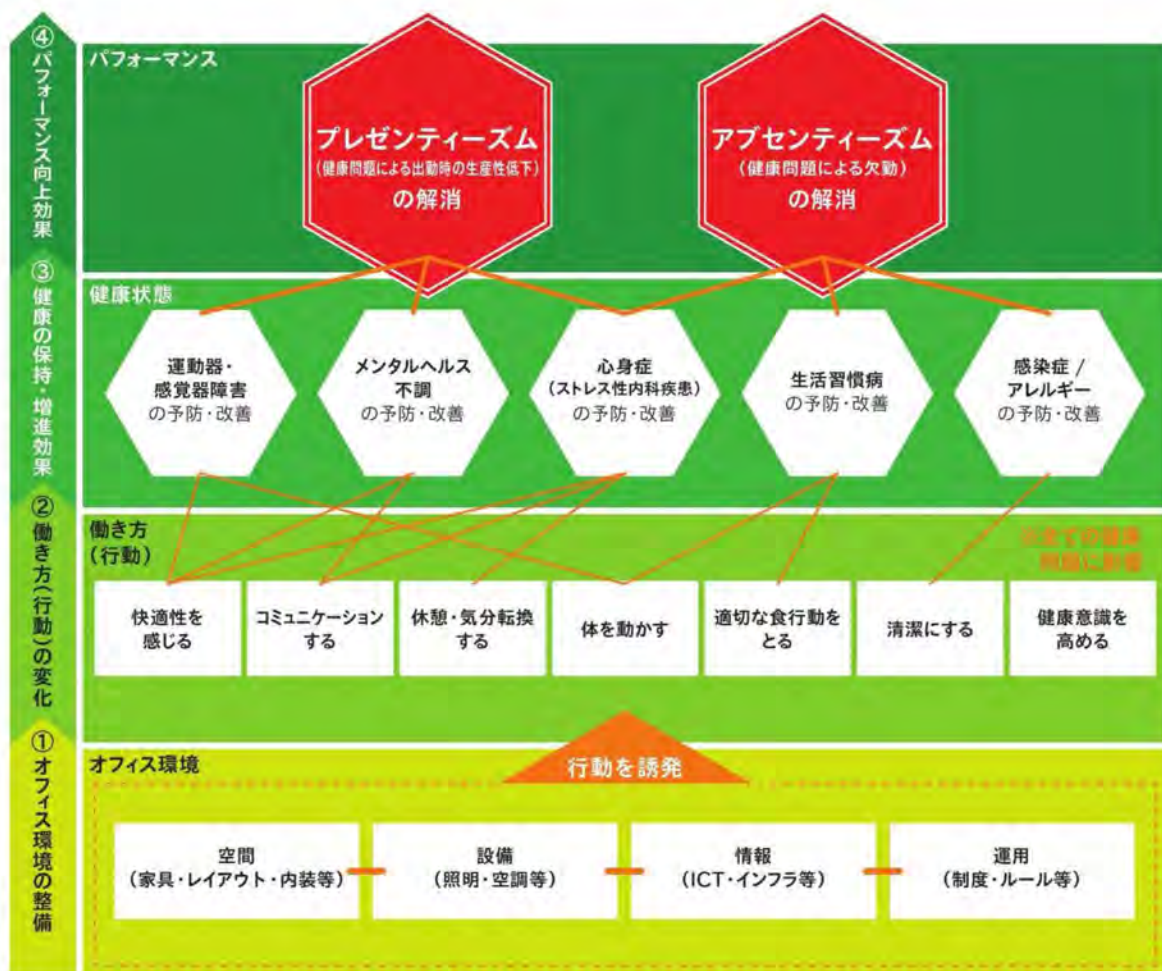
(参考) アブセンティーズムとプレゼンティーズムとは

WHO（世界保健機関）によって提唱された健康問題に起因したパフォーマンスの損失を表す指標。

プレゼンティーズムとは、欠勤にはいたっておらず勤怠管理上は表に出てこないが、健康問題が理由で生産性が低下している状態。

アブセンティーズムとは、健康問題による仕事の欠勤（病欠）。

例えば、オフィス環境（空間・設備・情報・運用）を整備し、健康の保持・増進に繋がる7つの行動を誘発することは、それぞれの健康状態に影響し、最終的にはプレゼンティーズム（健康問題による出勤時の生産性低下）やアブセンティーズム（健康問題による欠勤）の解消に結び付くことが、調査の結果から明らかとなった。



健康経営オフィスの効果モデル

出典：「健康経営オフィスレポート」（経済産業省）

イ 集計結果

①プレゼンティーズムの変化

19 事業全体でみたとき、プレゼンティーズムの平均値が上昇し、損失割合が減少している。



青字：前述の数値と同様の結果が出たもの

②その他の評価項目の変化

19 事業全体でみたとき、以下 7 つの測定項目それぞれの選択個数の平均値が上昇した。

測定項目	選択個数の範囲	平均値	中央値	最頻値
1 女性特有の健康課題があなたの今後のキャリアに与える影響を教えてください	0 ~ 7	2.84-3.00	2-2	3-3
従来健康課題を意識している層(意識層)	0 ~ 7	1.38 1.79	1-1	0-0
2 女性特有の健康課題があなたのキャリアに及ぼす影響を自身で解決/軽減するための方法の中で、具体的にイメージできるものを教えてください	0 ~ 10	3.20 3.20 ※2	3-3	3-3
3 女性特有の健康課題があなたのキャリアに及ぼす影響を自身で解決/軽減するための方法の中で、すでに行動に移したことがあるものを教えてください	0 ~ 10	1.64 1.74	1-1	1-1
4 「特になし」以外を回答した場合)行動した結果、あなた自身のキャリアにどのような良い影響がありましたか	0 ~ 6	0.69 0.74	0-0	0-0
5 女性特有の健康課題があなたのキャリアに及ぼす影響を解決/軽減するために、どのような人からの協力が必要だと思いますか	0 ~ 10	3.85 4.06	4-4	4-4
6 女性特有の健康課題があなたのキャリアに及ぼす影響を解決/軽減するために、すでに協力を得たことがある人がいれば教えてください	0 ~ 10	1.41 1.48	1-1	0-0
7 「特になし」以外を回答した場合)協力を得た結果、あなたのキャリアに及ぼす影響や組織に良い影響があったものを教えてください	0 ~ 9	0.96 0.98	1-1	0-1

※1：測定項目1~7それぞれについて、回答者が選択した項目の数を測定。
※2：小数点以下3桁でみると、3.197→3.203と上昇している。

オレンジ字：前述の仮説と同様の結果が出たもの

③健康課題テーマ別のクロス集計結果

回答者の抱える健康課題について、「妊娠・不妊」と回答した人については、絶対的プレゼンティーズムの改善傾向および指標の 7：他者・組織に向けた相談実施のアウトカムの改善傾向が確認された。

また、「産後ケア」および「ヘルスリテラシー」と回答した人については、絶対的プレゼンティーズムの改善傾向および指標 1：健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知の緩和傾向が確認された。

回答者の健康課題	測定項目	値および 選択個数の範囲	平均値	中央値	最頻値
妊娠・不妊	共通指標① 絶対的プレゼンティズム	0 ~ 100	54.64-60.05	60-60	50-70
	共通指標② 7 協力を得た結果、あなたのキャリアに及ぼす影響や組織に良い影響があったものを教えてください	-9 ~ 9 ※1	全体0.28 0.53 ※2	全体0.1 ※2	全体0.1 ※2
産後ケア	共通指標① 絶対的プレゼンティズム	0 ~ 100	56.08-58.24	60-60	50-60
	共通指標② 1 女性特有の健康課題があなたの今後のキャリアに与える影響を教えてください	0 ~ 7	3.23-2.95 ※3	3-3	3-2
ヘルスリテラシー	共通指標① 絶対的プレゼンティズム	0 ~ 100	58.47-63.89	60-70	50,60-70,80
	共通指標② 1 女性特有の健康課題があなたの今後のキャリアに与える影響を教えてください	0 ~ 7	2.97-2.87 ※3	3-3	2-3

※1 「事後アンケートの回答個数-事前アンケート回答個数」の値の範囲。

※2 「事後アンケートの回答個数-事前アンケート回答個数」について、全体の傾向と比較した値。値の大きい方が改善があったものとして解釈。

※3 選択個数が減少した場合にはキャリアへの影響の緩和があったものと解釈。

青字/オレンジ字：前述の仮説と同様の結果が出たもの

ウ 分析結果

各仮説に対し、共通指標の分析から得られた結果は以下の通りであり、フェムテック等サポートサービスの活用が、働く女性の Well-being の向上や、キャリア形成に良い影響を与えている可能性があることが示唆された。

ただし、時系列的要因や回答者の回答時のコンディション等、外的要因についてコントロールされているものではなく、因果関係の証明は困難である（あくまで傾向について論じる必要がある）点や、19 事業の回答者人数のばらつきがある影響を排除しきれていない点については、留意が必要である。

	測定項目	仮説	結果
共通指標① 主観的プレゼンティズム	絶対的プレゼンティズム	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、絶対的プレゼンティズム、相対的プレゼンティズムの値が上昇し、損失割合が減少する	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、絶対的プレゼンティズム、相対的プレゼンティズムとも平均値が上昇し、損失割合が減少した。
共通指標② キャリア形成	健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、従来健康課題を意識している層（意識層）は選択個数が減り、健康課題がキャリアに及ぼす影響が緩和された状態となる。従来健康課題を意識していなかった層（無意識層）は選択個数が増え、より多くの影響を認知している状態となる。	フェムテック等サポートサービスの活用前後で、意識層は選択個数の平均値が上昇し、より多くの影響を認知している状態となった。無意識層も選択個数が増え、より多くの影響を認知している状態となった。
	解決策/緩和策の認知	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、より多くの解決策/緩和策、相談先を認知している状態となる。	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数の平均値が上昇し、より多くの解決策/緩和策、相談先を認知している状態となった。
	他者・組織への相談先の認知	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、より多くの解決策/緩和策について行動を起こしている。もしくはより多様な相手に相談を実施している状態となる。	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数の平均値が上昇し、より多くの解決策/緩和策について行動を起こしている。もしくはより多様な相手に相談を実施している状態となった。
	解決策/緩和策の実施	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数が増え、行動に移した解決策/緩和策や相談の実施から、より多くのアウトカムを得ている状態となる。	フェムテック等サポートサービスの活用前後で選択個数の平均値が上昇し、行動に移した解決策/緩和策や相談の実施から、より多くのアウトカムを得られている状態となった。
	他者・相談組織への相談の実施		
	解決策/緩和策実施のアウトカム		

(2) インタビュー調査結果

令和3年度実証事業に対して、昨年度のサービス利用者及び導入団体に対するインタビュー調査および各事業者による昨年度サービス利用者に向けた追跡調査を行っている。

インタビュー調査の結果、中長期的な成果として、サービス利用者の意識の変容、行動変容に加え、男性社員等、周囲の関係者の意識の変容も見られた。アウトカムとしても心理的安全性や労働生産性、女性の健康課題による不調が影響を与える日数等について、定性的・定量的な改善が見られた。

		サービス利用者	導入団体
参加動機		- 個人として使い始めたが、自社のメンバーにも必要な支援なのではと気づき、のちに社としてもサービスを導入した。(ウエルサポ) - 様々な課題を抱えていたところ、このサービスが女性特有の健康課題だけでなく日常生活の様々な相談が可能と聞いたため参加した。(ウエルサポ) - 病院探しに苦労し、コロナ禍で不要不急の通院も避けたいと考えていたため、オンラインで話を聞ける本事業に参加した。(JAL)	- 女性が働きやすくなることは、組織としての生産性向上や、男女問わず、職場全体の働きやすさ向上につながると認識しており、多様な社員がいる中で、それぞれに対して個々にフィットした手当を行っていくことが、組織全体として Well-being を高める秘訣だと考えているため導入した。(JAL) - 一番の動機は、「個人の痛みや辛さを軽減させたい」という想い。仕事にとっても重要な女性の健康課題のケアについて、支援を用意している会社の方が女性従業員のエンゲージメントが高まると考えている。(コニカミノルタ健保) - 従来より女性への妊娠から出産までの支援を実施しているが、妊娠前や出産後の方にも支援を行うべきではという課題感を持っていた。町議会にて不妊治療支援について話題となったことも、導入の後押しとなった。(東北町)
参加度の変容	意識の変化	- 自身に疲労が溜まっていることに気づき強い自分であることをやめ、楽な気持ちでいることを受け入れられるようになった。(ウエルサポ) - 部下の体調やモチベーションのフォローに気が回るようになった。周囲の人々の体調変化に対する許容度が高まった。(JAL)	- 男性社員からも「自身も正しい知識を持つことが大事だと分かった」との声が上がるなど、女性特有の健康課題をタブー視しない意識が少しずつ生まれている。(JAL) 「更なる風土醸成の必要性やコミュニケーションの取り方などを学ぶことができて、非常に勉強になった」との声があがった。(コニカミノルタ健保) - 庁内において、職員の女性の健康課題に関するリテラシーが徐々に高まってきていると感じる。(東北町)
	行動の変化	- 受診行動につながった。(ウエルサポ、コニカミノルタ健保) - 自身の弱い部分も、周りに共有できるようになった。(ウエルサポ) - 腰痛の話をするように更年期の話ができるようになった。健康の話題を中心に職場のコミュニケーションが活性化した (JAL)	—
	アウトカム	自分の体調について気軽に話せるようになったことで、職場での心理的安全性が高くなった。また、「体調が悪い時は医師に相談できるから大丈夫」と思え、健康に対する不安などの心理的なトラブルで自分の労働生産性が下がることもなくなった。(JAL)	- 月経プログラム参加者の「月経による不調が 1 か月のうちに影響を与える日数」に関して、サービス実施前は 3.5 日以上あったものが実施後には 1 日以下になった。(JAL) - 女性従業員の「業務パフォーマンス」と「月経・更年期による不調が影響を与える日数/月」の数値に明らかな改善が見られた。(コニカミノルタ健保)
今後の期待		- 今後男性社員に対する支援も拡充されれば、女性社員もサービスをより利用しやすくなっていくと思う。(JAL) - 若いメンバーが自身の身体に目を向けるきっかけになるプログラムを準備することも必要だと考える。(コニカミノルタ健保)	- 社員が自身の健康課題についてより相談しやすい環境ができることを期待している。男性更年期に対する支援を求める声も挙がっており、その支援も検討したい。(JAL) - 子供の健康に関する医師等による相談窓口や男性の育児支援サービス等が加わると、より個々に沿った支援が充実すると考えている。(コニカミノルタ健保) - 地方によっては産婦人科医が少なく、女性が産婦人科のかかりつけ医を持つことが難しい。フェムテックサービスが一次相談先として普及し、正しい受診勧奨につながることを期待。(東北町)

(3) 追跡調査

令和3年度実証事業について、各事業者による昨年度サービス利用者に向けた追跡調査を行っている。

追跡調査のうち、特にサービス利用者の意識・行動の変化等が確認できた3事業で、中長期的な成果として、フェムテック等サポートサービスの利用をきっかけに、それぞれのサービス利用者の健康やキャリアとの両立に関する意識、行動の継続的な変容が見られた。

	Kids Public	陽と人	ninpath
意識の変化	・有症状時の医療機関の受診やセルフケアについて意識・継続している介入群参加者は4割。 ・介入群では正しい知識を有する割合が高い水準で維持されていた。	・「FACT BOOK を読んでから働く会社が男性が働くための会社になっているのでは、という疑問がでてきた。視野が広がった」というコメントがあった。	・特に20代の若年層については、「今後のライフイベントやライフプランについてしっかり考えるようになった。」「自身の身の回りの友人・知人・同僚など、様々なライフイベントの課題に直面しているかもしれないという意識をしている。」という回答が多かった。
行動の変化	・介入群は、普段の運動・睡眠・生活習慣が「整えられている」と回答した割合が、対象群と比較して高い水準に保たれていた。特に、運動習慣については事業終了時よりも割合が増加していた。	・「職場でもFACT BOOK を持ち歩くようになった。年代的に子育ての話が増え、身体のことを話したい人もいるということがわかった。」「ここにこう書いてあるよ」と職場で見せて会話の種にしている」というコメントがあった。	・ライフプランの検討～治療実施まで、何らかの行動変容があった割合が86%にのぼった。 ・21%の方が治療に関する具体的な行動を行っており、セミナーやAMH検査の実施が行動の後押しとなったと考えられる。
今後に向けて	・部分的にはあるが、「ヘルスリテラシー」や「受診行動」、「生活習慣」、「生産性」に継続した良い影響が認められた。事業終了後にも長期的にポジティブな影響を残していることがわかった。 ・参加者の70%が同様のオンライン支援プログラムをまた受けてみたいと回答し、継続した事業提供のニーズを把握できた。	・仕事よりも身近な「家庭」での一歩に貢献 - 男性の読者が多く、男性たちの変容をヒアリングしたところ、この冊子があることで、仕事よりもより身近な「家庭」での家事・育児・妻への接し方・家族内での対話に行動変容が生まれていた。 ・男性の価値観・行動変容に繋がる - 働く女性が読む冊子として女性目線で制作したが、男性からの賞賛の声が非常に大きかった。今後男性にとって読みやすいか、また、女性にとっても読みやすいかを検証し、改善していきたい。	・セミナー実施から1年、また一部の企業では両立支援制度の導入から1年経過したことで、仕事との両立について、「両立できると思う」と回答した割合が2倍以上に増えていた。セミナーによる理解度の浸透と、両立支援制度の構築による影響が高いと推察される。

4 自治体の取組

(1) 自治体向け実態調査結果

資料：経済産業省令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業」成果報告資料

令和3年度「フェムテック等サポートサービス実証事業」において、全国のすべての自治体を対象として、自治体における女性活躍推進に向けた健康課題解決の取組実態やその中でのフェムテックの認知度・活用意向、また今後に向けた自治体との協働におけるポイントを明らかにすることを目的に実態調査が実施された。

ア 調査の概要

①調査名 自治体における女性活躍推進に向けた健康課題解決に関する実態調査

②実施期間 2021年12月～2022年2月

③調査対象 全都道府県および市区町村

④調査方法

- ・Web アンケート

都道府県の男女共同参画担当部署より傘下の市区町村に展開する形で実施

- ・インタビュー

上記回答者のうち、5自治体にデプスインタビューを実施

⑤主な調査項目

- ・女性活躍推進に向けた健康課題解決の取組状況／取組予定／抱える課題

- ・女性活躍推進に向けた健康課題解決の所管部局

- ・フェムテックの認知度

- ・フェムテックの活用状況／活用意向／抱える課題

⑥回答数

19.0% (339/1,788 団体)

都道府県：29/47 件 (61.7%)

市区町村：310/1741 件 (17.8%)

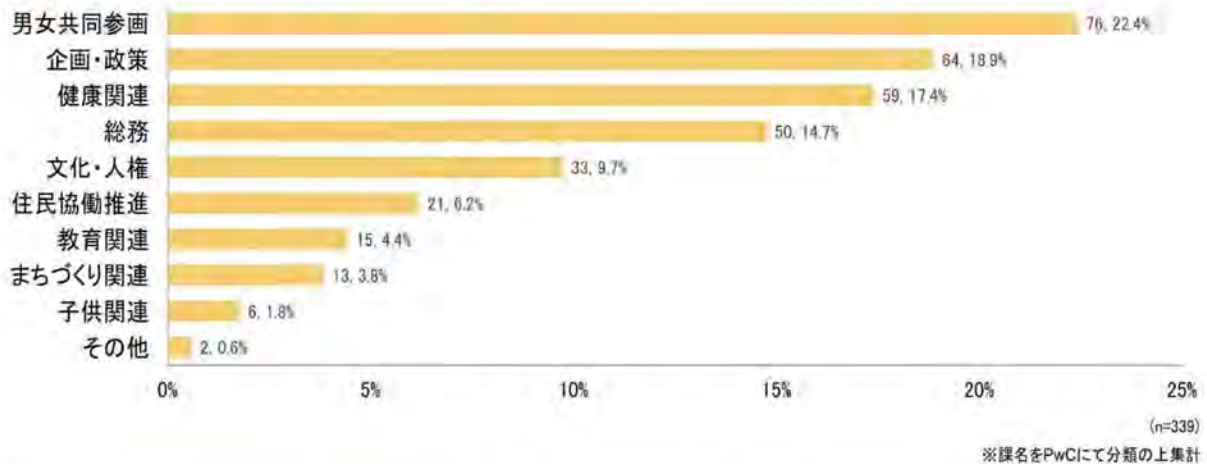
イ アンケート結果

①回答者の属性

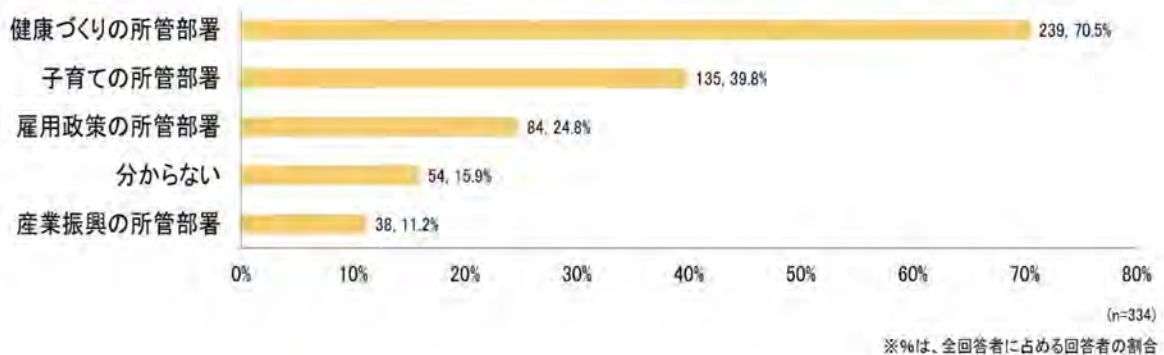
多くの自治体が、関連する複数の課を回覧する形で回答した。

回答者の属性をみると、代表回答者が所属する課の種別は、男女共同参画関連課が最も多く、次いで政策企画関連課、健康関連課であった。なお、課名は事務局にて分類の上、集計した。

回答者のペルソナ(単一回答)



女性活躍推進に向けた健康課題解決に取り組む庁内の担当部署(複数回答)



②女性活躍推進に向けた健康課題解決について、現在取り組んでいる内容と今後取り組みたい内容(複数回答)

住民や地域内の企業等に向けたサービスとして現在取り組まれている内容は、情報提供・普及啓発が領域横断的に多かった。一方で、「企業における職場環境改善、両立支援」については領域横断的に実施率が低かった。また、テーマごとに取組の実施状況をみると、妊娠・出産関連の取組が多かった。

今後取り組みたい内容については、領域横断的に「情報提供・普及啓発」の割合が多かった。なお、回答率の伸びをみた場合、「企業における職場環境改善、両立支援」は全領域において回答率の向上が見られた。そのほか「月経、更年期、ヘルスリテラシー全般」の領域において、「情報提供・普及啓発」の回答率の伸びが大きかった。

女性活躍推進に向けた健康課題解決について、
現在取り組んでいる内容と今後取り組みたい内容(複数回答)

現在	月経	妊娠・出産	不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー全般	その他健康づくり全般
情報提供・普及啓発	27%	71%	58%	63%	31%	52%	32%	53%
相談窓口の設置	22%	67%	41%	60%	26%	29%	17%	35%
企業における職場環境改善、両立支援	4%	12%	7%	2%	1%	2%	1%	4%
健康診断・検診の実施	3%	51%	4%	15%	5%	61%	10%	27%
助成制度	2%	55%	67%	47%	1%	19%	4%	11%

(n=339)

今後	月経	妊娠・出産	不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー全般	その他健康づくり全般
情報提供・普及啓発	46%	53%	50%	50%	49%	51%	48%	54%
相談窓口の設置	18%	36%	25%	34%	19%	22%	14%	20%
企業における職場環境改善、両立支援	9%	13%	12%	7%	6%	6%	6%	8%
健康診断・検診の実施	1%	26%	3%	11%	4%	31%	7%	16%
助成制度	2%	29%	31%	29%	2%	12%	4%	7%

(n=339)

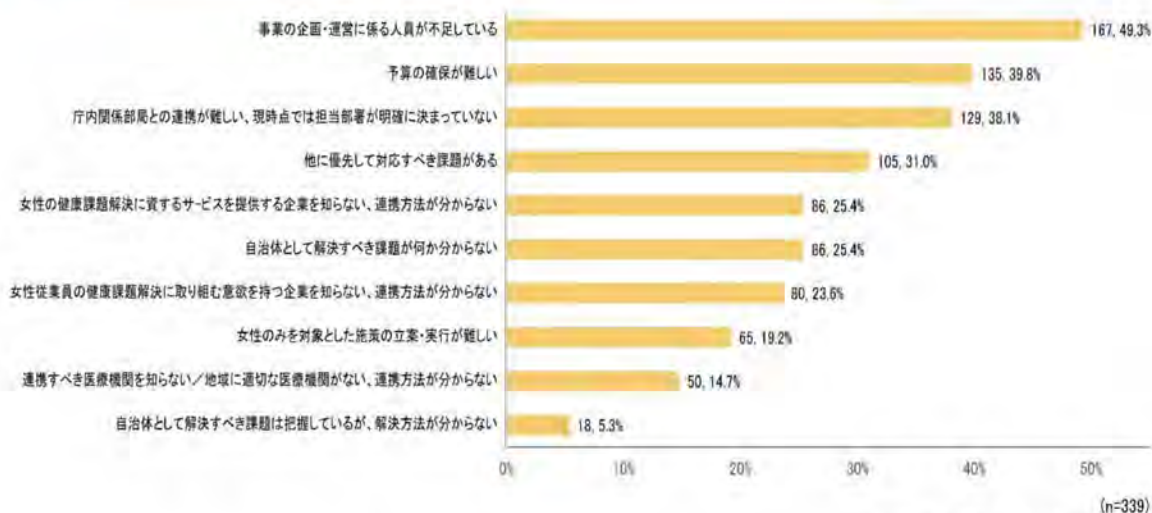
※%は、全回答者に占める回答者の割合。ハイライトは、現在の取組より回答率が向上したものと

459

③女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る事業を企画～実施する上での課題や困難（複数回答）

事業を企画・実施する上での課題や困難については、「事業の企画・運営に係る人員の不足」を約半数の自治体が課題として挙げており、次いで「予算の確保が困難」、「関係部局との連携が困難、現時点では担当部署が未定」の回答が続いた。

女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る事業を企画～実施する上での課題や困難
(複数回答)



※%は、全回答者に占める回答者の割合

460

④「フェムテック」の認知度（単一回答）

「フェムテック」の認知度については、「聞いたことがない・知らない」の回答が 58.7% で最も高かった。

「知っており、フェムテックを活用した施策を実施している」、「知っており、フェムテックを活用した施策を検討している」と回答した自治体はいずれも 2.2% 程度であった。

「フェムテック」の認知度(単一回答)



⑤具体的な実施事項（自由回答）

フェムテックを活用した施策を実施・検討している自治体において、領域ごとに取り組を整理したところ、「情報提供・普及啓発」に関する取組内容が最も多かった。現時点では、フェムテックを活用し「企業における職場環境改善」、「健康診断・検診の実施」を実施・検討している自治体は確認できなかった。

実施済/実施中	
取組内容	詳細
情報提供・普及啓発	「生理フレンドリーな街づくり」をテーマに整理についての話や、フェムテックの活用について講座を開催
	モバイルアプリを活用し、情報発信
	生理の貧困問題をテーマにワークショップを開催。様々な生理用品を提示し、自分にとって心地のよいものを試すことができるということを参加者へ周知
相談窓口の設置	「出産、育児、子育て」の導入
	子育て年代の方々の健康づくりをお手伝いする『マイ保健師』制を取り入れています。妊娠から出産、就学までのお子さんや保険者の方の相談に応じる
	子育て支援や育児についての相談等を行い、子育て中の家族の社会的孤立や育児不安に対して、地域ぐるみで子育ての応援をする環境づくりを推進
	民間企業へ委託し、LINEを活用して専門家チームが不妊や妊活についての悩みに相談対応
助成制度	女性活躍推進「先進性」モデリング事業費補助金にて「女性活躍推進に関する先進性のある取組を試験的に実施する事業」を支援 (例1) フェムテック製品・サービスを女性従業員向けの福利厚生として活用
その他	フェムテックに限らず、医療・健康機器産業全般への県内製造業の製品開発や取引支援を実施しており、その中にフェムテックに該当する案件も含む

実施予定	
取組内容	詳細
情報提供・普及啓発	女性の健康問題をテーマにしたセミナー
	女性の妊娠・出産、更年期障害等と仕事の両立や悩みの不安等の解消に向けて、フェムテックの製品・サービスの企業への導入を促進する情報発信を主とする事業
	庁内でのアンケート調査、企業への情報提供、企業研修への講師の派遣、フェムテック企業とのマッチング支援等
	女性の課題解決に関する研究シーズの事業化・法人化を後押しするためのセミナー開催
助成制度	事業で実施しているビジネスコンテストに本分野の表彰新設
その他	公共施設における生理用ナプキン無料提供サービスの導入

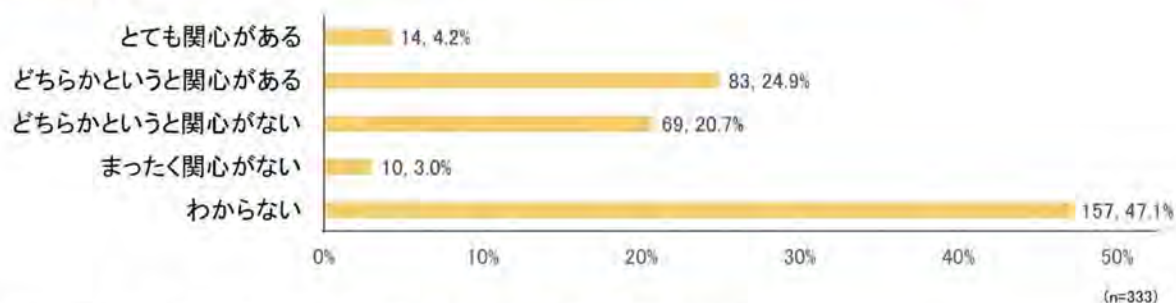
※フェムテックについて「知っており、フェムテックを活用した施策を実施している」、「知っており、フェムテックを活用した施策を検討している」と回答した団体の回答をPwCにて整理

※複数の取組を実施している自治体についても、取組内容別に分解し、記載

⑥女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る現在・今後の事業における「フェムテック」の活用に関心度（単一回答）

女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る事業におけるフェムテック活用の関心について、「わからない」の回答が約半数で最も多かった。「とても関心がある」「どちらかというに関心がある」と関心がある」の回答は約3割であった。

女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る現在・今後の事業における「フェムテック」の活用に関心度（単一回答）



⑦フェムテックの活用に関心のある領域・取組（複数回答）

うち、フェムテックの活用に関心のある領域・取組について、「不妊領域における助成制度」との回答が最も多かった。また、領域横断的に「情報提供・普及啓発」が最も多く、次いで「企業における職場環境改善」、「相談窓口の設置」と続いた。

フェムテックの活用に関心のある領域・取組（複数回答）

	月経	妊娠・出産	不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー全般	その他健康づくり全般
情報提供・普及啓発	83.5%	78.4%	78.4%	64.9%	81.4%	76.3%	81.4%	83.5%
相談窓口の設置	28.9%	30.9%	29.9%	25.8%	29.9%	26.8%	17.5%	17.5%
企業における職場環境改善、両立支援	33.0%	36.1%	36.1%	26.8%	28.9%	28.9%	24.7%	23.7%
健康診断・検診の実施	6.2%	10.3%	7.2%	7.2%	5.2%	9.3%	4.1%	4.1%
助成制度	5.2%	10.3%	86.6%	8.2%	1.0%	5.2%	1.0%	1.0%

(n=97)

※ %は、フェムテックの活用について「とても関心がある」、「どちらかというに関心がある」の回答者に占める回答者の割合

⑧フェムテックの活用に関心がない理由（単一回答）

フェムテックの活用に関心がない理由は「フェムテックで何ができるかわからない」が92.5%で最も多く、「フェムテックを活用する必要性を感じない」「そのものに関心がない」の回答は7.5%にとどまった。

フェムテックの活用に関心がない理由（単一回答）

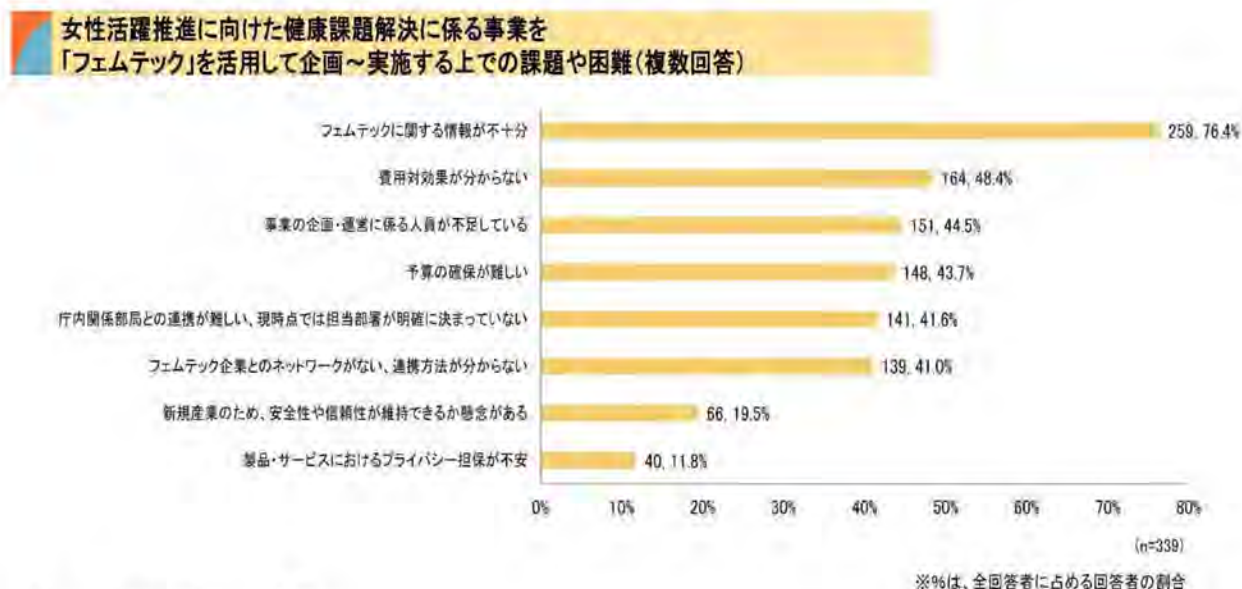


(n=230)

※ %は、フェムテックの活用について、「どちらかというに関心がない」、「全く関心がない」、「わからない」の回答者に占める回答者の割合

⑨女性活躍推進に向けた健康課題解決に係る事業を「フェムテック」を活用して企画～実施する上での課題や困難（複数回答）

フェムテックへの関心度・認知度は関係なく、フェムテックを活用して取組を今後行う場合に想定される課題については、「フェムテックに関する情報が不十分」が76.3%で最も多く、次いで「費用対効果がわからない」、「事業の企画・運営に係る人員が不足している」が続いた。



ウ インタビュー結果

自治体におけるフェムテックサービス導入・活用におけるポイントとして、「地域課題の特定」「キーパーソンからの理解獲得」「実現可能な範囲からの取組実施」が挙げられた。

また、要望としては、共通して情報共有のニーズが強くあった。

項目		事例
政策的位置づけ		○フェムテック活用を通じて解決したい地域課題が明確 ・地域課題を基礎データを持って適切に把握している ・フェムテック活用は女性活躍推進に向けた手段の一部でしかないため、フェムテックを活用して最終的に解決すべき課題を特定できている ・また、自治体における政策の中でのフェムテック活用の位置付けが明確になっている
事業概要	体制（内部）	○事業企画～実施に係る関係者（所管部署）が明確 ・連携が必要不可欠な関係者が整理されており、部署横断的な協力が可能な状態になっている ○首長等のキーパーソンの理解を獲得 ・フェムテック活用ができている自治体は、首長等の理解が得られているケースが大半である
	体制（外部）	○事業実施に係り、連携が必要となる組織・団体とのリレーション構築 ・事業を企画～実施するにあたり必要な支援を外部組織・団体（フェムテック企業含む）から得られる体制が日頃から構築できている
	予算	○実施可能な範囲での取り組みから着手 ・予算確保をするとなるハードルが高いため、既存事業にアドオン形や外部組織・団体の取組を後援する形での関わりができている
要望	情報共有	○他自治体のフェムテック活用事例の共有 ・自治体で新たな事業への予算要求を行うにあたって、他自治体の成功事例があるとスムーズに決裁される傾向にある ○自治体として活用できる国の予算の共有 ・活用できる国の予算情報等を知りたいニーズが高い傾向にある

(2) 先進的取組事例

(2-1) 東京都のフェムテック推進の取組

東京都が事業者・企業・個人に対し、フェムテックの施策を実施することで、他自治体や政府のフェムテック支援のモデルケースになり得る

事業者向け	女性活躍のためのフェムテック開発支援・普及促進事業
サービス導入事業者向け	働く女性のウェルネス向上事業・フェムテックを導入して職場環境の整備等に取り組む企業向けの奨励金
個人向け	卵子凍結に係る費用助成
	TOKYO プレコンゼミ（プレコンセプションケア）

出典：東京都産業労働局HP

ア 女性活躍のためのフェムテック開発支援・普及促進事業

① 目的

都内中小企業者等に対して、女性の健康課題を解決するための技術に関する新製品等の開発・改良及び普及を行うために必要な経費の一部を助成することにより、フェムテックの技術開発・普及促進を後押しし、都内中小企業者等の振興に資するとともに、女性活躍社会の実現を加速化することを目的としている。

② 助成内容

都内の中小企業者等が行う、女性の健康課題を解決するための新製品等の開発・改良および普及に要する経費の一部を助成する。

- ・助成対象期間
令和7年2月1日～令和8年10月31日（最長1年9ヶ月）
- ・助成限度額
2,000万円
- ・助成率
助成対象と認められる経費の2/3以内
- ・助成対象経費
開発・改良・普及に要する経費の一部

③ 助成対象事業

a 助成対象事業の要件

本助成事業では、次のア～オを全て満たす必要がある。

- ・「女性の健康課題解決」に関するテーマに係る開発・改良及び普及であること
- ・新たな開発要素、比較優位性の要素があること
- ・市場ニーズに即していること
- ・申請事業者が開発における能力を有していること
- ・事業計画と資金計画の整合性、安全性の確保が見込まれること

b 「女性の健康課題解決」に関するテーマ

本助成事業で対象とする、女性の健康課題解決に関するテーマは下記のとおり。

テーマ	製品・サービス例
月 経	・月経に伴う月経痛や月経前症候群（PMS）の緩和等を目的とした製品・サービス ・月経前症候群（PMS）オンライン処方、布ナプキン、経血ショーツ、月経カップ等の生理関連製品、生理の貧困に関するサービスなど
妊娠・不妊	・妊娠への準備や不妊治療等に関する製品・サービス
産後ケア	・出産後の母体が回復するまでの期間を支援する製品・サービス ・授乳サポート製品、骨盤ケア製品、ホルモン検査による健康管理、産後女性の食生活相談サービスなど
更年期	・更年期（閉経前後の約10年間）に生じる各種不調の緩和等を目的とした製品・サービス ・フラッシュによる辛さを軽減する衣料品、閉経の遠隔医療、尿漏れ改善のためのトレーニング機器など
婦人科系疾患等	・子宮筋腫、乳がん、卵巣がん等の発見～治療後のサポート等に関する製品・サービス ・乳がん術後用シリコンパッド、患者のQOL向上のための衣料品、婦人科系疾患等に関する医療プログラム、婦人科系疾患についてのチャット相談など
ヘルスリテラシー	・健康に関連する正しい情報の収集・活用の支援に関する製品・サービス ・女性特有の健康課題についての理解を促進するポータルサイト、企業向けのフェムテック福利厚生サービスなど



令和6年度 女性活躍のための フェムテック 開発支援・普及促進事業

助成限度額 2,000万円

助成率2/3以内

- ▶ 製品・サービスの開発・改良
- ▶ 試作品の広報



令和6年
申請期間 ▶ 9月6日(金)～30日(月) 17時
Jグランツによる電子申請

女性活躍社会の実現を加速化するため、月経や更年期など女性が抱える健康課題を技術で解決する製品やサービスの開発又は改良および普及に要する経費の一部を助成します。



▶ 助成対象者

- 都内の本店又は支店で実質的な事業活動を行っている中小企業者等
- 都内で創業を具体的に計画している個人
- 都内中小企業団体等

助成限度額

2,000万円

助成率2/3以内

▶ 助成対象となる製品・サービス

「女性の健康課題解決」に関する以下のいずれかまたは複数に該当する製品・サービス

月経	妊娠・不妊	産後ケア
更年期	婦人科系疾患等	ヘルスリテラシー

▶ スケジュール

申請期間	令和6年9月6日(金)～9月30日(月) 17時
審査	令和6年10月(書類審査) 令和6年12月(面接審査)
結果通知	令和7年1月下旬
助成対象期間	令和7年2月1日から令和8年10月31日まで

▶ 詳細は募集要項・公社ホームページをご覧ください。
<https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/jigyo/fermtech/index.html>

お問い合わせ先

公益財団法人 東京都中小企業振興公社
助成課 フェムテック担当
〒101-0022 東京都千代田区神田錦町3-3 大東ビル4階
TEL: 03-3251-7894～5
e-mail: fermtech@tokyo-kosha.or.jp



イ 働く女性のウェルネス向上事業

東京都では、生理やPMS（月経前症候群）、更年期症状、産後のホルモンバランスの乱れなど女性特有の体調不良は、女性が仕事を続け、活躍していく上でハードルとなることがあるため、職場環境の課題等についての声を広く収集し、好事例の発信や奨励事業を実施することにより、企業・従業員双方の意識を高め、働く女性のウェルネス（心身の健康）を向上させていくムーブメントを創出している。

① 特設サイト「働く女性のウェルネス向上委員会」での情報発信

働く女性の健康課題に関するサイト「働く女性のウェルネス向上委員会」を令和5年10月に開設し、生理やPMS（月経前症候群）、更年期症状、産後のホルモンバランスの乱れなどをテーマに、経営者や管理職はじめ、男女問わず企業で働く皆様に役立つ情報を発信している。

【掲載内容】

○働く女性の健康課題別体験談

女性が働くうえで女性特有の体調不良により困った体験談を4コマ漫画などで紹介。産業医で産婦人科医によるアドバイスも掲載。

○企業の取組事例

健康課題を抱える女性従業員に対する支援を行っている企業にインタビューし、自社で取組を取り入れるイメージができるよう伝える。

○専門家コラム

企業と働く女性の双方にとってすぐに役立つ専門知識を紹介。

(例)

- ・生理・更年期のセルフチェック
- ・男性のセクハラ不安
- ・生理・更年期症状の治療
- ・調査から見る生理の悩みと支援実態
- ・フェムテック
- ・産後のホルモンバランス

○短編動画

生理・更年期等について全5本の動画で解説。順次公開予定。

○アンケート結果

令和5年5～6月に企業・女性従業員を対象に都が実施したアンケート結果を紹介。

○オンラインセミナーのアーカイブ

オンラインセミナー終了後アーカイブを掲載。

女性特有の健康課題を知る、学ぶ！

働く女性の ウェルネス向上委員会

女性のウェルネス向上のためには、職場の誰もが我がこととして考える、「取り組みの主体者」である必要があります。

そこで、本サイトでは、この課題に向き合う人を主体的な「委員会のメンバー」と考え、ウェブサイト名に「委員会」を入れて、職場のみんなで取り組んでいくことを目指します。あなたも今日から、本委員会のメンバーとして活動してください！

女性特有の健康課題への取り組みが弱い職場環境は、キャリアアップ意欲低下や継続勤務意向の低下、生産性ダウンなど、働く女性と企業経営側の双方に大きな損失を招いています。

アンケート結果や体験談から女性特有のつらさを理解し、専門家によるわかりやすい解説と豊富な取組事例を通じて、あなたの会社も職場環境の改善に取り組み、女性のウェルネス向上を進めましょう。

自身の健康を後回しに



【企業の取組事例】職場における女性の健康課題を、現場のアイデアとコミュニケーションで乗り越える



【短編動画】フェムテックで女性の健康課題をサポート



【アーカイブ動画公開中】男性が知っておくべき、女性の生理と更年期、職場の取組教えます



女性の健康課題別 体験談

働く女性のリアルな悩みとは？



企業の取組事例

各社の先進事例をインタビュー



専門家コラム

産婦人科医などがレクチャー



短編動画

気軽に学べる動画を公開



オンラインセミナー

男性にもわかりやすいアーカイブ動画公開中



アンケート結果

東京都の企業と働く女性に実態調査

② オンラインセミナーの実施

以下の2つのセミナーをライブ配信（視聴無料）。配信後は、アーカイブとして特設サイトに掲載される。

a 一般向けセミナー

経営者、管理職、従業員など幅広い層に向けたセミナー。対象は、経営者、管理職、従業員など

（例）

～更年期休職・離職を防ぐには？～

もっと快適に働くために、女性と企業が今日からできること

・「今こそ知りたい 女性のライフステージと健康課題」

昭和大学医学部 医学教育学講座 准教授 有馬牧子氏

・「女性の健康課題をめぐる最新状況と、快適に働き続けるための処方箋」

有馬牧子氏、小島慶子氏（タレント／エッセイスト）との対談

・働く女性への健康支援を行っている企業の事例紹介

b 男性向けセミナー

男性の理解や参画を進めるための“男性向け”に特化したセミナー。対象は、男性の経営者、管理職、従業員（女性も視聴できる）

（例）

～女性の健康課題による経済損失は3.4兆円！～

男性が知っておくべき、女性の生理と更年期、職場の取組教えます

・「仕事にも大きく影響する、女性特有の健康課題とは？」

慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学教室 講師 飯田美穂氏

・「現場の取組で変わる！ 女性の健康支援の進め方」

女性の健康支援に取り組む企業2社による事例紹介

・「快適な職場づくりのために男性が知るべきこと、今すぐできること」

企業担当者の座談会

③ フェムテック導入による職場環境の整備等奨励金

フェムテック製品・サービスを新たに導入し、福利厚生制度の整備や拡充等に取り組む都内企業等に対して、その取組を奨励する事業を実施。

a 奨励事業

奨励事業実施期間内に、奨励事業の取組事項を全て実施した場合に奨励金を支給する。

	取組事項	内容
1	社内意向調査の実施	社内意向調査を実施し社内の女性従業員が抱える健康課題を把握した上で、取組事項2で実施する事業を決定
2	女性特有の健康課題と仕事の両立を可能とする職場環境整備のため実施す	次のいずれか1つを実施 (1) フェムテック製品・サービスの新たな導入による福利厚生制度整備事業

	る事業の実施	(2) 女性特有の健康課題への支援を目的とした新たな設備整備事業
3	相談窓口の設置	整備した福利厚生制度又は設備に関する問合せ等に対応する相談窓口を社内に新たに設置
4	社内説明会の実施	都内に勤務する全従業員を対象に、次の①～③について情報提供を行うこと。 ①社内意向調査の集計結果・概要 ②福利厚生制度又は設備の概要及び運用ルール等 ③相談窓口

b 対象事業者要件

- 都内で事業を営んでいる企業等であること
- 都内に勤務する常時雇用する労働者を女性2人以上、かつ、6か月以上継続して雇用していること
- 知事がホームページ等で企業名等及び取り組んだ奨励事業の内容等について公表することに同意していること

c 奨励金交付額（定額）

10万円

ウ 卵子凍結に係る費用助成

① 対象者

東京都に住む18歳から39歳までの女性（採卵を実施した日における年齢）

② 対象要件

※ 次のすべてに該当。

- ・都が開催する卵子凍結に係る費用の助成対象者向け説明会へ参加した後、調査事業への協力申請を行い、協力承認決定を受けること。
- ・本人が説明会に参加した日から1年以内に、卵子凍結に係る医療行為を開始すること。
- ・説明会への参加を申し込んだ日から未受精卵子の凍結が完了し、都へ申請する日までの間、継続して東京都の区域内に住民登録をしていること。
- ・説明会へ参加した日以降に、登録医療機関において医療行為を開始すること。
- ・排卵を実施した日における対象者の年齢が18歳以上40歳未満であること。
- ・凍結卵子の売買、譲渡、その他第三者への提供を行わないこと。また、海外への移送は行わないこと。
- ・凍結卵子を用いて生殖補助を実施する場合は、必ず夫（婚姻の届出をしていないが、事実上の婚姻関係と同様の事情にある者を含む。）の精子を使用すること。
- ・卵子凍結後も都の実施する調査に対し、継続的に回答すること。（調査は令和10年度まで実施）
- ・調査協力助成を受けようとする医療行為について、他の法令等の規定により、国又

は地方公共団体の負担による医療に係る給付の対象とならないこと。

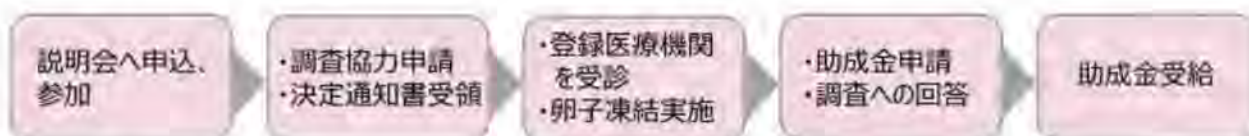
③ 助成額

- ・卵子凍結を実施した年度 上限 20 万円
- ・次年度以降、保管に係る調査に回答した際に、1 年ごと 一律 2 万円（令和 10（2028）年度まで実施）を予定（令和 5 年度凍結の方→最大 30 万円 令和 6 年度凍結の方→最大 28 万円）

④ 対象となる医療行為

採卵準備のための投薬・採卵・卵子凍結

⑤ 助成金支給までの流れ



エ TOKYO プレコンゼミ

※プレコンセプションケア（プレコン）とは、性や妊娠に関する正しい知識を身に付け健康管理を行うよう促すことを指す。プレコンは、子供を持ちたい人もそうでない人にも、誰にとっても若いうちからの大切な取組。

① 講座内容

- ・未来の家族を考えたとき、知っておきたいこと
生活習慣～知っておきたい検査値（AMH 検査、経膈超音波検査、精液一般検査、風しん抗体検査等）～妊娠成立に関する知識（講師：国立成育医療研究センター医師等）
- ・妊娠・出産前のヘルスチェック支援のご案内

② 対象

妊娠・出産をこれから考える、都内在住の 18～39 歳の方

（２－２）愛知県「東三河フェムテック産業推進事業」

東三河地域では 2008 年から人口減少が始まり、特に進学・就職に伴う若年女性の大都市圏への転出超過が課題となっていることから、地域に女性が、魅力ややりがいを感じられ、輝くことができる産業分野を創出する必要がある。

そこで、東三河県庁では全国に先駆け、独自の 3 者協働体制（フェムテック専門家の助言を受けながら、商品開発事業者と女性チームが共同で商品開発を行う。）を構築することによりフェムテック産業を育成し、産業振興及び雇用確保、女性の活躍につなげるとしている。

ア キックオフセミナーの開催

2024 年 6 月キックオフセミナーを開催し、フェムテックの基礎知識から女性の「こころ」と「からだ」の健康、企業における女性の健康対策まで幅広い内容の講演会を開催した。

イ 「東三河フェムテック」ロゴマークの作成

東三河地域でフェムテック産業を推進するため、ロゴマークを作成し、PR に活用している。



ウ 「東三河フェムテック産業推進事業」Web サイトの立ち上げ

情報発信のためフェムテック産業推進事業の Web サイトを立ち上げている。サイトの内容は以下の通り。

- ・東三河フェムテック産業推進事業について
- ・専門家インタビュー記事
- ・セミナー情報
- ・フェムテック商品開発サポートデスクについて

エ 「フェムテック商品開発サポートデスク」の開設

フェムテック商品開発に係る相談を随時受け付けるサポートデスクを設置し、専門家による相談対応を行う。



フェムテックで広がる！ 東三河の新たな未来！

女性が自分らしく輝く地域を目指して、東三河から「フェムテック」について発信していきます。

2024 6/22 (土) 14:30~16:40

受付 14:00~〈会場とオンラインのハイブリッド開催〉

会場：emCAMPUS STUDIOセミナールームA・B(豊橋市駅前大通二丁目81 emCAMPAS EAST 5階)

定員：50名(会場)+50名(オンライン/ZOOM利用)

対象：主に東三河地域に在住(勤・学)のフェムテックに関心のある方、フェムテック産業に関心のある事業者



第1部 フェムテックってなに？

現在市場規模が拡大しているフェムテックについて、
海外の事例や歴史も踏まえながら基礎知識をお話します。

株式会社サンレイ・インターナショナル 代表取締役
森田敦子氏

パリ13大学医薬学部で植物療法を学び、日本での普及に尽力する第一人者。

14:40-15:05

**参加費
無料**

※オンラインの場合、
通信料は自己負担と
なります。



第2部 女性のこころとからだの健康について

思春期から更年期まで、女性にどのような健康課題があり、
どのような対策が必要かお話します。

今泉産婦人科医院 副院長・日本産婦人科学会認定医
矢野有貴氏

女性ヘルスケア専門医として、様々な年代の女性の悩みに向き合いながら対応。

15:05-15:30

フェムテックとは

「Female」(女性)と
「Technology」(技術)か
らなる造語であり、生理
や更年期などの女性特
有の悩みについて、先進
的な技術を用いた製品・
サービスにより対応する
もの。



第3部 女性の健康対策が企業の未来を変える

女性の健康課題が与える経済への影響、
企業が健康対策に取り組む必要性やその事例をお話します。

株式会社ジョコネ。代表取締役
北奈央子氏

「医療・健康」「女性」「自分らしく」をキーワードに、2016年から女性のヘルシリティを研究。

15:40-16:05

第4部 トークセッション

講師陣のトークセッションで、
様々な見方でフェムテックへの理解を深めます。

16:10-16:40

お申し込み方法

ウェブサイト内特設ページからお申し込みください。
<https://higashimikawa-femtech.jp/seminar>

※申し込み多数の場合は抽選となります。オンラインでの参加ご希望の方はお申し込み後に、視聴URLをお送りします。

申込締切 会場参加/6月12日(水)
オンライン/6月20日(木)



主 催／東三河県庁(愛知県東三河総局)
お問い合わせ／県事業委託先 中日新聞社メディアビジネス局「東三河フェムテック産業推進事業」係
TEL.0564-23-3051(平日10:00~16:00)

出典：愛知県HP、以下本項内同様

専門家が
アドバイス
いたします



フェムテックで広がる! 東三河の新たな未来!

フェムテック商品開発サポートデスク

東三河地域のフェムテック商品開発を促進するため
フェムテック商品開発に係る相談にお答えします。

What's Femtech?

フェムテックとは、「Female」(女性)と「Technology」(技術)からなる造語であり、生理や更年期などの女性特有の悩みについて、先進的な技術を用いた製品・サービスにより対応するもの。



こんなご質問・お悩みに
専門家がお答えします

相談費用無料

- フェムテック商品開発のアドバイス
- フェムテック商品開発についてのビジネス・法規制・特許に関すること等

利用対象者

- 東三河地域の事業者
- 東三河地域での起業を考えている事業者(スタートアップ含む)
- 東三河地域の事業者との共同開発を行う東三河地域外の事業者(スタートアップ含む)

サポートデスクの運用フロー



ご質問・ご相談はこちらから

<https://higashimikawa-femtech.jp>

URLにご連絡ください。随時、折り返しご連絡します。

[開設期間] 2024年5月22日(水)～2025年3月上旬まで

【ご注意】※相談費用は無料ですが、通信料、対面での相談の場合のご自身の交通費はご負担ください。

※お問合せの内容によっては、回答までにお時間をいただく場合がございます。

※お問合せの内容によっては、回答を差し控えていただく場合がございます。※お問合せ内容を確認後、担当者よりご連絡いたします。



主催/東三河県庁(愛知県東三河総局)

お問い合わせ/サポートデスク運営/中日アド企画内「東三河フェムテック産業推進事業 フェムテック商品開発サポートデスク事務局」

TEL.052-239-1222(平日10:00～12:00/13:00～17:00)

e-mail: higashimikawa-femtech@chunichi-adnet.co.jp

東三河フェムテック産業推進事業 商品開発事業者募集!

東三河の女性アドバイザーと新たなフェムテック商品を
企画・開発する地元事業者を募集します!

事業者への支援内容

専門家アドバイス

で商品企画・開発をサポート

フェムテック商品の企画・開発について、専門家によるアドバイスで伴走支援します。



こんな女性特有の悩みがある
こんな商品があれば改善できそう



専門家



森田敦子氏

株式会社サンレイ・インターナショナル
代表取締役

植物療法に関する商品の研究・開発・製造販売
店舗展開および教育事業などを展開。



北奈央子氏

株式会社ジョコネ。
代表取締役

骨盤底筋トレーニングの提供など女性の
ヘルスリテラシー向上に関するサービス開発・提供を実施。



矢上清乃氏

株式会社学び舎mom
代表取締役

女性のライフステージに合わせたキャリアアップ、
雇用創出、起業支援事業を展開。

情報発信・販路拡大

をサポート

商品や取組について、新聞告知、WEBサイト、SNS広告
など多様な方法でPRします。開発した商品の販路拡大
も支援します。



参加申込

参画対象

フェムテック商品開発に意欲的な東三河地域の事業者
※2カ年参画でき、最終的に開発・販売までできる事業者

申込締切 2024年8月9日(金)

申込方法

ウェブサイト内特設ページからお申し込みください。

<https://higashimikawa-femtech.jp/work>



採択方法

申し込み多数の場合は、申込内容を考慮し、東三河県庁と事業受託者で協議の
上で決定致します。不採択の場合、申込内容情報を外部に漏らすことはありません。
結果を8月20日以降に通知します。なお、決定結果に対する異議やご質問に対し
ては、お答えしかねますのでご了承ください。

採択後のスケジュール

2024年度	2025年度
商品企画WG 11月～1月 (3回)	報告会 3月 (1回)
	商品開発WG (3回予定)
	販売開始

（２－３）富山県「働き方改革・女性活躍サポート事業費補助金」

富山県では、企業パフォーマンスが改善される働き方改革・女性活躍に関する取組みを行う事業者を応援するための補助金を創設した。

ア 対象者

富山県内に事業所を有する企業、個人事業主、団体（協同組合、社団法人など）。

「次世代育成支援対策推進法」又は「女性活躍推進法」に基づき、一般事業主行動計画を策定し、主たる事業所の所在地の都道府県労働局雇用環境・均等部（室）に届出を行っていること。

イ 対象事業

働き方改革・女性活躍を推進する事業

①制度や環境の整備

（例１）アドバイザー等を活用した職場環境整備や社内セミナー等の実施

アドバイザーや外部講師等を活用し、働き方改革や女性活躍の推進につながる業務環境改善計画の作成や社内規定整備等のコンサルティング、システムの導入、社内セミナーやワークショップ等を実施

（例２）女性従業員を対象とする管理職体験制度やメンター制度を導入

女性従業員が管理職の仕事を一時的に擬似体験する機会を持つ制度や、役職者等がメンターとなり女性従業員を継続的にアドバイスする制度を導入

②女性の活躍分野拡大

（例３）女性を中心とする社内プロジェクトの実施

新商品開発、新規事業立案、働き方改革・女性活躍の推進等といった特定のテーマのもと、女性を中心とする社内横断的なチームによりプロジェクトを推進

（例４）ブランディング・マーケティング人材の活用

女性の抱える課題や視点に着目し、製品や商品の付加価値を高めるため、ブランディングやマーケティング人材として女性を起用

③女性の健康課題への対応

（例５）フェムテック製品・サービスの導入

月経、妊娠・不妊、産後ケア、更年期、婦人科系疾患など女性特有の健康課題をテクノロジーで解決に導く製品やサービスを導入（例：簡易検査キット、月経管理アプリ、相談サポートなど）

（例６）女性特有の健康課題（月経・妊娠前後の体調・更年期障害等）に対応するための休養スペースの整備、搾乳室の整備

女性の休養スペースや搾乳室等の整備のための施設改修、設備の導入（設備例：パーテーション、カーテン、搾乳用チェア、冷蔵庫、手洗い設備等）

④従業員の家事負担の軽減や男性の家庭進出

（例７）職場での家事・育児セミナーの実施

家事や育児に対する従業員の先入観を払拭し、男性の家事・育児への参加や女性の負担軽減につなげるためのセミナーを職場において実施

（例８）従業員の家事代行サービス等の活用に係る費用の助成

従業員が家事負担の軽減のために家事代行等の外部サービス等を活用する場合に、事業者がそのサービス料等を助成

ウ 対象経費

①ソフト整備

社内研修費、アドバイザー活用経費、広報費、システム改修費、教育訓練費、フェムテック製品・サービス導入費、家事代行等助成費、実証経費その他

②ハード整備

パーテーション、カーテン、搾乳用チェア、冷蔵庫、手洗い設備その他

エ 補助額

対象経費の2分の1（上限額：ソフト整備 25 万円、ハード整備 50 万円）

ハード整備は女性の健康課題への対応に係るものに限る。

● 補助金の活用例

1 制度や環境の整備

- ◆ アドバイザー等を活用した職場環境整備や社内セミナー等の実施
- ◆ 女性従業員を対象とする管理職体験制度やメンター制度の導入

- ◆ アドバイザーや外部講師等を活用し、働き方改革や女性活躍の推進につながる業務改善計画の作成や社内研修型講座等のコンテンツ開発、システム導入、社内セミナーやワークショップ等を実施
- ◆ 女性従業員が管理職の仕事を一時的に疑似体験する機会を持つ制度や、役職者等がメンターとなり女性従業員を継続的にアドバイスする制度を導入

2 女性の活躍分野拡大

- ◆ 女性を中心とする社内プロジェクトの実施
- ◆ プランディング・マーケティング人材の活用
- ◆ 新商品開発、新規事業立案、働き方改革、女性活躍の推進等といった特定のテーマのもと、女性を中心とする社内横断的なチームによりプロジェクトを推進
- ◆ 女性の抱える課題や視点に着目し、製品やサービスの付加価値を高めるため、プランディングやマーケティング人材として女性を起用

3 女性の健康課題への対応

- ◆ フェムテック製品・サービスの導入
- ◆ 女性特有の健康課題（月経・妊娠前後の体調・更年期障害等）に対応するための休業スベスや母乳室の整備
- ◆ 月経、妊娠、不妊、産後ケア、更年期、婦人科疾患など女性特有の健康課題をテクノロジーで解決に導く製品やサービスを女性従業員向け福利厚生として導入
- ◆ 女性の休業スベスや母乳室等の整備のための施設改修、設備の導入（設備例：パーテーション、カーテン、押入れドア、冷蔵庫、手洗い設備等）

4 従業員の家事負担の軽減や男性の家庭進出

- ◆ 職場での家事・育児とミニナーの実施
- ◆ 従業員の家事代行サービス等の活用による費用の助成
- ◆ 家事や育児に対する従業員の参入を促し、男性の家事・育児への参加や女性の負担軽減につなげるためのセミナーを職場において実施
- ◆ 従業員が家事負担の軽減のために家事代行等の外部サービス等を活用する場合に、事業者がそのサービス料等を助成



7～8月 外部のアドバイザーを活用し現状把握、課題の洗い出し等
9～12月 外部のアドバイザーの助言を踏まえた改善計画の作成、社内研修の実施等
1月 改善内容の実現、効果測定等

外部のアドバイザー活用経費等



7月 社内プロジェクト内部の検討
8月 社内プロジェクトの立ち上げ
9～11月 新商品開発、新規事業立案等、企業の運行
2月 社内アンケート実施

プランディング人材の人事費、社内研修経費等



7月 フェムテック製品の導入
9～11月 従業員のフェムテック製品の利用
2月 従業員のアンケート実施

セミナー開催費、フェムテック製品の購入費、社内研修経費等



8月 従業員の家事代行サービス等補助制度策定
9～11月 家事代行サービス等を利用・補助申請した従業員に費用補助
2月 社内アンケート実施

従業員の家事代行利用料金、社内研修経費等

この他にも、働き方改革・女性活躍に資する取組みを応援します。詳細は、下記まで！

お問合わせ 富山県知事政策局 働き方改革・女性活躍推進室 女性活躍推進課

〒930-8501 富山県新湊1-7 防災危機管理センター9階

TEL: 076-444-3328 FAX: 076-444-3479 Mail: ahtarakikata@pref.toyama.lg.jp



令和6年度

働き方改革・女性活躍サポート事業費補助金のご案内

富山県内企業の働き方改革や女性活躍の推進に向けた取組みを募集します。取組みを通して企業の成長とウェルビーイングの実現を目指しましょう！



「働き方改革」「女性活躍」は「経営戦略」です。
～従業員のウェルビーイングは企業成長の好循環～

少子化に伴い、労働力人口が減少していく中、人材の確保もこれからは困難な状況になります。

企業が継続的に事業を行うためには、従業員にとって魅力的な職場を作るとともに労働生産性を向上させる「働き方改革」や、「女性活躍」をはじめとした多様な人材の活躍に向けた取組みが不可欠です。男女問わず多様な人材に活躍・成長の機会を設けてサポートを行うことで、市場ニーズに対応する柔軟な発想やアイデアの創出にもつながり、企業価値の向上も期待できます。

富山県女性活躍推進戦略
企業の成長と
ウェルビーイングの
実現に向けて
▶詳しくはこちら

働き方改革・ 女性活躍サポート事業費 補助金の活用を！

※補助金活用事例は、
富山県のWEBサイトで紹介し、WHPします。



対象者

県内に事業所を有する企業、個人事業主、団体（協同組合、社団法人等）

※「次世代育成支援対策推進法」または「女性活躍推進法」に基づき、一助事業主が計画を策定し、主たる事業所所在地の都道府県労働局雇用環境・均等部（室）に届出を行っていること

応募方法 郵送もしくはメールにより、交付申請書を提出してください。

提出書類により内容審査のうえ採択します。採択の場合は、補助金の交付決定通知によりお知らせします。予算に達し次第、募集を終了します。

交付申請書等 下記のURLもしくは二次元コードからご覧いただける県のWEBサイトに様式を掲載しています。

<https://www.pref.fyama.jp/101703/kurashi/kyousei/kyouseikatsuyaku/2024/hatarakitaiposeikatsuyaku.html>



「とやま女性活躍企業」認定制度
中小企業等において女性が活躍しやすい職場づくりを後押しするとともに、「活はれる企業」としてのブランド力向上と優秀な人材確保を支援します。

Good!! Work&Lifeとやま
県内企業へ向け、働き方改革・女性活躍応援の企業取組みや先進事例を県民に広く発信し、企業も人もみなながら育ちを持って Good! と言える未来を目指すサイトです。

<https://good-work-life-toyama.jp/>



イクボス企業同盟とやま 加盟団体募集中
イクボス（＝従業員の仕事と家庭の両立が可能な職場環境づくりに取組む企業等のトップ）や働き方改革に関する先進的な取組みを広めるとともに、企業等の枠を超えたネットワーク形成を支援します。
まずは「イクボス宣言」を！

加盟のメリット
・イクボスや働き方改革に関する先進的な取組め等をニュースレターでお届け
・働き方改革に関する最新情報・支援制度の提供
・加盟団体の「イクボス宣言」等発表の掲載サイトで紹介

効果

信頼を得られる制度、働きやすい職場環境を築き、働きやすい職場づくりの促進を図ることで、製造業においては「女性活躍推進法」と思われる傾向があるが、お互いの個性も尊重し、認め合う社風になるよう、意識改革が必要であるとの認識が広がった。

女性社員（管理職）を対象としたメンター制度の導入
カスタマーサービスの向上・業務運営の改善のため、メンターを交えたミーティングを定例化

ファインテックス株式会社



女性の健康に関するセミナーの実施
女性社員・管理職・男性リーダーを対象としたウェルネスセミナーを開催

活用事例
※通年型の増収事業の取組を補助しています。

行政書士法人朝風のアド



女性特有の健康課題に対応するための
休養スペースの整備
女性が活躍できる環境整備の第一歩として、女性専用の休養スペースを設置

有限会社やまやと電機工業所



効果

女性が安心して休養できる場所を確保したこと、女性社員のモチベーションが向上した。また、男性が活用してはいるイメージのある職場において、女性が働きやすい環境整備を先駆けて実施し、公表することで、雇用定着と新規雇用の獲得促進の向上が見込まれる。

管理者向けの育児・介護セミナーの実施
男性育児や介護についての理解を深め、管理者としての役割を改めて考えるための育児・介護セミナーを実施

効果

男性の育児休業に対する意識の変化や新たな制度の概要、介護休業の本質的な目的などについて理解することができ、育児を取得しやすい雰囲気づくりや育児取得に備えた業務の見直しが必要であることを認識することができた。

株式会社東洋電機製作所



従業員の家事代行や便利家電等の活用に係る経費助成
福利厚生の一環として、従業員の家事負担の軽減のため、「オフィスでごはん」サービスを導入

サニーライフホールディングス株式会社



効果

「お弁当の手間がなくなりました。朝の時間に余裕ができました。そのため仕事に集中しやすくなり、結果として仕事の効率が上がりました」「お弁当を頂くことで家事に余裕ができて、家族との時間を満喫してリフレッシュできました」と好評。今後もサービスを継続利用し、社員一人ひとりが余裕を持ち、女性にも管理職にもチャレンジしてもらええる職場環境づくりを推進する。

富山県働き方改革・女性活躍サポート事業費補助金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、富山県補助金等交付規則（昭和37年富山県規則第10号。以下「規則」という。）第21条の規定に基づき、富山県働き方改革・女性活躍サポート事業費補助金（以下「補助金」という。）の交付に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 従業員のウェルビーイング向上に資する取組み、ひいては企業パフォーマンスが改善される働き方改革・女性活躍に関する取組みを行う富山県内の事業者を支援することを通じて、やりがいがあり、仕事と家庭の両立ができる職場環境づくり促進を目的とする。

(補助事業者)

第3条 補助金の交付を受けることができる者（以下「補助事業者」という。）は、次世代育成支援対策推進法又は女性活躍推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定し、主たる事業所の所在地の都道府県労働局雇用環境・均等部（室）に届出を行っている富山県内に事業所を有する企業、個人事業主、団体とする。

(補助事業)

第4条 補助金の対象となる事業（以下「補助事業」という。）は、働き方改革や女性活躍を推進する事業とし、具体的には別表1に列挙するものを指す。

(補助対象経費及び補助率等)

第5条 補助事業に要する経費（以下「補助対象経費」という。）、補助率及び補助上限額は、別表2のとおりとし、予算の範囲内において、補助金を交付する。2 補助金の交付額は、補助対象経費に別表に掲げる補助率を乗じて得た額と補助上限額のいずれか低い額とする。ただし、算出した補助金の額に千円未満の端数があるときは、その端数は切り捨てるものとする。

(補助金の交付の申請)

第6条 補助金の交付の申請をしようとする者は、規則第3条第1項の規定により、補助金交付申請書（様式第1号）に関係書類を添えて、知事が別に定める期間内に提出しなければならない。なお、申請できる回数は1補助事業者につき1回とする。

(補助金の交付の決定)

第7条 知事は、前条の規定による申請書の提出があったときは、当該申請書の内容を審査し、知事が別に定める基準等により、補助金を交付すべきものと認めたときは、速やかに補助金の交付を決定するとともに、その内容を申請者に通知するものとする。

2 知事は、前項の場合において、必要があるときは、補助金の申請に係る事項につき修正を加えて交付決定をすることができるものとする。

(交付の条件)

第8条 規則第5条の規定により、補助金の交付に付する条件は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 補助事業の内容又は補助事業に要する経費を変更する場合においては、あらかじめ承認申請書（様式第2号）により、知事の承認を受けること。ただし、次条に規定する軽微な変更については、この限りではない。
- (2) 補助事業を中止し、又は廃止する場合においては、あらかじめ承認申請書（様式第2号）により、知事の承認を受けること。
- (3) 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、速やかに知事に報告し、その指示を受けること。
- (4) 補助事業の成果を従業員に対するアンケートやヒアリング等により検証するとともに、知事からの求めに応じて、県の広報に協力すること。
- (5) 補助事業に係る経理について、その収支の事実を明確にした証拠書類を整備し、かつ、これらの書類を補助事業完了の日の属する年度の翌年度から起算して5年間保存すること。

(軽微な変更)

第9条 前条第1号ただし書きの規定による軽微な変更とは、次に掲げる変更以外の変更とする。

- (1) 事業主体を変更すること。
- (2) 事業目的を変更すること。
- (3) 事業内容を変更すること。
- (4) 補助金交付決定額の20パーセント以上の変更をすること。

(申請の取下げ)

第 10 条 補助金の交付決定の通知を受けた者は、当該通知に係る補助金の交付決定の内容又はこれに付された条件に不服があるときは、当該通知を受けた日から 10 日を経過する日までに申請の取下げをすることができる。ただし、知事が特に必要と認める場合は、この期間を短縮し、又は延長することができる。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る補助金の交付決定はなかったものとみなす。

(実績報告、額の確定及び支払い)

第 11 条 補助事業者は、補助事業が完了したときは、規則第 12 条第 1 項の規定により、実績報告書(様式第 3 号)に関係書類を添えて知事が別に定める期日までに提出しなければならない。

2 知事は、実績報告書の提出を受けたときは、報告書等の書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、補助金の交付決定の内容に適合すると認めた場合 3 には、交付すべき補助金の額を確定のうえ、当該補助金を支払うものとする。

(交付決定の取消し)

第 12 条 知事は、補助事業者が補助金を他の用途へ使用するなど、その補助事業に関して補助金の交付決定の内容又はこれに付された条件に違反したときは、補助金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

(補助金の返還等)

第 13 条 知事は、補助金の交付決定を取り消した場合において、補助事業の当該取消しに係る部分に関し、既に補助金が交付されているときは、規則第 16 条第 1 項の規定により、期限を定めてその返還を求めるものとする。

(その他)

第 14 条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 (第 4 条関係)

区分	類別	内容
制度や環境 の整備	アドバイザー等を活用した職場環境整備や社内セミナー等の実施	働き方改革や女性活躍の推進につながる、アドバイザーや外部講師等を活用した現状把握・課題の洗い出し・改善計画の作成・社内規定の整備・業務環境改善のためのシステム等の導入や、社内セミナー、ワークショップ等を実施
	管理職体験制度の導入	女性従業員が管理職の仕事を一時的に疑似体験する機会を持つ制度を導入
	メンター制度の導入	経験を有する年長の従業員がメンターとなり、アドバイスを受ける女性従業員との間で定期的な面談を継続して行う制度を導入
女性の活躍 分野の拡大	社内プロジェクトの実施	女性活躍推進、働き方改革など特定のテーマのもと、社内横断的なチームを立ち上げてプロジェクトを推進
	ブランディング人材・マーケティング人材の活用	女性の抱える課題や視点に着目し、製品・商品の高付加価値化を図るためのブランディング人材やマーケティング人材として女性を起用
女性の健康 課題への対応	フェムテック製品・サービスの導入	月経、妊娠・不妊、産後ケア、更年期、婦人科系疾患など、女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスを女性従業員向け福利厚生として導入
	女性特有の健康課題(月経・妊娠前後の体調・更年期障害等)に対応するための休養スペースの整備、搾乳室の整備	休養スペースや搾乳室等の整備にかかる施設改修費、設備費(パーテーション、カーテン、搾乳用チェア、冷蔵庫、手洗い設備など)
男性の家庭 進出や家事 負担の軽減	職場での家事育児セミナーの実施	従業員の家事や育児についての思い込みを解消し、男性の家事育児への参加や女性の負担軽減につなげるため、職場において家事育児セミナーを実施

1 上記のものを複数組み合わせることも可。

別表 2（第 5 条関係）補助対象経費及び補助率等

補助対象経費	補助率	補助上限額
・社内研修費（従業員の意識啓発等のための研修や家事育児セミナー等の実施に要する講師謝金・旅費、会場費、参考書籍購入費等の経費） ・アドバイザー活用経費（業務改善を進めるための外部アドバイザーの謝金、アドバイザー提案によるシステム導入費や製品購入・サービス導入等の初期経費。ただし、導入初年度に限る） ・広報費（社内外に対するアピールとして事前事後に行う広報のために要するホームページ改修費、社内報特集号発行費、動画作成費等の経費） ・システム改修費（補助事業の実施のため社内システムの改修等が必要な場合に要する経費） ・教育訓練費（ブランディング人材・マーケティング人材にかかる経費） ・フェムテック製品・サービス導入費（女性従業員に譲与、貸与または利用に供するため製品・サービスを一括して購入又はリース等するために要する経費。ただし、導入初年度に限る） ・家事代行等助成費（家事代行などの外部サービス等を活用する従業員に対するサービス利用経費等の助成に要する経費ただし、導入初年度に限る） ・実証経費（事業成果を計測するためのアンケート、個別ヒアリングの実施・集計等に要する経費） ・その他知事が適当と認める経費	2 分の 1	250 千円
・休養スペースや搾乳室等の施設改修費、設備費（パーテーション、カーテン、搾乳用チェア、冷蔵庫、手洗い設備など）	2 分の 1	500 千円

1 補助対象経費は補助金の交付決定日以降に支出し、かつ、補助事業の実施期間の間に要する経費に限る。

2 補助対象外経費は次のとおりとする。

- (1) 補助金の交付決定日前に支出し、又は補助事業の実施期間の終了後に納品、検収等を行ったもの
- (2) 汎用性があり、目的外使用が可能なもの（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）
- (3) 飲食、接待等の費用
- (4) 国や県等の他の補助金、助成金が充当される費用
- (5) 消費税及び地方消費税
- (6) その他補助事業の目的に照らし適当と認められない経費

（２－４）福岡市「健康課題と仕事の両立推進スタートアップガイド」、「実態調査」

①「健康課題と仕事の両立推進スタートアップガイド」

福岡市では、女性の就業継続やキャリア形成を図るため、企業における女性特有の健康課題等と仕事の両立や、ヘルスリテラシー（健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のこと。）向上の取組みを促進している。

そのため、女性特有の健康課題等について、「現状」、「課題」、「対応策」を知ることができる「健康課題と仕事の両立推進スタートアップガイド」を政令市で初めて作成した。

ア 内容

女性・男性特有の健康課題とは何か、なぜ企業での対応が必要なのか等の基礎知識から、企業での取組みに役立つツールや取組みの具体策を紹介。

- ・女性・男性特有の健康課題って何？
- ・なぜ、取り組むべきなの？
- ・具体的な取組み事例
- ・先進的な企業の取組み事例 等

イ 主な配布場所

- ・福岡市男女共同参画推進センター アミカス
- ・市役所情報プラザ（市役所１階）
- ・各区役所情報コーナー
- ・市内ハローワーク

ダウンロードして使おう！
健康課題と仕事の両立推進ツール

現状を知る



令和4年度
福岡市健康課題等と
仕事の両立に関する
事業所等実態調査

課題を知る

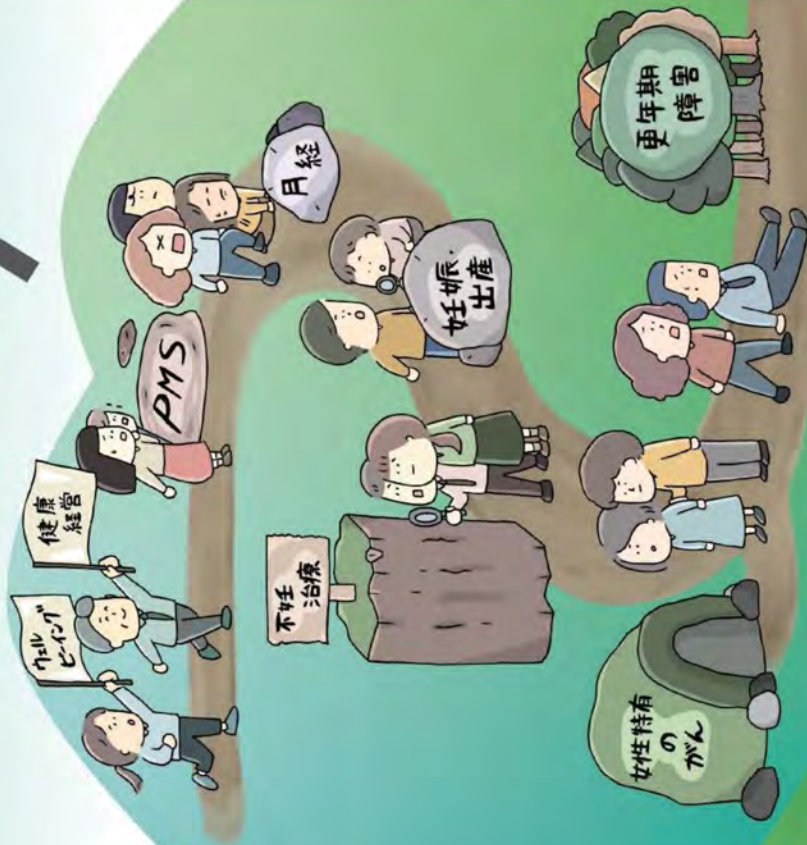


・取組みチェックリスト
・健康課題チェックシート



健康課題と 仕事の両立推進

スタートアップガイド



福岡市

福岡市 健康課題と仕事の両立推進スタートアップガイド 令和6年2月発行

発行／福岡市市民局男女共同参画部女性活躍推進課 監修／肥前県立大学 医学部

編集制作／株式会社サイズラーニング 衛生学公衆衛生学教室 飯田美穂氏

※本冊子のグラフの回答割合(%)は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%にはならないことがあります

※本冊子に掲載している情報は令和6年2月現在のもです

※本冊子の記事・写真・イラスト・レイアウト等の断断転写・転載を禁じます

©2024 福岡市

ここは、とある福岡市の事業所…



この「健康課題と仕事の両立推進スタートアップガイド」は、

女性・男性特有の

健康課題に関する3つを

「知る」ことのできる

ミニブックです。

現状

課題

対応策

生理痛や更年期障害、不妊治療など、
様々な不調や症状を抱えながら働く人が増えていることに、
近年、大きな注目が集まっています。

健康課題とは何か、なぜ組織での対応が必要なのか等の基礎知識から、職場の課題整理に役立つツールや、取組みの具体策までを1冊にまとめています。不調や病気を抱えても、誰もが
キャリアを諦めず、より長く働き続けていける組織にするための「スタートアップ」にご活用ください。

もくじ

1 現状を知る

- 04 | 女性・男性特有の健康課題って何？
- 06 | なぜ、取り組むべきなの？
- 08 | 従業員の本音をのぞいてみよう
- 10 | 企業担当者の悩みや困り

2 課題を知る

- 12 | 取組みチェックリスト
- 14 | 健康課題チェックシート
- 15 | 福岡市の検診・事業

3 対応策を知る

- 16 | 健康課題対応の具体策
- 18 | 市内企業の取組み事例
- 20 | 健康課題と仕事の両立推進ツール



女性・男性特有の健康課題って何？

現状を知る

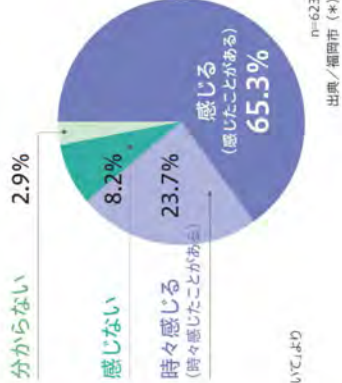
月経

月経不調による
労働損失は年間4,911億円

働く女性の大きな課題の一つが月経です。福岡市調査では、89%もの働く女性が(※1)が、月経痛や月経不順などの不調を感じたことがあると回答しています(図1)。また、月経関連の症状による労働損失(欠勤や労働量・質の低下等)は年間4,911億円にもものぼると試算され(※2)、経営的な観点からも無視できない状況です。

※1 調査対象者：福岡市内で働く20～60代女性
※2 平成31年経済産業省「健康経営における女性の健康の取組みについて」より

図1 | 月経関連の症状を抱える割合



PMS 月経前症候群

悩む女性が多いのに...
認知度の低さが課題

福岡市調査ではPMSの不調を抱える女性が多いことが分かっています(図2)。一方、症状の認知度の低さが大きな課題です。男性の8割近くが「詳しくは知らない」という状況で、女性とのギャップがみられます(図3)。まずは「正しく知る」ことが必要です。

図2 | PMSの症状を抱える割合(年代別)

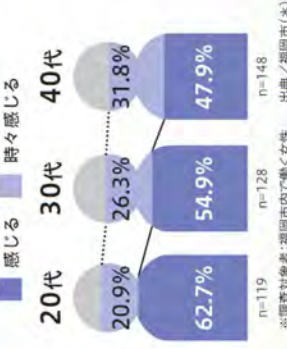
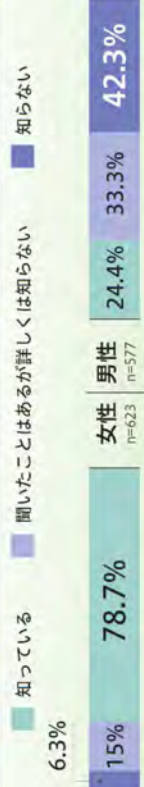


図3 | PMSの認知度



※調査対象者：福岡市内で働く20～60代男女
※PMS(月経前症候群)とは、月経の約3～10日前に現れる不調で、頭痛・腰痛などの体の症状や、イライラ・憂うつなどの心の症状など様々な不調が起ります。PMSの中でも精神症状が特に強く出てしまう状態をPMDD(月経前不快気分擾乱)といいます。

更年期障害

男女ともに様々な
不調に悩んでいる

更年期障害は、主に45～55歳の女性に多く、ほてりや多汗、イライラなど、様々な心身の不調が現れます。また、性ホルモンの分泌低下が始まる40歳代以降の男性にも症状が出るとされ(図4)、男女ともにキャリアの後期に影響する不調の一つです。

図4 | 更年期障害の症状を抱える割合



不妊治療

職場に言わずに
両立している人も

不妊治療と仕事を両立している人のうち、仕事と両立の難しさを感ずる人は9割(出典/福岡市※)。困難を感じing当事者が多いにも関わらず、治療のことを職場に伝えられない人も多いのが現状です(図5)。まずは当事者が一人で抱え込まず、職場に相談できる仕組みづくりが求められます。

女性特有のがん

働き盛りの
女性の罹患率が高い

女性特有のがん(※3)の中でも罹患率第1位が乳がんで、罹患率が年々増加しています(図6)。また、女性特有のがんを経験した女性の3～4割が、管理職昇進やキャリアアップに難しさを感ずる(出典/福岡市※)など、キャリア形成への影響がうかがえます。

図5 | 職場の誰に伝えているか



図6 | 年齢階級別がん罹患率推移:乳がん



注:1980年は上段内がんを含む。
出典/公益財団法人がん研究福岡県「がんの統計2023」より
※3 乳がん、子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がんのこと
※の出典はすべて令和4年度福岡市「健康課題等」仕事の両立に関する事業所等実態調査より

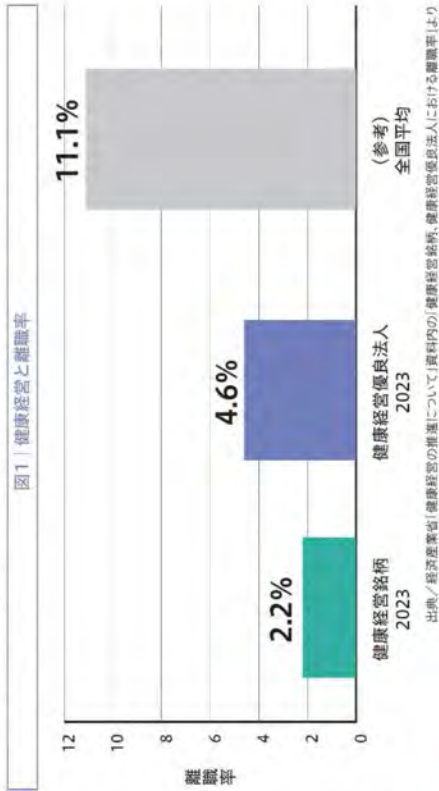
女性・男性特有の健康課題に なぜ、取り組みむべきなの？

現状を
知る

▶ 1, 優秀な人材の確保・定着につながるから

健康経営度が高い企業ほど、離職率が低い傾向にあります(図1)。また、学生の9割以上が学校への「生理休暇」の導入に賛成する(※1)など、これから社会に出る若者達が多くが、痛みや辛さを我慢せず過ごせる環境を就職先にも求めるでしょう。

※1 2021年一般社団法人日本若者協議会「みんなの生理」学校での「生理休暇」についてのアンケートより



▶ 2, 女性活躍推進につながるから

女性特有の健康課題(月経関連の症状やPMS、更年期障害等)を抱えることが、仕事の生産性だけでなく、女性のキャリアアップや昇進意欲にも影響を及ぼしています(図2)。健康課題への対応強化は女性の働きやすさや意欲向上につながるが、女性活躍推進にも好循環が生まれます。



健康課題と仕事の両立推進の取り組みには、従業員の健康維持や働きやすさ向上のみならず、組織にとっても様々なメリットがあります。4つの視点でみていきましょう。

▶ 3, 仕事の生産性が高まるから

健康課題を抱えることで仕事のパフォーマンスが通常時の半分程度まで低下することが明らかです(図3)。また、ヘルスリテラシー(※2)が高いほど、仕事のパフォーマンスが高いというデータもあり(図4)、職場全体で健康課題そのものを「知る」ことも生産性向上につながるでしょう。



▶ 4, 誰もが働き続けやすくなるから

今までの職場環境や制度設計が、実は「健康で若い男性」に最適化されていたために、男性と身体的特徴が異なる女性はもちろん、シニア男性や疾患を抱える人も、働きづらさを感じている可能性があります。健康課題対応は誰もが働きやすい職場環境整備につながります。

※の出典はすべて令和4年度福岡市「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」より



言えない辛さ、対応の難しさ…

従業員の本音をのぞいてみよう

現状を知る

▶ 従業員の悩み

痛みがひどく机に座っていられなくなり、給湯室でうずくまっていたら、女性従業員から「ここで辛そうにされると、私達の仕事にも支障が出るので困る」と言われた。女性からも理解してもらえず辛かった。

(20代女性・正社員)



40代前半で更年期症状が出たが、周囲には恥ずかしくて相談できなかった。会議中にハンカチでおさええないと流れ落ちるほどの汗が出て、会議に集中できなかった。

(40代女性・正社員)



お客様対応時に痛みが強くなり、話ができなくなった。周囲の人に言えず、お客様から「対応が悪い」とお叱りを受け、職場にも迷惑をかけてしまった。早めに相談できればよかった…。

(40代女性・正社員)

不妊治療と仕事を両立していたが、結局、職場に迷惑をかけたというストレスや流産経験もあり、会社を退職した。

(40代女性・経営者/役員)

妊娠中の出張や車の運転に配慮してほしいけれど、自分からは言いづらい…。

(20代女性・正社員)

不眠に悩んでいたが、「男性の更年期障害」の可能性があると知り、ショックを受けた。

(40代男性・正社員)



▶ 管理職の悩み

女性の部下が体調不良になったときに、詳しく聞いてよいのか悩む。ハラスメントにならないか…。

(30代男性・正社員・中間管理職)



部下が辛さを我慢していると分かるが、その症状を率直に共有してもらえない。

(30代男性・正社員・中間管理職)

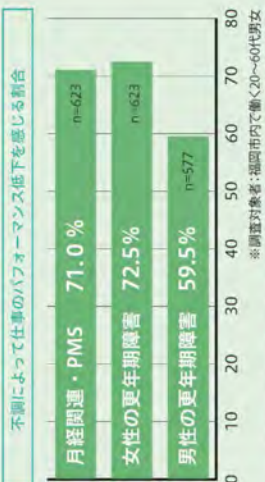
部下の相談にのった場合、上司への報告義務があるが、個人のプライバシーや本人の意向も考えると、健康面の悩みをどこまで報告してよいか迷う。

(50代女性・契約社員・中間管理職)



※2023年11月福岡市「女性・男性特有の健康課題等と仕事の両立に関するアンケート」より

▶ 不調によって仕事に支障が出ている



データで見る「従業員の本音」

令和4年度の健康調査でも、従業員や管理職層の「本音」がうかがえる結果が出ています。

▶ 健康課題を抱える部下対応に悩む管理職層



現状を
知る

市内企業の対応状況は？

企業担当者の悩みや困難

健康課題に悩む従業員は多い一方、職場の対応には遅れがみられる様子…。市内企業の担当者の悩みの声を真めました。

健康課題 = 組織課題
にしたいのに…

「健康課題は個人の問題」という認識が従業員の問でも根深い。

健康課題対応を、組織の問題として取り扱うことがそもそも難しい…。

従業員のプライベートに絡み込む問題なので職場で対応しづらい。

発信の難しさ

健康課題について知ってほしいし、従業員の健康意識も高めたい。けれど、どうやって伝えれば多くの従業員に伝わるのかが悩ましい。

関心をもってくれない層に、なかなか届かない。そんな従業員にこそ、健康の大切さを伝えたいのに…。

「対応策」の基準とは？

※2023年度「健康課題等と仕事の両立支援事業」ミニプロジェクト検討会議で得られた意見及び、令和4年度福岡市「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」結果をもとに編纂・再構成

健康課題と言っても人それぞれまったく異なる。何を基準として、どこから対策を打つべきか迷う。

千差万別の健康課題に、すべて対応できる取組みは、なかなか難しいと思う。

制度設計と
労務管理の
ハードル

従業員の状況を
正しく把握できていない可能性

健康課題を抱える
従業員がいますか？



不妊治療をしている
従業員がいますか？



データで見る
「市内企業の現状」

令和4年度の実態調査でも、市内企業の取組みが進んでいないなどの結果が明らかです。

従業員から相談がない企業が過半数

従業員から相談を受けたことがありますか？

健康課題に関する相談 不妊治療に関する相談

ない
(または把握していない)

66.2%

n=708

ない
(または把握していない)

91.7%

n=708

令和4年度福岡市「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」より



課題を
知る

まずはここからはじめよう！ 取り組みチェックリスト

チェックリストの
ダウンロードも可能です。
詳しくは裏表紙へ

CHECK

1

職場の理解を深める

まずは従業員本人のヘルスリテラシー向上と、周囲のメンバーの
理解促進の両輪が欠かせません。



☐ 社内ポータルサイトや社内報等での
健康課題に関する情報の発信

☐ 健康課題に関する研修会の実施

例) 当事者向け(総務人事・労務、女性活躍・多様性推進、
健康経営推進者等)、管理職向け、経営層向け、全従業員向け等

☐ 健康課題に関する啓発用冊子の作成・配布

☐ 啓発用動画の制作・配信

CHECK

2

相談体制を整える

従業員の相談先を整備し、気軽に相談できる場を作りましょう。

☐ 社内の相談体制の構築

(対応担当部署や担当者の明確化、対応マニュアルの整備等)

☐ 女性・男性特有の不調を相談できる
産業医やカウンセラーの配置

☐ 不調に悩む当事者限定の
コミュニケーションづくり
(チャットルームや交流の場の設置等)



CHECK

3

働きやすい職場づくり

不調時に休みやすい、治療等と両立しやすい職場環境の整備と、
上司や同僚に相談できる風通しのよい職場づくりを進めましょう。

☐ 従業員が活用できる制度やサポートの周知
(生理休暇や、病欠療養との両立・復職支援制度等)

☐ 柔軟な働き方の推進 (在宅勤務やフレックスタイム制度の推進等)

☐ 女性専用休憩室や不調時に使用できる
休憩スペースの設置

☐ 上司と個別に話せる機会づくり (1オン1ミーティング等)

取り組みがスムーズになる！ ワンポイントアドバイス

今すでにある施策を
応用展開してみよう

すでに取り組んでいる施策や既
存の制度に「女性・男性特有の健
康課題」の視点を取り入れてみま
しょう。例えば、時短・在宅勤務制
度は「女性・男性特有の健康課題」
を抱える従業員も対象とするな
ど、対象者を広げただけでも対応
力強化につながります。

CHECK ①～③まで進めたら
レベルアップしよう

ポトムアップで社内の理解が進んだら、
以下の取組みにもチャレンジしましょう。

■制度整備
女性・男性特有の健康課題に対応できる画立・
復職・休職制度等の検討 等

■フレーム設計
トップメッセージ発信、目標・計画策定、
専任の担当者や部署の設置 等

課題を知る

自社の従業員の状況は？
健康課題チェックシート

取組み策を検討するには
現状把握も有効です。社内で
活用してください。

Q1

以下の症状や不調で悩んだり、
仕事に支障を感じたりすることはありますか？

● 月経関連の症状 (月経痛・月経不順等)	ある	ない	分からない
● PMS (月経前症候群)	ある	ない	分からない
● 女性の更年期障害 (のぼせ、ほてり、多汗等)	ある	ない	分からない
● 男性の更年期障害 (関節・筋肉痛、ほてりや発汗、疲労感等)	ある	ない	分からない
● 不妊治療	ある	ない	分からない
● 婦人科系がん (子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等)	ある	ない	分からない

次の質問は、Q1で1つでも「ある」に○をつけた方のみお答えください。

Q2

症状や不調がないときの仕事の出来を100%としたとして、
症状や不調がある時のご自身の仕事の出来を評価してください。

不調時の仕事の出来 平均 () %

Q3

症状や不調で悩んでいることを、職場で相談したことがありますか？

1 はい 2 いいえ

「1. はい」に○をつけた方のみ Q4へ

「2. いいえ」に○をつけた方のみ Q5へ

Q4

誰に相談しましたか？
該当する番号に
すべて○をつけてください。

- 1 上司
- 2 同僚
- 3 人事総務等担当部署
- 4 専門の相談窓口
- 5 産業医やカウンセラー等の専門家
- 6 その他 ()

Q5

相談しなかった理由は何ですか？
該当する番号に
すべて○をつけてください。

- 1 相談先が分からなかったから
- 2 相談しづらかったから
- 3 職場で相談できることなどは思っていないから
- 4 その他 ()

Q6

健康課題に関して
困っていることや悩みが
あれば教えてください。

自由記述

課題を知る

活用しよう！
福岡市の検診・事業

福岡市や国が行っている
検診や事業情報です。従業
員へ周知しましょう。

子宮頸がん検診

子宮頸部粘膜の細胞診：子宮の入り口の組織をブラシや綿棒で採取し、がん細胞の有無やその種類を調べます。(受診間隔は、2年度に1回)

受診場所	20歳～69歳	満70歳以上
実施医療機関	1,200円	無料
健康づくりサポートセンター	400円	無料
市の施設等	400円	無料



乳がん検診

マンモグラフィ：乳房専用のエックス線撮影です。(受診間隔は、2年度に1回)

受診場所	40歳代 (2方向)	50歳～69歳 (1方向)	満70歳以上 (1方向)
実施医療機関	1,500円	1,200円	無料
健康づくりサポートセンター	1,300円	1,000円	無料
市の施設等	1,300円	1,000円	無料

土日や夜間の各種がん検診

健康づくりサポートセンターでは、土・日や平日夜間にも検診を実施しています。無料託児もあります(要予約)。

※検診日時や予約方法は、「けんしんナビ」WEBサイトにて検索してください。

※検診の料金は2023年12月現在のものです。

けんしんナビ



福岡市プレコンセプションケア推進事業

30歳を迎える女性に対し、健康や将来の生活を考えるきっかけとしてもらうため、産科・婦人科医療機関でのAMH検査(※)及び医師による説明を500円で受けられるよう助成しています。(対象者にはクーポン券を送付)

※AMH(アンチミュラー管ホルモン)という卵巣内の卵子の数の目安(卵巣予備能)を測る血液検査

詳細は
福岡市 HPへ



国の同立支援情報を活用しよう

厚生労働省では不妊治療と
仕事との同立支援のための
情報を公開しています。

厚生労働省WEBサイト

「雇用・労働 不妊治療と仕事との同立のために」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14408.html



先進事例から学ぶ！

健康課題対応の具体策

対応策
を知る

全国の先進企業の事例をピックアップして、詳しくご紹介します。健康課題対応をリードする企業をベンチマークして、取組みのヒントに役立てよう。

「女性の健康」に関する啓発活動を社内外で展開 「知って、気づいて、対処する」重要性を発信

取組みストーリー

大塚製薬は国内で「ダイバーシティ」という概念が浸透していなかった1980年代から誰もが働きやすい環境をめざすとともに、健康課題解決に向け先進的な取組みを行う。性別を問わず参加できる「女性の健康セミナー」を約10年にわたり定期開催する他、様々な世代の従業員が年間複数回、必ずこのテーマに触れられるような学習機会を設け、誰もがより働きやすい職場づくりを考えるきっかけを提供。自身の健康を考える行動変容に繋がるよう、ヘルスリテラシー向上のための「知って、気づいて、対処する」ことの重要性を伝えている。また昨今、産業界に婦人科医を招き、従業員が専用フォームから個別相談できる仕組みを備えた。女性従業員のみなならず、家族のことを相談する男性従業員の利用もあるそう。こうした支援提供の背景には、女性自身だけでなく、女性を取り巻く周囲の人や企業全体も巻き込んで「女性の健康を考える日常」を醸成し、「知って、気づいて、対処する」ことを日常にしてもいい、という考えがある。

さらに特筆すべきは、このような活動は社内にとどまらないという点だ。女性の健康サポート製品の研究・開発で培った知見を活かし、2015年から啓発活動を開始。翌年「女性の健康推進プロジェクト」を立上げ、企業（経営層、従業員）、自治体、個人向け等、対象者に合わせた女性の健康課題に関する情報発信を行う。活動を通じて「女性の健康は、自分ごとであり、企業ごとである」という意識醸成に挑む。

取組みのポイント

誰もが自分ごと化できる
制度・施策設計

大塚製薬では不妊治療、更年期症状の治療の他、新たに「性適合性手術・ホルモン治療」も対象に加えた「セルフケア休暇制度」が新設され、男女問わず自身の健康に配慮できる環境にある。

“正しく”理解できる
情報発信を重視

WEB サイトやYouTube 動画は専門医等の監修を行い「正確な」情報発信に尽力。



「女性の健康推進プロジェクト」のWEBサイト。

大塚製薬株式会社

<https://www.otsuka.co.jp/>

東京都千代田区神田司馬2-9

業種/医薬品・食品製造販売業

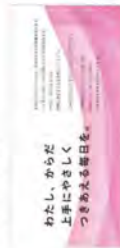
従業員数/5,827名

(うち女性1,462名)

※2023年12月31日現在



女性の健康に関し性別・世代を問わず学習し、健康課題への配慮が生まれる職場につながっている。



わたし、からだ
上手にやましく
つぎあえる毎日。

企業や業種の垣根を超えた共創活動で 「女性の健康課題」の障壁を乗り越える！

取組みストーリー

創業以来、女性の能力発揮の機会提供を続けてきたポーラ。従業員誰もが自身の可能性を信じ、自分らしい人生を過ごすための源泉は「健康」である、というDE&I推進理念のもと、特に見過ごされやすい女性の健康課題対応に注力している。従業員の7割以上を女性が占めるため健康課題ニーズも多岐にわたるが、月経・更年期症状等の課題サポートのためのフェムテックサービスの導入や、女性の婦人科産業医の配置、不妊治療・卵子凍結の費用補助、社内での生理用ナプキンの無料提供など、当事者のリアルな困りごとに寄り添ったきめ細やかな支援を提供している。

さらに2023年には、女性の健康課題を社会課題として見つめ直し、特有の悩みや健康をサポートするための組織横断の「フェムケアプロジェクト」が始動。働く女性の健康課題を考える異業種合同参加型プロジェクト「タブーを自由にラポ」を開催し、16社の企業とともに課題解決に向けてディスカッションを重ねた。参加メンバーからは、これまで職場や家庭では話せなかったパーソナルな悩みが多数聞かれ、個人が抱えていた悩みは共通の組織課題であることが可視化された。1社だけ、1人だけでは乗り越えることが難しい「女性の健康課題」も、他社とつながることで取組みに向けた一歩を踏み出すことができると、という好事例だ。



※2023年12月31日現在



「タブーを自由にラポ」では業界や職種は違っても共通する課題が多いことが明らかに。

取組みのポイント

従業員に寄り添う
施策の導入

全国の従業員が相談できるオンライン面談の導入や、メールでの婦人科専門相談窓口の開設など、誰一人取り残さず、アクセスしやすい施策を展開。

他社との共創で
取組みの輪を拡大

課題感を同じくする働く女性たちが共創できる場づくりが、企業各社のアクション喚起につながっている。



市内でもはじまっています！ 市内企業の取り組み事例

対応策
を知る

女性のヘルスリテラシー向上から 誰もが働きやすい職場づくりへ

➤ 取り組みストーリー

2016年からグループ全社で健康経営に取り組むANA福岡空港。特に女性従業員が多いことから、女性特有の疾病対策を課題の一つとして、婦人科検診の受診率アップに向けた施策展開の他、eラーニング配信等、当事者である女性従業員のヘルスリテラシー向上を図っている。将来的には性別を問わずライフステージに応じた働きやすい職場環境整備をめざす。

➤ 取り組み詳細

- 乳がん検診や婦人科ドックの費用助成
- 女性従業員向け啓発：
- 乳がんセミナーや女性の健康課題を学べるeラーニング実施
- 女性更衣室に乳房サンプル設置：乳がん予防のセルフチェックを周知

健康課題の学習を続けて 健康に向き合う風土をつくる

➤ 取り組みストーリー

創業者の「健康第一」の想いを継承し、個から組織、家族や社会へと波及する健康経営を推進。2020年以降、女性特有の健康課題に関するeラーニング配信を実施している。リテラシー向上に伴い、健康面の不調を相談しやすい職場風土が醸成されつつあり、窓口へ相談しにくる従業員も増えている。今後は、男性特有の疾患等にも広げ、性差を考慮した情報提供・サポート展開を検討中だ。

➤ 取り組み詳細

- eラーニング配信：
更年期障害や女性特有の病気等を必須受講で展開
- 女性の健康専門相談窓口の設置
- 新人社員研修での婦人科受診の啓発



ANA福岡空港 株式会社

<https://www.fukap.ana-g.com/>

福岡市博多区大字下井778-1

福岡空港内

業種／運輸業

従業員数／900名（うち女性562名）

※2024年1月1日現在



女性特有の健康課題をテーマとしたeラーニングを配信。

Gcomホールディングス 株式会社

<https://www.gyoseiq.co.jp/>

福岡市博多区東平尾1-3-3

業種／情報通信業

従業員数／594名

（うち女性134名）

※グループ配属従業員数、2024年1月1日現在



健康経営室内の相談室。従業員が気軽に相談できる場になっている。

男性従業員も生理痛を体験！ 性別を越え相互理解を図る

➤ 取り組みストーリー

九州エリアの通信事業を支えるドコモCS九州は、女性活躍やダイバーシティ推進活動の一つとして「女性の健康課題」の理解促進に取り組む。2023年度には、女性活躍推進活動のメンバーが「女性の健康課題」に着目し生理痛体験会を実施。「部下やパートナーの痛みが分かった」「配慮が必要だと理解できた」との声も多数あがった。健康課題をリアルに知ることが職場内の相互理解につながっている。

➤ 取り組み詳細

- 生理痛体験会とワークショップの開催
- フェメテックセミナーの開催：
- 月経や男女の更年期障害等を公開学習
- 女性の健康課題に関するシナリオドラマを制作しイントラネットで配信

株式会社 ドコモCS九州

<http://www.docomo-cs-kyushu.co.jp/>

福岡市中央区渡辺通2-6-1

西鉄薬院駅ビル

業種／情報通信業

従業員数／1,313人（うち女性441人）

※派遣社員除く、2023年12月31日現在



生理痛体験の様子。想像以上の痛みに驚く男性従業員も多かったという。

スタイルクリエイト 株式会社

<https://stylecreate.jp/>

福岡市中央区大手門2-2-8-201

業種／医療・福祉・人材事業

従業員数／82名（うち女性82名）

※2024年2月1日現在



「チャットサポート」から毎月ウェルネスチェックや健康情報が配信される。

※フェメテック（Femtech）とは、Female（女性）とTechnology（技術）を掛け合わせた造語で、女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスの総称。

フェメテックを活用し、 隠れた不調を未然に防ぐ

➤ 取り組みストーリー

保育事業等を展開し、ライフステージを通じて「女性が働き続けること」を支援するスタイルクリエイト。従業員8割を占める保育士の負担軽減や心身の健康管理のため、2022年からフェメテックサービス「チャットサポート」を導入。従業員が大きな不調を抱える前に未然に対応できるようになり、誰もが健康を意識して働く意識づくりや、「お互い様」との思いで助け合える職場風土が醸成されている。

➤ 取り組み詳細

- 24時間健康相談ができるLINEチャットの導入
- 全従業員対象のウェルネスチェック：
- 心身の健康状態を毎月把握できるアンケートを実施
- フリーランス保育士制度：
- スポット勤務が可能な社員をシフト配置し急な休みにも対応

②「健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査」

福岡市内事業所におけるワーク・ライフ・バランス及び女性活躍を推進するため、女性・男性特有の健康課題や不妊治療と仕事の両立等に関する現状を把握し、今後の施策に反映させることを目的に実態調査が行われた。

その内、フェムテックに関する事項について抜粋する。

調査概要

1. 調査名 健康課題等と仕事の両立に関する事業所等実態調査

2. 調査仕様

(1) 従業員調査

- ①調査地域 福岡市
- ②調査対象 市内の事業所に勤務する従業員（非正規雇用労働者を含む）
- ③調査件数 正社員 4,000 人（男女別、管理職・非管理職別）、
非正規雇用労働者 2,000 人、合計 6,000 人
- ④抽出方法 正社員 2 名（男性・女性、うちいずれかは管理職社員）、
非正規雇用労働者 1 名。加えてインターネットによる回収を併用
- ⑤調査方法 インターネット調査
- ⑥調査期間 令和 4 年 12 月 9 日～令和 5 年 1 月 31 日

(2) 事業所調査

- ①調査地域 福岡市
- ②調査対象 市内の事業所
- ③調査件数 2,000 事業所
- ④抽出方法 総務省「事業所母集団データベース（令和 3 年次フレーム）」を基に、従業員 10 名以上の福岡市内事業所を無作為抽出
- ⑤調査方法 郵送配付、郵送またはインターネット回答
- ⑥調査期間 令和 5 年 1 月 6 日～令和 5 年 1 月 31 日（調査基準日令和 4 年 11 月 1 日）

3. 有効回収数

	配付数	有効回収数	有効回収率
(1) 従業員調査	6,000 件	1,200 サンプル	20.0%
(2) 事業所調査	2,000 件	708 サンプル	35.4%

調査結果

フェムテックに関する事項について抜粋する。

(1) 従業員調査

①健康経営・フェムテックに関する認知度

■「健康経営」の認知度は 3 割未満にとどまる

「健康経営」に関する認知度（言葉や意味を）「知らない」51.9%、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」22.4%、「言葉も意味も知っている」25.7%。

■「フェムテック」の認知度は1割程度

「フェムテック」に関する認知度（言葉や意味を）「知らない」71.7%、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」14.2%。「言葉も意味も知っている」14.0%。

②フェムテック等に対する利用状況と期待度

■月経周期管理アプリは3割が利用経験あり。更年期関連の検査やサービスを利用してみたい人は4割を超える

「利用したことがある」月経周期管理アプリで37.2%、その他のサービスの利用経験は1割以下。女性ホルモンの検査49.3%（「利用したことはないが機会があれば利用してみたい」19.1%、「利用したことはないが、費用補助等あれば利用してみたい」30.2%）、更年期関連の商品やサービス45.8%（「利用したことはないが機会があれば利用してみたい」20.8%、「利用したことはないが、費用補助等あれば利用してみたい」25.0%）

■フェムテックが女性特有の健康課題の解消に役立つと思う人は6割

フェムテックが女性特有の健康課題の解消に役立つと思うか、『役立つと思う』60.8%（「とても役立つと思う」27.6%、「やや役立つと思う」33.2%）。「分からない」35.8%。

（2）事業所調査

①健康経営・フェムテックに関する認知度

■「健康経営」の認知度は3割に満たない

「健康経営」に関する認知度（言葉や意味を）、「知らない」41.1%、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」29.8%。「言葉も意味も知っている」29.1%。

■「フェムテック」の認知度はわずか1割程度

「フェムテック」に関する認知度（言葉や意味を）「知らない」68.2%、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」20.9%。「言葉も意味も知っている」10.9%。

②フェムテック等に対する導入状況と期待度

■フェムテック各種サービスは、導入したいかどうか「分からない」が6割

フェムテック各種サービスの導入状況については、全体的な傾向としては「分からない」61.5%。いずれのサービスに関しても「導入したことがある」3.0%以下。導入意向に関する全体的な傾向としては、「導入したことはないが、助成や費用補助があれば導入してみたい」18.0%。

■フェムテックへの期待度は「分からない」事業所が4割を占める

フェムテックが女性特有の健康課題の解消や健康経営の推進に役立つかどうか『役立つと思う』48.6%（「とても役立つと思う」13.4%、「やや役立つと思う」35.2%）、「分からない」44.6%。

（3）調査結果の総括

①健康経営・フェムテック等への認識と期待

従業員調査、事業所調査のいずれにおいても、健康経営の認知度は3割程度、フェムテックの認知度は1割程度が分かった。健康経営については、経済産業省において、2016年度に「健康経営優良法人認定制度」が創設されて以降は、認定される企業数も年々増加しているが、本市における認知度にはまだ課題が大きいことがうかがえる。また、フェムテックに対する期待度については、従業員と事業所の結果に差がみられる。フェムテック各種サービス（更年期関連）を利用してみたいと回答した従業員が約5割、フェムテックが女性特有の健康課題解消に役立つと回答した従業員は6割に至る一方、事業所においては、フェムテック各種サービスの導入意向では、分からないと

回答した事業所が6割、フェムテックが女性特有の健康課題解消に役立つかに関しても、分からないと回答した事業所が4割となっていた。

②本市事業の認識と行政への期待

本市の健康支援に関する各種施策・事業の認知度を確認したところ、従業員調査、事業所調査、どちらにおいても、「子宮頸がん検診・乳がん検診」に関しては過半数が認知されている一方、「健康づくりサポートセンターでの各種がん検診」や「プレコンセプションケア推進事業」では認知度がかなり低い傾向がみられる。また、行政へ望むことについては、従業員調査、事業所調査、どちらにおいても、「市民・市内企業の理解を深める」という回答が最も多い結果となっている。

③「知らせる」ことが、興味喚起と施策浸透へつながる可能性

フェムテック等のソリューションを本市内の健康課題解消の推進につなげていくためには、事業所、特に人事等管理部門担当者層の認知や理解を高めることが重要課題である。一般従業員の間では、フェムテックという言葉そのものは認知度が1割ながらも、費用等助成が受けられるなどの何らかの機会提供があれば、フェムテック各種サービスの利用が増える可能性は高い。一方、事業所の人事担当者や経営者等においては、そもそも「知らない」ということが、フェムテックへの興味喚起や期待度向上を抑制している可能性がある。より多くの従業員が、ソリューションにアクセスできるようになるには、個人での活用だけでなく、組織内での活用を広め、従業員への機会提供を増やしていくことが必要である。また、事業所が従業員の健康課題を経営課題と捉え、より効果的な施策投入を進めることができれば、本市事業所の健康経営の推進にもつながっていくはずだ。また、本市事業に関しては、特にプレコンセプションケア推進事業の認知度が1割にも満たないなど、事業が必要な人に届いていない可能性が高いため、確実に情報発信ができる工夫を行いたい。女性・男性特有の健康課題に悩む人は非常に多く、それら潜在的なニーズに対応できる取り組みであることは間違いないため、周知発信を強化し、継続的な事業施策の展開が望まれる。なお、行政の制度設計のなかで、健康課題や不妊治療を抱える従業員を確実に事業所が把握できる仕組みを整える、という点も検討に値するかもしれない。というのも、妊娠・出産に関する症状に関してのみ、管理職層も事業所側も認知や把握の状況が、他の健康課題に比べて高い傾向にあり、この結果の背景には、育児休業制度等が整備されたことで、事業所が該当する従業員を容易に把握できる仕組みになっていると考えることができる。管理職層や事業所側は従業員個人の健康課題、というプライベートな領域に踏み込んで確認がしづらい傾向もみられるため、症状を抱える従業員本人が自己申告する形で、何らかの職場の支援が受けられるような仕組みが組み込まれれば、事業所にとっても負担なく従業員の把握が進むのではないだろうか。